漫画博士読本

空想科学漫画研究所
所長　瀬戸龍哉
主任教授　山本敦司

どうしよう!? お茶の水博士はアトムが直せない…

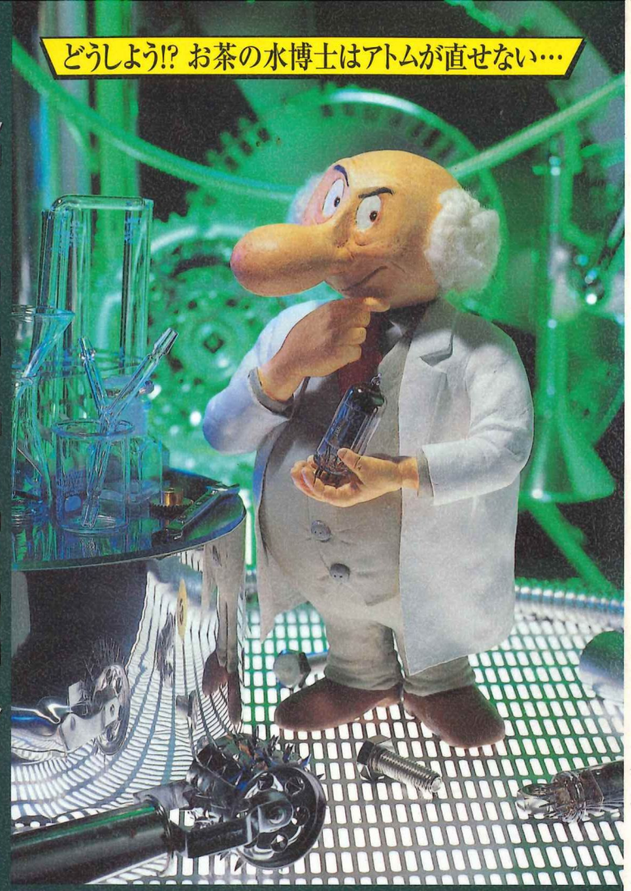
空想科学漫画に登場するさまざまな博士たちはタイムマシンや最終兵器でさえ、ほんの2〜3コマで作ってしまう。マッドサイエンティストと呼びたければ呼べ! われら空想科学漫画研究所は、愛すべき彼らを支持し、熱くエールを送る！

漫画に登場する博士たちは空想科学漫画になくてはならない名バイプレイヤーである。
しかし、少年たちに科学の洗礼を授け、輝ける科学万能の未来を夢見させてくれた、それら愛すべきオヤジ博士たちにスポットライトが当たることは少ない。
空想科学漫画研究所では、こうした状況を疑問に思い、この55年間に発表された漫画の中の博士たちを掘り起こし、その業績を顕彰するものである。

装丁　畑温(G.B.)
立体制作　山村浩二
手塚プロダクション
撮影　梶原篤浩
©手塚プロダクション

漫画博士読本

空想科学漫画研究所
所長　瀬戸龍哉
主任教授　山本敦司



空想科学漫画に登場するさまざまな博士たちはタイムマシンや最終兵器でさえ、ほんの2〜3コマで作ってしまう。マッドサイエンティストと呼びたければ呼べ!
われら空想科学漫画研究所は、愛すべき彼らを支持し、熱くエールを送る！

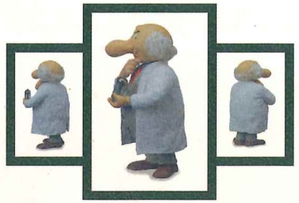
漫画博士読本

マッドな天馬博士と愛すべきお茶の水博士からすべては始まった!!

空想科学漫画研究所
所長　瀬戸龍哉
主任教授　山本敦司

宝島社

9784796615174
1920040012001
ISBN4-7966-1517-2 C0040 ¥1200E
定価:本体1200円+税



宝島社

著者紹介

瀬戸龍哉（せとたつや）
1954年、新潟市生まれ。法政大学哲学科卒だが、その大学人生のほとんどを漫画研究会の初代編集長として過ごす。のち、いろいろあって編集者兼作家となる。という具合に科学的な素養は全くない。伝説の漫画情報誌「comnavi」元編集長。なぜか三国志に詳しく、著書に「三国志武将画伝」小学館、「SUPER三国志」KKベストセラーズ、「三国志　英雄たちの100年戦争」成美堂出版、漫画原作に「諸葛孔明伝」小学館がある。

山本敦司（やまもとあつし）
1956年、東京生まれ。法政大学経済学科卒。今となっては何の役にも立たないマルクス経済を修める。同大学漫画研究会第4代編集長を務める。その後、人生いろいろあって現在は漫画評論家兼作家。著書に「漫画キャラクター精神分析極秘カルテ」青春出版社、があるかと思えば、「教科書が教えない忠臣蔵」、「徳川15将軍の事件簿」どちらも扶桑社など多数。という具合で、歴史と漫画には強いが科学には弱い独身貴族である。

漫画博士読本

空想科学漫画研究所
所長　瀬戸龍哉
主任教授　山本敦司

漫画博士読本

空想科学漫画研究所　所長　瀬戸龍哉　主任教授　山本敦司

宝島社

漫画博士読本

博士の異常な愛情――はじめのことばにかえて

（または、私たちはいかにして漫画のなかの天才博士が生みだす科学万能の夢を捨てて、ダメ博士やマッドサイエンティストを愛するようになったのか）

われら空想科学漫画研究所は、空想科学漫画をさまざまな角度から研究、検証するという、非常に世のために役立たない日本でも指折りの施設である。所員はわずかにふたり。マンガ情報誌『ｃｏｍｎａｖｉ』の創刊編集長と、同誌のメインマンガ評論家の中年コンビで構成される。しかし、雑誌の休刊とともに職を失ったふたりは、策を練って、宝島社を口車に乗せると、空想科学漫画研究所を設立させ、まんまと所長と主任教授の職を得たのである。

世の中は甘い！

中年はしぶとい！

マンガに描かれる博士たちは実にストイックでカッコイイ。よれよれの白衣にはげ頭かぼさぼさの白髪がよく似合う。ちょっとイッちゃってる目が渋い！　われわれ研究所

のふたりもいつかあんなふうな熱いじいさんになりたい。切にそう思う。その熱き思いが結実して「漫画博士読本」は完成した。

そういえば、本研究中に映画監督のスタンリー・キューブリックが亡くなった。彼の出世作に「博士の異常な愛情」という映画があった。軍部の将軍と博士が次第に狂気に走ってゆき、最後は水爆のスイッチを押す。完全に狂気と化した博士は、その水爆にまたがり、ロデオよろしく歓声をあげながら飛んでゆく。１９６０年代の映画だが、最近「アルマゲドン」という映画の中でこのシーンをギャグに使っていたので記憶に残っている人もいるはずだ。

マッドサイエンティストという言葉の響きには、笑いとともに畏怖の念が同居する。本書に登場する１００万１６８人の専門バカ、究極のオタクたちが織りなすドラマは美しい…と思いませんか？

空想科学漫画研究所

第1部　神様が創造した博士たち　9

【お茶の水博士】単なるアトムの育ての親ではない！　タイムマシンだってお茶の子だ　11

専攻は天文学だが画期的な発明を連発 13／タイムマシンで「宇宙分岐理論」を実証 17／ロボット製造技術には疑問符が!! 20／ときにはアトムにガツンと愛の鞭 22／水着、下着、ナイトウエアと、いつでもどこでもファッショナブル 24／巨大な鼻はお茶の水一族の遺伝的獲得形質？ 27／お茶の水博士の年齢にまつわるミステリー 29

猿田博士　32

猿田博士はお茶の水博士の1400年後の子孫 32／神に代わって新しい生命の創造を模索 34／老いらくの恋、160歳にして女色に溺れる 37／自然の造物主の前に敗北した猿田博士 39

【天馬博士】アトムの生みの親は生物学者で、タツノオトシゴの研究をしていた！　41

天馬博士のライフワークはタツノオトシゴの研究だった!? 43／アトムの電子制御はたった3本の真空管!? 45／細胞収縮液で宇宙人を無差別殺戮 49／エナメルシューズに表れる独特の美意識 51／アトムの願いを聞き入れ百万馬力に改造!! 53／天馬博士とアトムは運命共同体 56／博士の狂気の中にこそ天使のアトムは存在する 58

第1部付録　神様が創造した博士図鑑　61

アトム神話の博士たち 63
パブロス博士 63／ペダン博士 63／トミー 63／ゲルニカ博士（仮名）64／人爪博士 64／ドン・ペレス・プラド博士 64／Y教授 65／戸沢博士 65／フーラー博士 65／矢似鳴太 66／井塩春三 66／バリバリー博士 66／ウッズ博士 67／山田ジロウ 67／雪杉博士 67／灰戸博士 67／ポンコッツ博士 68／天川博士 68／ラム博士 68／ロッス博士 69／アブーラ博士とゴジ博士 69
手塚原理主義の博士たち 70
ノッコ 70／ナンデモカンデモ博士 70／美土路博士 71／朝雲博士とエンゲル博士 71／花丸博士 72／高野博士 72／ブラック・ジャック 72／田手上博士 73／アルベルト博士 73／プラス博士とマイナス博士 73／百万人の博士たち 74

第2部　博士黄金伝説　75

【谷博士】人知を超えた能力には理由がある　アッと驚く谷博士の正体とは!?　77

谷博士は8マンをベトナム戦争用に開発？ 79／人間の脳をエミュレートした画期的発明 82／走れ8マン、弾丸より速く！ 87／チャイナシンドロームもバケツ一杯の水で未然に防ぐ 91／8マンの光学技術は天文学にも応用可能 94／秘密研究所時代に博士に何が起こったか!? 97

【敷島博士】鉄人28号は初心者でも思いのまま！　マニュアルいらずの簡単操作!!　103

戦争が科学の発展に寄与する逆説 105／戦争遂行に積極的に加担した博士バカ 107／乗鞍岳で軍事ロボットを開発した敷島博士 109／防御を重視した敷島博士の設計コンセプト 111／特攻を賛美する人には、博士の思想を聞かせたい 113／たったひとりの戦争から帰ってみれば悲劇がそこに… 115／鉄人28号は時には娼婦のように 119

【兜十蔵博士】
天才血脈は永遠に不滅！　マジンガーZが結ぶ美しき家族の絆!! 121
ポケットマネーで巨大ロボットを造る富豪博士 123／輝ける「博士の時代」の最後の博士 125／資材の発注から納品までひとりで切り盛り 127／実験の失敗により、博士としての誇りが傷つく 129／モビルスーツという革命的な設計思想を創造 133／オビ・ワン・ケノービに先立ち死後も大活躍 138

兜剣造博士 140
ゾンビのごとくよみがえった兜剣造博士 140／十蔵、剣造親子にみる博士の深い業 141

第2部付録　**博士黄金伝説博士図鑑** 143
野津井博士 145／月見博士 145／出府野博士 145／オビ 146／牧博士 146／東博士 146／バイブル博士 146／東郷直樹 147／ゲルハルト・ハインリッヒ 147／浅岡博士 147／荷蛭妖造 147／トイレット博士 148／早乙女博士 148／シッコモーロー博士 148／小早川令次郎 149／テム・レイ 149／滝沢三郎 149／南部博士 150／ミノス博士 150／木江田博士 150／山田博士 151／丸出はげ照 151／東光太郎 151／沖博士 152／塚森博士 152／ジョージ 153／ガニ平博士 153／沖博士 154／旗竜作 154／水野博士 154／Xファイター 155／黒沼博士 155／不二博士 155／如月博士 156／水原博士 156／火鳥ジュン 156／飛鳥教授 157／司馬博士 157／久留間博士 158／ユダ博士 158／デーモン博士 159／水沢博士 159／大江博士 159／ドラグネット博士 159／不乱拳博士 160／牧村博士 160／ドクター・ヘル 160／弓弦之助 160

第3部　世紀末サイバーパンクの博士たち　161

【則巻博士】
「発明は日常を面白くするためにある」そのポリシーでアラレちゃんを造る 163
若き天才博士が造形した完全無欠なアンドロイド 165／若さゆえ悩む…博士も今青春のなかにいる！ 169／ウケをねらうために命を賭けるロボット登場 172／コンピュータ研究者の夢を実現させたアキコさん 174／博士の時へのロマンに隠された男のサガ 176／アインシュタイン理論に自らの身をもって挑戦 179

【岸和田博士】
国際法で「天才」に認定されているため、免責特権で破壊も殺戮も思いのまま!? 183
「手塚ドクトリン」から外れた岸和田博士 185／巨大人型兵器なら岸和田博士におまかせを 188／人肌兵器はNATO軍のミサイルを超えた 192／石原慎太郎東京都知事もビックリの都庁ロボ98 194／あるときは電送人間となって電話回線をさまよう 197／電脳を使えばエッチもウハウハで快感増大 199／「天才の認定」さえあれば何をしてもいいのか岸和田博士!? 201

第3部付録　**世紀末サイバーパンクの博士図鑑** 205
社礼頭毒郎 207／壊造時次郎 207／ミケネコ博士 207／Dr.八巻 208／小沢伝次郎 208／Dr.マシリト 208／ブルマ 209／ブリーフ博士 209／たけし博士 209／ドクターゲロ 209／特許特太郎 210／東京発明研究所所長 210／水道橋博士 210／バイオ研究所所長 211／動物新種改良研究所所長 211／キテレツ斉 211／ガイ・ハミルトン 212／ベルナルド・シュルツ 212／ウェブナー教授 212／ベルマイヤー博士 213／リチャード・パトリッチ 213／シンプソン博士 213／アルバトフ少将 213／ケルベロス研究所所長 214／匿名 214／屋敷ムサシ 215／宗像伝奇 215／土門竜二 215／松戸狂授 216／春田純一 216／ウルド 217／スクルド 217／暮里博士 217／雅狂志郎 218／ストレンジ　ラブ 218／多井留博士 219／田所博士 219／坂崎俊也 220／下柳 220／有田千里 220／煙草好きの科学者 221／ジュヴィナイルAのメンバーたち 221／機関屋金吾郎 222／藤井一 222／夏目久作 222／小田利マスダマス良子 223／Dr.イチガキ 223／杉田 223／成原成行 224／西脇冴子 224／西脇順一 225／津森（父） 225／パタリロ・ド・マリネール8世 225／ピース貫太郎 226／ピース健太郎 226／敵烈藤男 226／間宮善一 226／月餅 227／平間源吉 227／イド・ダイスケ 228／天馬賢三 228／錦小路はるか 229／赤木リツコ 229／蒲腐博士 230／高宮鋼太郎 230／柳沢良則 231／御茶簗図博士 231／平賀源成 232／ドクターM 232／綾小路博士 233／大沢木晴郎 233／Spirit of Wonderの博士たち　難波博士 234／ファーブル博士 234／シャーロック・スケルマーズデイル博士 235／植木田博士 235／ウィンディ・リンドヴァーバーグ博士 235／ブレッケンリッジ博士 235

空想科学年表 237

漫画博士たちが活躍した作品ファイル 249

博士さくいん 254

手塚治虫と
スタンリー・キューブリックと
ドクター中松氏に捧ぐ――。

『漫画博士読本』制作スタッフ

◆著者＝瀬戸龍哉
山本敦司

◆カバー立体＝山村浩二
手塚プロダクション

◆カバー写真＝梶原篤浩

◆装丁＝畑温（G.B.）

◆本文デザイン／DTP＝株式会社G.B.デザイン部

◆編集＝籔下秀樹（宝島社）
真瀬崇（G.B.）

第1部
神様が創造した博士たち

かつて偉大なる神が存在した。
その名は手塚治虫。
ゴッドハンドから生みだされるマンガの数々は人々を魅了し続けた。
あまたある神の創造物の中で、ひときわ光り輝く群像がある。
それが博士たちだ。
科学という神殿に発明・発見という貢ぎ物を捧げる博士たち。
神の恩寵である、空を越え百万馬力を発揮するスーパースター・アトムとともに、
博士は、ただひたすらに未来を指向する。

第①部　神様が創造した博士たち

お茶の水博士

単なるアトムの育ての親ではない！タイムマシンだってお茶の子だ

©手塚プロダクション

マンガに登場する博士をひとり挙げろというアンケートがあったとする。多分断トツの一位はこの人で決まりだ。

永遠のヒーロー、鉄腕アトムの育ての親としての認知度は圧倒的なものがある。しかし、私たちは、博士の一面しか知らないのではないだろうか。人のよさそうなおじいさん博士というイメージが強すぎるのかもしれない。

だが、それとは別の顔を持っているのである。

博士は天才的な能力を発揮し、タイムマシンを造り、脳と心の領域に踏み込んだ思考感応マシンを完成させているのである。

そうした技術力と創造性を発揮することなしに、どうして21世紀の科学省長官のポストが勤まるだろうか。

天才はどこか神秘的である。博士もその例にもれない。これだけの著名人でありながら、経歴や私生活に不明な点や謎が多いのである。

というわけで、庶民的にしてミステリアスなお茶の水博士を探っていくことにしよう。

湯川秀樹
日本初のノーベル賞受賞者。1935年、28歳のときに「中間子理論」を発表。これは陽子と中性子は中間子をやりとりして結びついているというもので、この功績により湯川氏は47年にノーベル物理学賞を受賞した。敗戦でうちひしがれていた国民に力と勇気を与え、この快挙にあやかり秀樹という名の新生児が急増。

朝永振一郎
65年に「くりこみ理論」によりノーベル物理学賞を受賞。この理論は、場の量子論の相対論的定式化を完成させた超多次元理論を展開したものだが、とてもとてもこのスペースでは説明しきれない。物理学者として、原水爆製造に対する科学者の責任について深い洞察を示した。

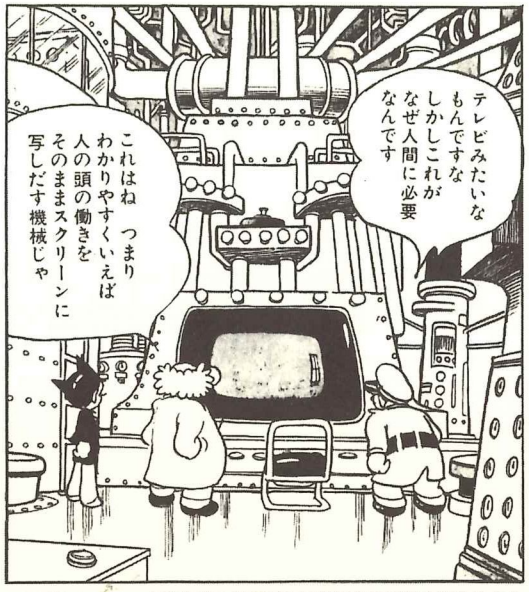
江崎玲於奈
73年に「トンネル効果」の研究実績によりノーベル物理学賞を受賞。これは、壁を隔てた片側に電磁波があった場合、反対側に電磁波が抜け出る可能性はゼロではないということを量子力学的かつ理論的に説明したもの。極論すれば、壁に向かってボールを投げれば、何億回に1回はボールは壁を擦り抜ける可能性があるというもの。にわかには信じられないのだが…。

専攻は天文学だが画期的な発明を連発

マンガ史上最も有名な博士といえば、それはなんといってもお茶の水博士である。1951年に登場して以来40年、その人気は衰えることがない。なにせ、平成11年現在でも、SOKのセキュリティシステムのCM、テレビ朝日系列の番組ナビゲーターを抱えるほどの売れっ子博士でもあるのだ。

お茶の水博士といえば、科学省長官にして鉄腕アトムの育ての親という二つの面をもっている。科学省長官といえば、行政機関の長である。つまり大臣である。よほど行政能力に優れているか、科学者としての業績がなければ、一介の博士がなれるポストではない。考えてもみてほしい。ノーベル賞を受賞した湯川※秀樹博士や朝永※振一郎博士、はたまた江崎※玲於奈博士ですら科学技術庁長官には就任していないのだ。お茶の水博士はかなりのやり手と思っていい。

お茶の水博士の専攻は天文学。アトムとの関りからロボット工学や機械工学専攻だと思いがちである。しかし、アトムストーリーの第2話である「気体人間の巻」にお茶の水博士の研究所が登場するのだが、そこにはしっかり「お茶の水天文台」という看板が掲げられているのである（講談社版手塚治虫漫画全集『鉄腕アトム』第1巻92ページ・以下同）。



▲原理としては、大脳皮質の視覚領の神経細胞の情報を映像化するものらしい。

しかし、博士のあふれる才能は、単なる天文学者としてはおさまりきらなかったようだ。以下、博士の発明を列挙していこう。

お茶の水博士の発明品として、まず、エクトサイコスコープが挙げられる。これは、博士いわく「人の頭の働きをそのままスクリーンに写しだす機械じゃ」（「電光人間の巻」2巻195ページ）とあるように、人間の思考を特殊な感応装置で映像化するものである。

電極のついたヘッドギアのようなものを被験者の頭にかぶせれば、その人の考えがそのまま巨大モニターに現れてくる。実験台にされた※中村課長が心の中で「おでんが食べたい」と念じると、ホッカホカのガンモとチクワとおジャガが鮮明にモニターにディスプレイされるのだ。

博士は、このマシンをウソ発見器の代わりに刑事捜査に応用するために開発したのであった。実際、エクトサイコスコープで巧妙に犯罪の証拠を隠蔽し続ける※スカンク草井の頭の中を覗き、悪の証拠を探りだし、有罪を立証するのである。

天文学者らしい発明品として、※人工太陽球がある（「人工太陽球の巻」7巻）。これは文字通り小型の人工太陽で、冥王星のような太陽から遠く離れた惑星の開

中村課長
『鉄腕アトム』に登場する警視庁の警部。ロボットに理解ある温情派で、アンチロボットの田鷲警部と好対照。つねにアトムをやさしくサポートする。捜査手腕を発揮するシーンは原典にはない。警察官としての能力は未知数である。

スカンク草井
ロボットマンガ史に残る名セリフ、「アトムは完全ではないぜ。なぜならわるい心を持たねえからな」で有名な手塚キャラの名悪役。ハリウッド俳優のリチャード・ウィドマークがモデルといわれる。

人工太陽球
キイボードで「私の太陽」という曲を弾くことで操作するという点が、非常にユニークである。この「私の太陽」は、超絶技巧を必要とし、さすがのアトムですら弾きこなすのに苦労している。

▲顔の部分に注目。ノーヘルだ。つまり冥王星には空気がある!?

拓用に博士が開発したものだ。しかし、残念ながら人工太陽球計画は失敗に終わる。エネルギー源として核融合を用いようとしたものと思われるが、ついに作動しなかったのである。こうしたプロジェクトに失敗はつきもの。しかし、その後のお茶の水博士の対応は、正直いっていただけない。

人工太陽球をそのまま打ち捨てておいたのである。核汚染の恐れのある危険物を廃棄したままにしておくのはあまりにもズサンであり、科学者としてのモラルが問われようというものだ。事実、人工太陽球は国際的犯罪者である金三角※が盗みだし、そればかりか完成させてしまうのである。金三角は、人工太陽球を武器に各国政府を脅す。お茶の水博士の発明はテロの道具となってしまったのだ。

もちろん、最後はアトムの活躍により人工太陽球は破壊され、金三角の野望はついえることになる。ふつう、危険物を秘密裏に廃棄するという失態を演じれば、当然スキャンダルとなり、政治生命と科学者生命は終わりになってもおかしくはない。だが、この後も、お茶の水博士は何事もなかったかのように相変わらず長官の地位にある。こうした不祥事を不問にふすことができたということは、よほどの政治力があるか、失敗を補ってあまりある才能があるかのどちらかである。

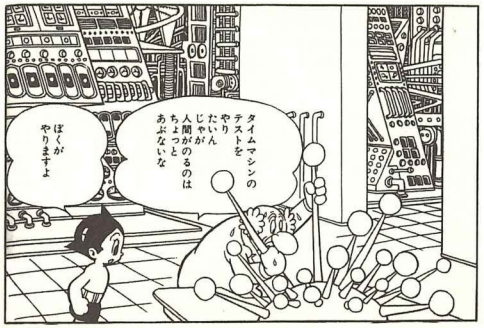
お茶の水博士の場合、後者だったようだ。※タイムマシンを発明したといえば、誰もが納得がいくのではないだろうか。

金三角
手塚キャラでは数少ない悪役専門。大組織の親分といった役柄を得意としている。モデルは手塚の小学生時代の友人といわれているが、杉作J太郎とつのだ☆ひろとマサ・サイトーを足して因数分解したような顔である。

タイムマシン
考案者は近代SFの開祖であるH・G・ウェルズ。原作のタイムマシンはスクーターのようなスタイルをしている。いまひとつ格好がよくないのである。

タイムマシンで「宇宙分岐理論」を実証

お茶の水博士は、人類の最大の夢でありSFの究極の願望である時間旅行機を、いとも簡単に造ってしまったのである。これだけの大発明をたったひとりでつくりあげたのだ。製作の描写はわずかにヒトコマにしかすぎない（「タイムマシンの巻」12巻168ページ）。



▲まるで日曜大工の延長。D.I.Yでタイムマシンを作製だ。

博士は、アトムをテストパイロットにタイムマシンの試運転を行う。アトムは1951年へ二時間をさかのぼる。着いたところは、新連載マンガの主人公が浮かばず悩み苦しむ手塚治虫の部屋。アトムの顔を見た手塚は「おばけだーっ」と叫びおののくが、そこはマンガの神様、本能が素早く「おばけ」の顔をスケッチする。こうして手塚治虫は新連載マンガ『鉄腕アトム』の着想を得た…という衝撃の事実を引き起こすのであった。

原典には、お茶の水博士のタイムマシンの

原理の説明はない。機体はレバーを操作し作動させるという、トラクターのような構造になっている。現在の物理学者たちの間で、タイムマシンの原理に想定されている超高速粒子※タキオンを使ったり、※ワームホールを利用する方式でないことは確かである。まるで乗用車を運転するように時空間を移動できる利便性は、まさに天才の名にふさわしいといえよう。

▲コックピットを見ると、かなり単純な操作性であることがわかる。

このタイムマシンは、物理学の永遠の課題でもあったタイムパラドックスにも、いとも簡単に解答を与えている。これは「※親殺しのパラドックス」とも呼ばれているもので、過去にさかのぼって自分の親を殺したら、自分という存在はどうなるのか？という問題である。

この巻で、過去にさかのぼったアトムが交通事故にあう天馬博士の息子のトビオを助けてしまうのである。そもそもアトムは、交通事故死したトビオをよみがえらせようとして天馬博士が造ったものである。ここでトビオを助けては歴史が変わり、アトムそのものがこの世に誕生しないことになる。助けた瞬間、アトムは消滅してしまうのだ。アトムは葛藤する。みすみす事故死する少年を見ていていいのだろうか…。結局ガマンしきれずアトムは飛び出し、トビオを助けてしまう。歴史は変わってしまうのか!?

いいや、歴史は変わらなかった。じつはトビオはもともとロボットだったのだ。アトムに触発され、天馬博士はトビオを10万馬力のロボットに改造したのである。アトムは改造される前の自分を助けたのであった。これは、物理学者エヴェレットが提唱した仮説である「※宇宙分岐理論／多世界解釈」を実証したことになる。タイムマシンで過去に着いた瞬間から、すべての起こりうる可能性のある宇宙が分岐して生まれるというものだ。それらの宇宙は相互作用しないため、他の世界の存在を確かめることはできない。

つまり、アトムがトビオの時代に到着した瞬間に、トビオを助ける世界、トビオを助けない世界、トビオと出会わない世界…と、ありとあらゆる世界が誕生するというのである。お茶の水博士のタイムマシンは、現代物理学の難問をいとも容易にクリアーしたのであった。

このような知の力があればこその科学省長官なのだ。少しくらいの過誤ではその地位は脅かされないのである。

タキオン
光より速いものは存在しないとされているが、理論的には質量が虚数である超高速粒子の存在も考えられる。それがタキオンである。タキオンが存在すれば、地球から放たれた光に追いつくことができるので、地球の過去の姿を見ることができるというのだ。またタキオンで物体を造れば、過去へと時間を逆行することも可能だとか。うーん、よくわからん…。

ワームホール
ワームとは「虫」、ホールとは「穴」。ワームホールで虫食い穴。穴といっても洋服の虫食いとはワケが違う。空間的に隔絶した2つの地点を結ぶ、時空の虫食い穴なのだ。だから片方の穴からワームホールに入ると、超空間を通って、瞬間的にもう一方の穴から出ることができるという。ブラックホールのような想像を超えた重力場の存在によって生まれる時空構造である。

親殺しのパラドックス
別に親を殺さないまでも、過去へ行き、母親もしくは父親と結婚して子供をつくったらどうなるのか、というのもこのパターン。ちなみに、巧妙に「親殺しのパラドックス」を回避したのが映画『バック・トゥ・ザ・フューチャー』である。

ロボット製造技術には疑問符が!!

お茶の水博士のもうひとつの顔、それはアトムの育ての親という面である。アトムの生みの親はもちろん天馬博士。天馬博士が悲劇的な最期をとげた後、後見人として、つねに暖かく、ときには厳しく見守っていく。アトムのためになることなら、できる限りのことをしてあげるのだ。

たとえば、アトムが家族がほしいと望めば、ロボットのファミリーを用意してあげるのであった。しかし、タイムマシンすら造ってしまうお茶の水博士ではあるが、どうやらロボットだけは苦手だったようだ。アトムの両親の場合、自ら製造しないで、出来合いのものをロボット小売店で買いそろえている。ただ、母親の顔を「わしのなくなった奥さんにそっくりじゃ」という理由で選ぶあたり、アトムに対する愛情の深さを感じさせ、微笑ましい。弟のコバルト※を造ったときは、もっと切羽詰まった理由からだった（「コバルトの巻」3巻）。

ロボット爆撃機が水爆を積んで日本近海に墜落、水爆の起爆装置を外さなければ、日本は大惨事に襲われる事態にいたる。その危機を救えるのは、われらがアトムだけ。しかし、肝心のアトムは家庭不和とイジメがからんで家出状態。どうやら、21世紀になっても、家庭崩壊とイジメには歯止めがかかっていないようだ。

宇宙分岐理論／多世界解釈
この理論を上手にエンターテイメント的に消化したSFミステリーに、明石散人の「鳥玄坊シリーズ」（講談社ノベルス）がある。

▲コバルトを造るには造ったが、自信のなさが表情に…。

アトム不在では、この危機を回避する手立てはない。

ここで手をこまねいているようだと、科学省の危機管理能力を問われてしまう。お茶の水博士は重い腰をあげ、第2のアトム「コバルト」の製作にとりかかるのであった。科学省の技術を総結集して見事完成させる…のだが、悲しいかな、アトムほど精巧な出来ではなかったのである。

お茶の水博士はコバルトの性能を試験する。3649×125はいくつか。暗算3級のテストのレベルである。さらに家庭用目覚し時計の分解を命じる。水爆の起爆装置を時計に置き換えるのは少しどころか、大いに疑問だが…。

ところが、驚くべきことに、コバルトは時計の分解すら「ぼくにはできません!」と泣きをいれる始末。なんという不器用。これでは日本は滅亡だ…という絶体絶命の瞬間、家出からもどったアトムの活躍によりカタストロフは回避され

コバルト
手塚治虫漫画全集版『鉄腕アトム』では弟となっているが、雑誌「少年」連載時は兄だった。おまけに「少年」版では「ミドロが沼の巻」で自爆してしまい、お墓までできているのだ。しかし、全集版では、無事命を永らえるように手が加えられている。

るのであった。

このことからも、お茶の水博士のロボット製造能力には疑問符がつくといわざるを得ない。

ときにはアトムにガツンと愛の鞭

お茶の水博士はアトムに対して甘いだけではない。ときにはガツンと厳しくでることもある。

▲アトムが人間の心をもったかどうかを紙風船を割って試すとは、じつにプリミティブではないか。

たとえば、スカンク草井のような一筋縄ではいかない悪党を相手にするときなど、アトムの単純な正義感では太刀打ちできず、むしろ、捜査の邪魔になることもある。そんなとき、博士は電子銃を手にして「どうしてもわがままをいうならおまえの電子頭脳をこわすぞ」と、かなり高圧的な態度にでることも（「※電光人間の巻」2巻184ページ）。

電光人間
P・Hガラスでできている透明ロボット。偏光を使うと美しい虹のように光って見える芸術品のような美しさを誇る。性別でいえば男なのだが、「イヤン」が口癖の妖しい魅力をもつ。アトムストーリー屈指の名ロボットである。ちなみに、この作品は石ノ森章太郎がペンを入れた作品ということでも有名。

さらに、アトムが「心に潤いがほしい、人間並みの心がほしい」と訴えると、ピシャリと「いかん」とカミナリを落とす（「アルプスの決闘の巻」115ページ）。このときはアトムの懇願に負け、人造心臓をセットしてあげる。その結果、潤いとともに恐怖心も持ってしまい、敵のロボットを前にして、恐怖のあまりガタガタ震えて手も足も出ないことになる。アトムが弱虫になってしまうこのシーンは大変珍しいので一見に値する。結果としては、お茶の水博士の叱責は正しかった。アトムを思うがゆえの愛の鞭である。

▲アトムの危機にはつねに登場。自分の役割をよく理解している。

もちろん、鞭ばかりでないのはいうまでもない。アトムが危機に陥ると、しばしば、いずこからともなく現れる。ロボットを憎むグラービア国の秘密結社※デッドクロスによってアトムが破壊されたときなどは心憎いばかりだ（「デッドクロス殿下の巻」8巻）。こんな具合に。

壊れたアトムのところにいきなり登場

デッドクロス
総統のデッドクロス殿下は、大統領になる野望を秘めていた。そのために手足のように働くロボットを造る。しかし、それがあまりに優秀なため、ロボットでありながら大統領に当選してしまうのだ。そのためデッドクロスはロボットを激しく憎むようになる。レイシズムとマイノリティの問題に挑んだアトム屈指の問題作だ。

するお茶の水博士。しかも異国の地。あまりに突然のことに「どういうわけで急にここへわいて出たんです」と、まるでウジ虫扱いをするヒゲオヤジにピシャリとひとこと。

「わしの出る幕がないと、わしのファンがおこるからな」

自分の役回りをよく知っているではないか。きっとアトムに発信装置でもついていたのであろう。でも、そんなことはくだくだ説明せずに、ファンのことを口にする。なかなかどうして、じつにダンディーだ。

水着、下着、ナイトウエアと、いつでもどこでもファッショナブル

実際、博士のダンディズムはファッションセンスにも現れている。お茶の水博士のファッションセンスは侮れないものがあるのだ。

ふだんは科学者らしく白衣を着ていることが多いが、それでもセンスがキラリと光る。ネクタイに対するこだわりがスゴイのだ。二日と同じネクタイはしない。それどころか、同じページの同じシーンでネクタイの柄がコロコロ変わることすらある（「電光人間の巻」2巻206ページ）。電光人間を電磁分解銃で攻撃しようという緊迫した場面でそうなのだ。危険な展開でもこの余裕、つねに何本かのネクタイを用意しているのだろう。見上げたダンディズムである。なお、お気に入りのネクタイ柄は水玉模様のようである。

▲クラシカル・エレガンスという言葉がピッタリのトラッドなスイム・ウエア。

さらに白衣にしても、スタンダードな白衣以外にも、襟のない白衣、たとえていうと、ビートルズが愛用した襟※なしスーツ（リバプールスーツ）の白衣版といったところを愛用している。科学者というと、薄汚れた白衣と相場が決まっているが、ファッションにそこまで気を使っているとは、かなりの洒落者である。

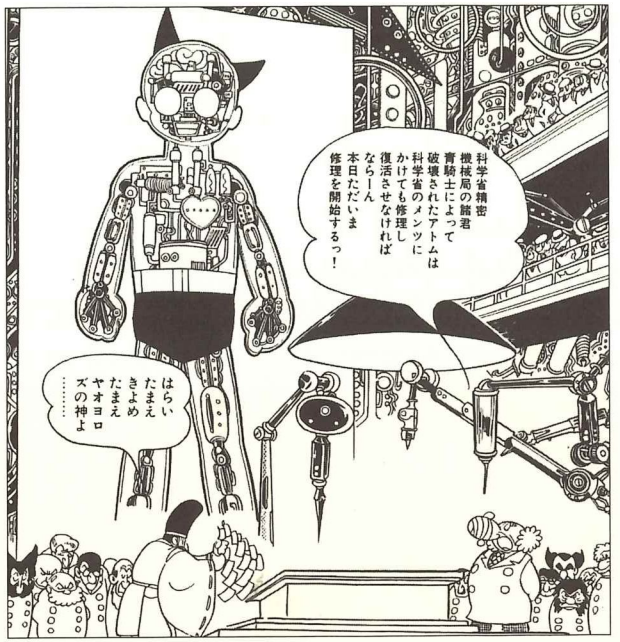
ちなみに水着もアンティックなショルダースタイルを着用し、下腹の出たスタイルを巧みにカヴァーしている（「ウランちゃんの巻」8巻49ページ）。おまけにスイムキャップと水着をストライプでコーディネイトしているあたり、専属のスタイリストでもいるのかもしれない。

ナイトウエアも年齢に似合わずネグリジェスタイルを愛用。ナイトキャップもしっかり着用している。もっとも、毛髪は側頭部にしか残っていないので、

襟なしスーツ
ビートルズの着用により、襟のあるスーツは過去のものとなろうとまでいわれたが、結局は一過性の流行に終わる。長髪のように定着はしなかった。

防寒が目的と思われる。下着もブリーフ派だ。

また、ダンディーな反面、意外と信心深いところもある。科学省の屋上には神社が鎮座していて、困難な事態に陥ると、神頼みをするのである。科学者らしくないと批判するヒゲオヤジ※に対して、人事を尽して天命を待つのだと反論したりもする（「コバルトの巻」2巻95ページ）。ガチガチの科学万能主義者ではないようだ。そのさい、南無妙法蓮華経と太鼓を叩くヒゲオヤジを「うるさい」と叱りつけ、静かに南無阿弥陀仏の6文字を唱えているところから、宗旨は日蓮宗ではなく浄土真宗と思われる。アトムの修理をする前には神官によるお祓いも欠かさない（「アトム復活の巻」15巻166ページ）。神仏混淆のようだ。



▲官公庁における宗教行為は違法のはず。後で問題にならなかったのだろうか。

ヒゲオヤジ
本名・伴俊作。手塚キャラの一枚看板。若ハゲ若シラガの威勢のいい江戸っ子だ。『鉄腕アトム』ではアトムの学校の先生役だが、おもに正義派の私立探偵を得意な役柄としている。『ブラック・ジャック』では珍しく悪役も演じている。

巨大な鼻はお茶の水一族の遺伝的獲得形質？

お茶の水博士の外見上の特徴といえば、なんといっても、巨大な鼻である。博士のトレードマークといっていい。なにしろ、宇宙服を身につけるときでも、ヘルメットは特注で鼻のスペースが十分にとってあるのだ（「黄色い馬※の巻」3巻105ページ）。また、アトムを修理するさいも、頭部ばかりか鼻にまでヘルメットを着用して安全をはかっている。鼻による逆立ちを特技としているほどである。いみじくも、敵の凶弾が鼻をかすめたとき博士はこう叫ぶ（「地上最大のロボットの巻」

▲ヘルメットは特別注文。どこにいてもすぐに博士と特定できる。

黄色い馬
宇宙塵を原材料にした麻薬のこと。麻薬団により、お茶の水博士はヤク中毒にさせられてしまう。博士が「薬、薬をくれぇ～」とジャンキー状態になった珍しいシーンが展開される。

13巻67ページ)。

「わしの命より大事なハ、ハナを…」

ここまで大事に思われている鼻が、はたしてこの世にあるだろうか。

しかし、お茶の水博士にとって、鼻はシンボルであると同時に、ときには弱点にもなるのでる。あまりにもデカイ鼻は、かっこうの攻撃目標となる。ことあるごとに、鼻は殴られ、踏まれ、つかまれ、臏(なぶ)られる。あろうことか、アトムにすらぶん殴られることもあるのだ。100万馬力のパンチを喰らってはたまらない。みるみるうちに鼻が腫れていき、ついには等身大にまで肥大してしまうのであった。

博士の鼻はデリケート。殴られればヒビが入り、緊張すれば冷や汗が流れ落ちる。心が動揺すればシューシュー気体を吹きだし、ビックリすればソケットのようにはずれ、驚愕すれば鼻がロケットのように飛んでいくのである。まさに鼻は生きているのである。

でも、ときに鼻は逆襲に出る。鼻で左右フックの乱れ打ち。ハンマーよろしく鼻で人間を杭打ちにしてしまうのだ。こんなとき、鼻はリーサル・ウェポンになるのであった。

この巨大な鼻は、お茶の水一族の遺伝的特徴のようだ。それが証拠に、22世紀からタイムマシンにのってやって来た博士の子孫も、見事に大きな鼻の持ち主なのである(「テストパイロットの巻」3巻)。未来人は博士の曽孫にあたり、同じく科学者であった。科学への探求心はDNAとなってお茶の水一族に脈々と受け継がれていったようである。

お茶の水博士の年齢にまつわるミステリー

子孫がいるということは、亡き夫人との間に子供をもうけていたことになる。博士の経歴も気になるところだ。

リサーチしてみると、意外なことに気づく。お茶の水博士の年齢がハッキリしないのである。生年月日が明確に特定できないのだ。

いちおう公式発表は68歳ということになっている。敵の目を欺くため、博士の死を擬装したことがあった(「火星から来た男の巻」18巻)。そのときの新聞記事に「科学省長官心臓マヒで急死(年六十八)」とあることからも、オフィシャルには68歳である。アトムの時代設定である2003年に68歳ということは、※生年は1935年(昭和10年)である。二・二六事件や阿部定事件の前年であり、天皇機関説が問題となった年だ。白髪で禿げ上がった頭部、恰幅のいい体型、肌の張り、動作の緩慢さ、しゃべりのペース、それらを総合すると、68歳というのは

生年は1935年
10歳のときに敗戦を迎え、25歳のときに安保闘争に加わり、35歳のときに大阪万博に参画し、50歳のときに筑波科学万博を主導し、60歳のときにオウムのサリン事件に対応…といった人生を歩んできたのかも。

▲博士はテロの標的にされる恐れが。そのため、この絵のような口ボットの影武者を用意。

である。「うわっ二十年ぶりだ！　むかしわしといっしょにペンシル大学で落第した男じゃよ」。ということは、20年前は大学生だったことになる。だが、68歳の20年前といえば48歳だ。この年で大学落第というのも奇妙な話だ。反対に20年前が大学生だったことを事実と仮定すると、２００３年現在で40歳代ということになる。すると、生年は１９６０年前後。皇太子殿下と同世代だ。しかし、40代というには、その外見はあまりに老成している。

さらに異説が存在する。「テストパイロットの巻」（前述）では、博士は未来から来た曽孫の「いまは何年？」との問いに、ハッキリと「２０５６年９月です」と答えているのだ。アトムストーリーの時代設定は２００３年からの数年というのが定説になっている。しかし、ここでは博士は２０５６年といっている。この間のタイムラグはどう解釈したらいいのだろう。

妥当なところと思われる。

しかし、これには異論がある。

「幽霊製造機の巻」（4巻）では、旧友のパブロス博士からの手紙を見て博士はこう叫ぶのだ。

幽霊製造機
生細胞のＤＮＡではなく、空気元素を使ってクローン人間を造る画期的な機械。この研究に関しては、お茶の水博士はパブロス博士とともに世界的な権威である。

▲新聞発表では68歳。その死はかなりのスペースで報じられた。

考えられることはふたつ。子孫と対面して気が動転したあまり、つい誤ったことを口走ってしまったか、それとも、博士が自らの発明したタイムマシンで２００３年から２０５６年に時空移動していたかのどちらかだ。後者だとすると、お茶の水博士はタイムマシンで行った未来において、同じくタイムマシンで過去にやってきた曽孫とめぐり会ったことになる。未来と過去との邂逅（かいこう）である。天才一族なればこその快挙といえよう。

いろいろ異論や異説はあるようだが、ここでは定説通り68歳と考えるのが合理的と思われる。

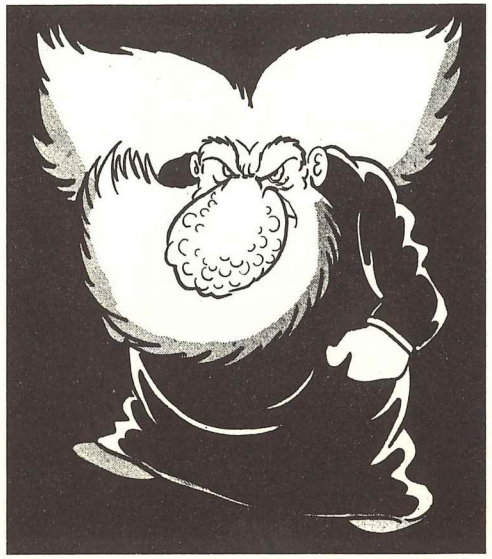
猿田博士

猿田博士はお茶の水博士の1400年後の子孫

22世紀のお茶の水博士の子孫も、やはり博士であることはすでに述べた。血は水より濃いというが、お茶の水博士の血は特に濃密、濃い口だ。22世紀の子孫ばかりではない、はるかはるか未来、35世紀の子孫も博士だからである。

その人の名は、猿田博士。

※『火の鳥未来編』で重要な役回りを演じる科学者である。猿田博士は、機械工学、バイオテクノロジーの分野を中心に、人工生命の探究や人間型ロボットの製造に非凡な才能を発揮する。天才の血は35世紀にまで継承されているのであった。



▲白衣ではなく、黒い僧服に身を包む。異形の博士である。

『火の鳥未来編』
手塚治虫の代表作である『火の鳥』の、一番の未来部分にあたる。ラストがまた始めにもどる循環形式になっていて、手塚の宇宙観を表している。ナメクジのアダムとイブの出現には度肝を抜かれる。

お茶の水一族は科学者としての血が濃いばかりではない。そのDNAも強い。1400年もの年月がすぎても、外見上の特徴が受け継がれているからだ。まず、鼻が異様にでかい。体型はずんぐりむっくりの肥満体質。そしてみごとな白髪。藤圭子と宇多田ヒカル母娘よりも似ているのではないだろうか。

だが、外見の相似とは反対に、その内面はまるっきりの対極にある。

お茶の水博士を陽とするなら、猿田博士は陰。オプティミストなお茶の水博士に対してペシミストな猿田博士。ドン・キホーテタイプのお茶の水博士VSハムレットタイプの猿田博士。お茶の水博士が社交的でヒョーキンなら、猿田博士は非社交的でネクラ。見事なまでに対照的だ。

そうした違いは何によるのか。思うに、生まれた時代背景に原因があるのではないだろうか。

猿田博士が生きていた※35世紀の地球は病んでいた。地上は荒れ果て、動植物も次々と絶滅。わずかに魚や虫や小動物が生き残っているだけ。動物どころか人口も激減していった。

希望を失った人類は地上に見切りをつけ、地下都市に逃げ込み、そのうえ統治

35世紀
『火の鳥』の地球年代記によると、人類は25世紀に繁栄の絶頂を迎える。だが、それ以後、科学も文明も衰退の一途をとげ、31世紀には21世紀ころの文明にまで後退してしまう。

すら巨大※コンピュータに委ねてしまっていたのだ。35世紀の人類は、絶望の淵の中を生きていたのである…。

く、暗い。夢も希望もない。人類の未来ってこんなにお先真っ暗なものなのか。そうした望みなき時代の科学者の苦悩は、幸福な21世紀のお茶の水博士にわかろうはずがない。

猿田博士は誠実な科学者だった。人類の危機を前にして、地球の病巣をえぐりだし、生命を再生させることを誓ったのだ。猿田博士の魂の叫びに耳をかたむけてあげてほしい。

「ほっとけばいっさいの生物が滅んでしまうじゃろう。だが……この地球から生命を消してはならんのだ!!　生きものは…りっぱにこの地球の上で生きつづけなければならないんじゃ!!」

そのために、博士は人工生命創造の研究に一身を捧げたのだ。気がついたら、猿田博士は160歳になっていた。

神に代わって新しい生命の創造を模索

猿田博士は、若いころより星から星へと遍歴し、あらゆるかたちの宇宙生命についての調査と分析を重ねていた。ある程度研究をまとめたところで地球に

巨大コンピュータ
地底都市ヤマトの統治コンピュータ・ハレルヤと地底都市レングードの統治コンピュータ・ダニューバーは機械のくせに感情的な口ゲンカを始め、ついには核戦争を引き起こしてしまう。

▲人造生命はカプセルの中でしか生きられない、はかない生命。

舞いもどるが、地底都市の生活を嫌い、仙人のようにたったひとりで地上のドームで生活していたのである。

博士の夢はただひとつ。その手で生命を創造することだった。

合成蛋白質から一種のコロイドをつくりだし、疑似生命を生みだすところまではこぎつける。

すでに絶滅した馬や犬、猫、猿、ライオン、虎、熊などを人造細胞からつくりだし、人造子宮カプセルの中に再現したのであった。

哺乳類をあらかた作り終えた後、ついに人間の創造にまでおよぶ。

人造細胞でできた人間は下半身は毛に覆われていることと、人工羊水内でヘソの緒がカプセルと結ばれていること以外は、まったく人間と同じだった。自分の頭

で思考し、言葉を話す。この人造人間は名をブラドベリイといい、ゲーテの「若きウェルテルの悩み」の読書感想を述べるほどの高い知能をもっていた。そこらの学生さんより偏差値は高いとみた。

▲博士160歳にして恋に目覚める。お相手は不定形生物のタマミ嬢。

ちなみに、猿田博士はこれらの動物にすべて名前をつけているのだが、ブラドベリイをはじめ、レム、ウインダムと20世紀のSF※作家の名前なのが微笑ましい。博士の読書傾向がうかがわれる。

猿田博士の技術はかなりのレベルといえよう。クローンやヒトゲノム※どころではなく、無から人工細胞によって知性体を生みだしたのである。これで地球も安泰だ…と安心するのは早計だった。

博士の人造生命には致命的な欠

SF作家
ブラドベリイの『華氏451』は、F・トリュフォー監督で映画化されジュリー・クリスティの美しさが印象的だった。レムの『ソラリスの陽のもとに』はA・タルコフスキー監督によって『惑星ソラリス』として映画化。首都高・羽田線が未来都市のイメージとして使われ笑いを呼ぶ。ウインダムの『トリフィドの日』はS・セクリー監督で『人類SOS』という邦題で公開された。題名はひどいが内容はSFマインドにあふれた佳作。

ヒトゲノム
人間のもつすべての遺伝情報を解析し、遺伝子による設計図を読み取ろうというのが「ヒトゲノム解読計画」である。遺伝子情報が明らかになれば、病気の治療に活用できるなどの利点がある反面、人工中絶とのかねあいや差別を助長しかねないなど、問題点も多い。

点があった。

人工生物は外気にふれると死んでしまうのだ。人造子宮の人造羊水の中でしか生きられないのである。人造人間ブラドベリイも、外の世界に出たところで細胞が崩壊し、アッという間に溶解。あえない最期をとげる。カプセルの中だけのつかの間の生命だったのである。

1世紀半にもわたって研究を続け、それが報われないとなると、誰だって気持ちがすさもうってもの。しかも、博士はもう160歳と、余命はすっかりカスカスである。そうしたとき、人間は目先の享楽にはしる。よくあることである。

猿田博士の場合、研究が行きづまったため、美女に走ってしまったのだ。博士がイレこんだのは曽孫のような若い娘。名はタマミ。ウェービーロングでお目目くりくり、ウエストは推定50センチ。まるで花のよう。やわらかな風にも負けて折れそうな美女である。

老いらくの恋、160歳にして女色に溺れる

話は複雑になるのだが、このタマミ、じつは人間ではなかった。正体は不定形生物ムーピー※と呼ばれる宇宙生物。それが人間の女性に変形したものだったのである。

不定形生物ムーピー
シリウス十二番惑星に棲息。不定形生物なので、動物植物なんにでも変身可能。そのうえ、人間に幻覚をみせる特殊才能をもっていたので広くかわいがられる。だが、この幻覚作用は麻薬と同じということで当局の忌避にふれ、1匹残らず殺されてしまう。タマミはムーピー最後の生き残り。

▲博士こそ究極のオナニスト。オナニーイメージは「外部」化してはダメだということか。

いくら外見はピチピチギャルだろうが、正体はブヨブヨした不定形生物じゃないか。猿田博士もモノ好きだなぁ…との感想をもらした人は幸せである。博士の深い哀しみとは無縁の人である。

猿田博士は、なんと彼女いない歴160年。ギネスものだ。生涯ただの一度も恋愛をしたことがなかった。恋愛どころか女性と心の交流すらもったことがなかったのである。

それもこれも、すべては巨大な鼻に原因があった。すべての女性は博士の鼻を忌み嫌ったのだ。実の母親でさえ、気持ち悪がって遠ざけたという。お茶の水博士も確かに鼻が大きかった。しかし、猿田博士の場合、大きいうえに肌アレ吹き出ものが著しく、大変インパクトが強かったのだ。

博士の助手[※]であるロボットにさえこういわれる始末。

「ロボットデアルワタシガミテモ……ドウモビダンシトハオモエマセン。アンナミニクイカオノニンゲンガイルトハフシギデス」

ロボットのくせにそこまでいう？　博士は何度も整形手術を受けたが少しもよくならなかった。35世紀の医療技術はそんなこともできないのかという気もするが、文明も技術も退化していたので、それが現実だったのかもしれない。

いつしか博士は醜貌（しゅうぼう）コンプレックスに陥り、女性に近づくことすらできなくなってしまったのだ。

博士はそのため、ロボットで何人も何人も恋人をつくり妻をつくり愛人をつくった哀しい過去があったのだ。でも、ロボットの愛人だなんてうまくいくわけがない。かわいさあまって憎さ百倍。たくさん造ったロボットの愛人たちをひとり残らずロボット爆弾に改造してしまったのだ。猿田博士、極端である。モテない男の悲哀、ここに極まれり。

結局、猿田博士は、人工生命創造の夢を果たせぬまま死んでいく…。

自然の造物主の前に敗北した猿田博士

猿田博士は死んだ。だが、これには後日談がある。

助手のロボット
名前はロビタ。ずんぐりむっくりなスタイルが特徴的。ロボットなのに人情の機微に通じている。それもそのはず、驚くべきことに昔は人間だったのだ。その顛末は『火の鳥復活編』に描かれている。『スター・ウォーズ』のR2D2のフォルムはこのロビタがモデルという説もある。

死を前にして、博士は研究の続きを山※之辺マサト（『火の鳥未来編』の主人公）に託す。山之辺は博士の意志を継ぎ、人工生命の研究に打ち込む。しかし、数千年もかけて（山之辺は火の鳥によって不死の体になったのだ）研究に没頭するが、ついに完成をみることはなかった。

山之辺は人工生命をあきらめ、悟りを開く。

生命を創造する方法はただひとつ。自然のなりゆきにまかせることだけ。

山之辺は、海に向かって炭素と水素と酸素の混ざった有機物を投げ込む。

有機物はやがて水にとけてコロイドとなり、長い長い年月の間に原始生命を形成していくのだった……。

大自然にまかせるしかなかったのだ。生命をコントロールしようというのは、人間の思い上がりだったのである。

猿田博士が生涯をかけた研究はすべて徒労だった。しょせん科学は自然の前には無力だった。猿田博士は神の領域に踏み込もうとして、きっぱりと拒絶されたのである。

山之辺マサト
元は冷淡なエリート戦士だったが、ムーピーによって人間性に目覚める。タマミの死後、一時ペットロス症候群に陥るが、火の鳥の励ましにより回復。人類再生という重大な任務を全うする。

第①部　神様が創造した博士たち

天馬博士

アトムの生みの親は生物学者で、タツノオトシゴの研究をしていた！

©手塚プロダクション

天才と狂気は紙一重とはよくいったもの。この人のためにあるような言葉だ。
天馬博士はふたつの顔を使い分けていた。優秀な官吏として日本の科学行政をリードしつつ、その裏では秘密警察を組織し悪行をくりかえす。科学を善悪両面で使いこなしていたのだ。
あるときは、天使のような細心さで鉄腕アトムを創造する。アトムはロボットというより、ひとつの芸術作品と表現したほうがいい傑作だ。
だが、あるときは、悪魔のような大胆さで宇宙人の大量虐殺を計画する。そのために細胞収縮液を使って無慈悲に宇宙人をチリやゴミにしてしまう。
博士は現代科学を象徴するような存在といえよう。
結局、博士はアトムに背かれ、自ら細胞収縮液を浴びて自滅してしまう。
現代科学は博士の轍を踏んではいけない。そうならないためにも、博士の失敗を教訓にする必要がある。

天馬博士のライフワークはタツノオトシゴの研究だった!?

鉄腕アトムの育ての親がお茶の水博士なら、生みの親は天馬博士である。アトムこそ天馬博士の創造した科学テクノロジーの最高傑作である。博士の科学的業績のすべては、ひとえにアトムを完成させたことにある。

しかし、博士の履歴を調べてみると、意外なことに気づかされる。なんと、専門は機械工学でもなければ、ロボット工学でもないのだ。博士の研究テーマは生物学。それも海馬、つまりタツノオトシゴの研究がライフワークだったのである。テクノロジーの粋を究めたアトムとタツノオトシゴがどうにも結びつかないのだが…。

意外なのはそれだけではない。天馬博士は科学者というよりも役人的色彩が強いのである。博士は優秀な行政官なのであった。論より証拠。科学省長官時代のプロフィールを挙げてみよう（※光文社文庫版『鉄腕アトム』1巻39ページ）。

ひのえうま年生まれ
群馬の人
本名午太郎

光文社版文庫『鉄腕アトム』
天馬博士のプロフィールは、講談社手塚治虫漫画全集版『鉄腕アトム』には載っていない。光文社版には、のちに手塚治虫が新たに描き加えたエピソードが多いので興味深い。

家は代々馬鈴薯さいばいをいとなむ
練馬大学を卒業後　馬力に馬力をかけ
うまく※高田馬場にある科学省任官試験に
ダーク・ホースとしてパスした
海馬の研究では博士の右に出る駒はない
ついに科学省長官に出馬
いまに馬脚をあらわすなどと
ヤジ馬に馬鹿げた下馬評をされている

キャリアとしては、文句なしののエリートである。ひのえうま生まれということは1966年生まれ。国生さゆりと同じ年だから、いわゆるおニャン子世代だ。きっと※会員ナンバーがソラでいえるのだろう。

ちなみにこの年はウルトラマンの放映開始の年でもある。幼年時には円谷プロの特撮に夢中になったことは想像にかたくない。※ウルトラシリーズで科学の心を植えつけられたものと思われる。

大学入試は84年。現在のセンター試験の前の制度だった共通1次試験の世代である。練馬大学というあまりメジャーでない大学に入学後、I種国家公務員試験を受け見事合格。大したものである。

それだけでも驚嘆に値するのに、東大が幅をきかす官僚の世界で、科学省長官の座を射止めたのだ。ふつう官僚の最高ポストは事務次官だ。それを科学省長官、つまり大臣ポストまで手に入れたのである。ひとなみ外れた努力と研究を重ねたことだろう。

しかし、猛烈な省内競争を勝ち抜いたのだから、キレイごとばかりですんだとはとうてい思えない。当然、出入り業者によるノーパンしゃぶしゃぶの接待攻勢を受けたであろうし、上役や政治家への付け届けや裏工作も怠りなかったはずだ。科学者というよりは、出世に邁進する高級官僚といった趣きである。

だが、出世が早ければ、そのぶん敵も多い。「いまに馬脚をあらわす」といわれるように、かなり足を引っぱられていたことは間違いない。

高田馬場
東京の地名。長年手塚治虫が仕事場にしていた手塚プロがある。高田馬場駅のガード下には、手塚キャラが数多く描かれた壁画もある。

会員ナンバー
主な会員ナンバーは以下の通り。4番新田恵里、11番福永恵規、12番河合その子、16番高井麻巳子、29番渡辺美奈代、36番渡辺満里奈、38番工藤静香。

▲「少年」連載時の表紙。タイトルも「アトム大使」だった。

ウルトラシリーズ
60年、70年代のウルトラシリーズの放映は次の通り。66年ウルトラQ、ウルトラマン。67年ウルトラセブン。71年帰ってきたウルトラマン。72年ウルトラマンエース。73年ウルトラマンタロウ。74年ウルトラマンレオ。天馬博士はきっと心ときめかせ、これらの作品を観たことだろう。

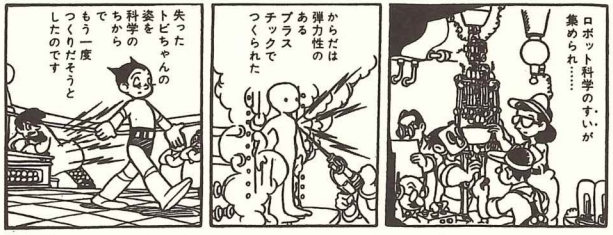
アトムの電子制御はたった3本の真空管!?

出世欲の強いキャリア、そしてタツノオトシゴの研究者である天馬博士が、ではなぜ科学技術の粋を究めたアトムを造るにいたったのか。その経緯はこうだ。

博士にはひとり息子がいた。名は※トビオ。博士はこの子を溺愛していた。小学生なのに最新のエアーカーを買い与えるほどだ。しかし、この親バカが悲劇を呼ぶ。無免許運転のトビオは案の定交通事故をおこし、死んでしまうのである。博士の嘆きは尋常ではなかった。母親の姿が見えないことからも、父ひとり子ひとりだったのだろう。

絶望の淵に沈んだ天馬博士はある決意をする。トビオをロボットで甦らせようというのだ。こうして科学省の最高技術を結集して世界にふたつとない芸術品、アトムができあがったのである。

この際、博士の天才性がいかんなく発揮された。アトムを製作するにあたって、博士はたったひとりでアトムの設計コンセプトを決めたのだ。それも、我が子を失った悲しみのあまり明らかに精神に異常をきたした状態で。しかも酒を飲みながらちょちょいのちょいで（講談社版手塚治虫漫画全集『鉄腕アトム』1巻23ページ）。生物学者がスーパーロボットをホロ酔い状態で設



▲職権濫用ここにきわまれり。よく問題にならなかったものだ。

トビオ
光文社版のプロローグでは、漢字で飛雄となっている。天馬飛雄。姓名判断によると35画、活発で自主性に富む。長寿、とある。ちなみに配列を変えると天飛雄馬。事故死しなければ、巨人軍で魔球を投げて活躍しそうな名だ。

計してしまうのである。まさに神がかっている。

完成作品も科学の常識を大きくはずれている。信じられないことではあるが、電子制御に真空管を使用しているのだ。IC（集積回路）やLSI（大規模集積回路）、※超LSIなどの固体素子なんて論外。半導体どころか、トランジスターですらないのだ。アトムの胸の中には、金属のフィラメントが詰まった長さ10センチほどの真空のガラス管が納まっているのである。

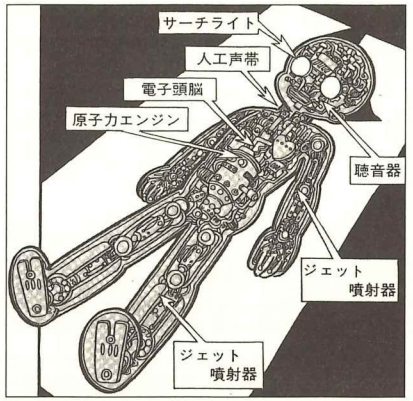
真空管といっても若い読者にはなんのことやらわからないかもしれない。かつて使われていた電子装置のことで、性能はトランジスターや半導体よりはるかに劣る。アメリカはペンシルバニア大学で作られた※最初の計算機には真空管が使われているのだが、その数じつに1万8800本。所要電力120キロワット、重さ30トン、さらに稼働するためには24馬力の冷却装置が必要だったのだ。たかだか電卓程度のものを作るのですら、真空管を使うと、これだけの大装置となったのである。

それなのにだ。天馬博士はたった3本の真空管でアトムの電子制御をまかなったわけ。あえてアナクロ技術を駆使して最先端のロボットを造るとは。恐るべし天馬博士！

ここで、アトムの性能を列挙してみよう。歌にも歌われ、広く知られた7つの

超LSI
超LSIの開発に世界で初めて成功したのは日本の技術陣（77年）。6ミリ角のケイ素単結晶に15万6000個ものトランジスター、コンデンサー、抵抗などが組み込まれているもので、64キロビット、かな文字8000字分の情報がおさまった。

最初の計算機
46年に造られたもので、第一世代コンピュータと呼ばれている。ちなみにこの1万8800本の真空管による機能は、現在の数ミリ角のLSIチップ1枚分にあたる。



▲エネルギーはおしりから注入。ちょっぴり卑猥。

威力だ。

・ジェット噴射で空を飛び、宇宙ではロケットにきりかわる。
・60ヵ国語を自由にあやつる。
・人間の心の善悪を感じとる。
・人間の一千倍の聴力がある。
・目がサーチライトになる。
・おしりからマシンガンがでる。
・力は10万馬力。

とても酔っ払いが設計したとは思えない性能ではないか。ましてや真空管制御だ。生身の息子を再現しようとして、ここまでロボットっぽい余計なスペックをつける神経はよくわからない。

しかし、天才とは往々にして気まぐれなもの。せっかく造ったアトムだが、いつまでたっても成長しないことに怒りを爆発させる。そんなのロボットだもの、あたりまえだろ、とツッコミを入れるのは凡人の証し。天才ゆえに、博士はそこまで考えが及ばなかったのだ。一度心が離れると冷たいもの。天馬博士はアトムをサーカスに売り飛ばしてしまうのである。

ロケット
空気のない宇宙で飛ぶためには、燃料を燃やす酸素も必要。上の解剖図には見えないが、当然アトムの小さな体に酸素ボンベも組み込まれているはずである。

細胞収縮液で宇宙人を無差別殺戮

天馬博士の業績は、すべてアトムに帰すると先に書いた。だが、それではあまりに一面的すぎる。ここで、アトム以外にも画期的な発明があることをはっきりさせておきたい。

▲宇宙人のヒゲオヤジをチリ化。まさに悪魔博士である。

それが細胞収縮液である。これは文字通り、細胞を小さくしてしまう驚異の化学薬品だ。用途としては、難病医療に絶大な効果を発揮するものと考えられる。ガン細胞やエイズウイルスに細胞収縮液を注入すれば、アッという間に消滅してしまう。肥満細胞をこの液体で殺せば、ダイエットにも使える。まさにノーベル賞級の発明だ。

しかし、この発明は不幸な運命をたどることになる。息子を失い不安定にあった天馬博士の精神状態は、※アトムに見捨てられ宇宙人抹殺計画をアトムに知られ「おとうさん　わるい考えはおよしなさい」と諫められたあげく投げ飛ばされてしまう。いくら捨てた子とはいえショックだったのだろう。

アトムに見捨てられ
宇宙人抹殺計画をアトムに知られ「おとうさん　わるい考えはおよしなさい」と諫められたあげく投げ飛ばされてしまう。いくら捨てた子とはいえショックだったのだろう。

▲赤シャツ隊の腰に下げられたピストルに細胞収縮液が仕込まれている。

に見捨てられたことによりついに崩壊。博士は細胞収縮液を人間抹消の殺人兵器として使用してしまうのである。

おりから、地球に永住しようとしていた※宇宙人を、細胞収縮液によって次々に抹殺していったのである。そのさい、博士のもうひとつの才能が発揮される。科学省内に赤シャツ隊という秘密警察を組織し、その長となって喜々として宇宙人狩りを行うのである。ナチスドイツの突撃隊率いるレームといった趣きだ。

しかし、人を呪わば穴ふたつ。悪いことはできない。結局は自らも収縮液を浴びてゴミと化してしまうのであった。

ガン撲滅、エイズ治療、スーパーダイエット薬品のはずが大量殺人兵器になってしまう…。科学のもつネガティブな要素を天

宇宙人
地球とそっくり同じ運命をたどっている「べつの地球」からやってきた。同じ運命なので、地球人とうりふたつのお茶の水博士もいれば、天馬博士もいるのだ。ただひとつ違うのは、地球人の天馬博士はアトムを造ったが、宇宙人の天馬博士はアトムを造らなかったこと。

馬博士が体現しているといえよう。

エナメルシューズに表れる独自の美意識

一度死んだと思われた天馬博士だが、その後、驚異の復活をとげている。チリになったはずではないのか。いや、そこは天才のこと、しっかり解毒剤を用意してあったものと思われる。

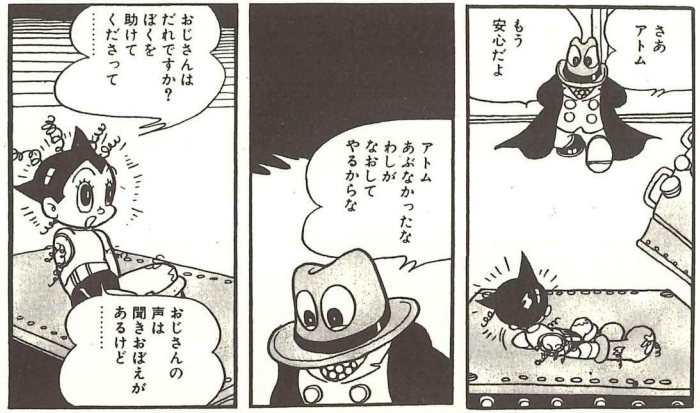
復活した天馬博士は、その後は改心したのか、アトムを影ながら見守る黒衣に徹する。アトムに危機が訪れると、どこからともなく現れては救いの手を差し伸べるのである。

さすがにアトムにあわせる顔がないのだろう。「エジプト陰謀団の巻」（6巻）では、変装をして登場する。さて、問題はこの変装である。いくら変装はしても、天馬博士独自のファッション哲学が透けてみえるのだ。

どこで流行しているのか、それともオリジナルなのやら、なんとソフト帽ですっぽり顔を覆っているのである。この帽子は大変機能的で、ツバのところがカパッと開いて食事もとれるし、目の部分も開いていて視界も大きくとれるのだ。

顔を全面的に隠しているので、正体はバレないはずだが、そこは用意周到な天馬博士のこと、※ダブルのスーツの下に肉じゅばんを仕込み肥満体に見せかけ、さ

ダブルのスーツ
前ボタンがロボット感知装置になっていて、ロボットが近づくとボタンがヅヅ～と鳴る。またあるときは同じく前ボタンから催涙ガスが吹き出るというスグレもの。その際、ソフト帽がガスマスクに早変わり。



▲ソフト帽で顔を隠してアトムの前に現れる博士。正体を隠しても口調がなれなれしい。

らに引きずるほどのロングコートを着て、体のラインを100%消している。これでは、さすがのスーパーロボットのアトムでも博士だと見破ることができないのであった。

「ぼくのおとうさんの天馬博士のような気がするけど　だれなんだろう」と、悩んだあまり、涙ぐんでしまうほどだ（6巻181ページ）。

だが、悲しいかな、それはオシャレに縁のないロボットゆえの見る目のなさ。人間のオシャレさんだったら見破れないことはなかった。いくら隠しても、天馬博士の独特のファッションセンスがにじみ出ているからである。

ポイントはふたつ。白でばっちりとコーディネイトされたダブルのスーツ

と、ピカピカに光るエナメルの靴がそれ。この2点ゆえバレバレなのだ。ちなみに、科学省長官時代には、白と黒のツートンカラーのエナメルシューズでキメて登庁している。「おまえは※エルビスか!?」とあちこちからツッコミがきそうだ。

それはさておき、復活してからは、前非を悔いて、世のためアトムのために陰ながら見守る博士であった。いってみれば『ガラスの仮面』の紫のバラの人といったところか。

アトムの願いを聞き入れ百万馬力に改造!!

ここで、アトムのメンテナンスマンとしての天馬博士の活躍を検証してみよう。

前述した「エジプト陰謀団の巻」では、アトムは世界一の美女ロボット・※クレオパトラを女王に戴き世界征服を企むエジプト陰謀団と対決する。

アトムは敵の巨神ロボット・アメンホテプの襲撃を受け、両腕を失うというダメージを負う。もはやこれまで、という瞬間、天馬博士は姿を現しアトムを救い出してアッという間に修復する。それもソフト帽で顔を隠し、父であることを明かさずに。けっして恩を着せることなくただこう語るのみ。

「アトム　きみはロボット芸術の最高だ　それをなおすことは　わしの名誉だ

エルビス
不滅のロックンローラー、エルビス・プレスリー（77年没、享年42）は、ブルースウェードシューズだけでなく、エナメルシューズもこよなく愛していた。シェキナ・ベイビー。

クレオパトラ
どうでもいいけど女王様というわりには弱すぎる。すぐにやられて裸にされてしまうのである。

よ」

かっくいー！　とても過去に大虐殺を行った人とは思えない。

次に天馬博士が登場するのは「地上最大のロボットの巻」（13巻）。物語はこうだ。

アラブの石油王・サルタンは、自らが果たせなかった世界の王者になるという野望をせめてロボットの世界で果たそうと、百万馬力のロボット・※プルートウを造る。そして、※世界の七強と呼ばれるロボットを倒し、プルートウを世界のロボット王にしようと画策。こうしてプルートウは、アトムをはじめとする世界の七強に勝負を挑んでいく。K1ならぬR1（ロボ）グランプリといったところか。

アトム十万馬力、対するプルートウは百万馬力。勝負は目に見えている。実際、最初の手合わせでアトムは手も足も出なかったのだ。妹の※ウランちゃんにも「おにいちゃんのよわむし!!」となじられ、アトムの自尊心はズタズタ。お茶の水博士に百万馬力にバージョンアップしてほしいと懇願する。しかし、お茶の水博士の答えはノー。アトムに対して、「十万馬力のロボットだって　その使いかたによっては　世界一のロボットになれるのじゃよ」と諭すのであった。

このお茶の水博士の言葉、いっけん説得力があるように思える。しかし、アトムならずとも、素直には受けとれない。

プルートウ
ただ戦うためだけに造られた高性能戦闘ロボット。しかし、ウランちゃんのやさしい心にふれ、愛に目覚める。

世界の七強
スイスのモンブラン、スコットランドのノース2号、トルコのブランド、ドイツのゲジヒト、ギリシアのヘラクレス、オーストラリアのエプシロン、そして日本のアトムの7人。アトム以外はすべてプルートウに破壊される。

前章でも示したように、お茶の水博士のロボット技術には大いに疑問符がつく。ホントのところは、百万馬力に改造する自信がないための苦しまぎれの言い逃れでは…。そうとられても反論はできまい。

となると、PL法、製造者責任を持ちだすまでもなく、天馬博士の出番である。このとき博士はソフト帽を捨て、堂々と素顔でアトムに対面する。罪の意識は少しは癒えたのか。

天馬博士はアトムの願いを聞き入れ、百万馬力に改造するのだが、さすがの博士の技術をもってしてもスムーズにはいかなかった。アトムの電子頭脳が一時的にではあるが、クラッシュするというハプニングがおきてしまうのだ。

このときの天馬博士の嘆きといったらなかった。泣くわ、わめくわ、大騒ぎ。その混乱ぶりから、アトムへの愛情の深さが忍ばれる。

▲アトムが無差別破壊をする珍しいシーン。

ウランちゃん
有名なアトムの妹だが、その来歴は不明な点が多い。天馬博士によると、アトムのできそこないで打ち捨てられていたのを、機械局の人間が勝手に女の子に変えてしまったんだとか。

結果としては、この百万馬力への改造が、アトムの生みの親と育ての親との確執を深めることになる。

アトムから感謝をされたことで天馬博士の執着心が復活し、アトムを再びわが手にもどしたくなったのだ。お茶の水博士としては、よけいなことをという思いとともに、アトムを取られるのではとの邪推がめばえるのである。

天馬博士とアトムは運命共同体

両者の確執は「青騎士の巻」（15巻）と、続く「アトム復活の巻」（15、16巻）において激しく火花を散らし合うことになる。仕掛けてきたのは、アトム奪回をはかる天馬博士のほうだ。

アトムは、人間に対して反乱をおこしたロボット・青騎士※と戦うが、槍で貫かれて徹底的に破壊されてしまう。アトムを修復できるのは天馬博士だけだ。そこで、科学省は大々的にマスコミ報道を通じて、天馬博士に力を貸してほしいと呼びかける。

それに応え、天馬博士は姿を現すのだが、そのスタイルにはギョッとさせられる。黒いコートにサングラス、おまけにくわえタバコの口元には歪んだ薄ら笑い…と、まるで安物のギャング映画のよう。あの白のスーツの似合った博士はどこへいった。

青騎士
ふつう、ロボットは人間に危害を加えないようにプログラミングされている。だが青騎士は人間への憎しみのあまりその回路が変調をきたし、人間を攻撃できるようになる。青騎士はロボットを組織し、人間に対して反乱をおこす。ロボット版スパルタカスといったところか。

天馬博士はアトム修理を引き受けるのだが、そのためにとんでもない交換条件を突きつける。まず、アトムを自分の息子として引き取ること。そしてアトムの家族は邪魔だから（ガラクタとまで言い放っている）廃棄処分にすること。この2点だ。

もちろん、こんな無茶な条件は受け入れられるわけはない。逆上したお茶の水博士は、提示を突っぱね、科学省のメンツにかけて最高のスタッフを総動員してアトムを再生させようとする。だが、面目丸つぶれの失敗の連続。泣く泣く2条件を飲むことに。アトムの両親も、かわいいわが子のために自ら進んで解体されることを申し出る。涙なくしては読めない名場面だ。

アトムのメンテナンスはお茶の水博士では限界があるのだ。お茶の水博士の技術力では、アトムの修復はかなわないのである。やはり決定的なところでは、天馬博士の技術をもってしなければアトムは作動しないのだ。実際、「アトム復活の巻」でその秘密をあかしている（15巻194ページ）。天馬博士はアトムを修復できずにいるお茶の水博士に、こう打ち明けるのであった。

「ここからがお茶の水くん　きみにはわからない技術なのだ　最初にアトムをつくったとき　ここだけはわしが自分で操作した　だれもこの操作を知らない

んだよ」

こういうことだったのだ。アトムに関する技術はディスクロージャー（情報公開）されていなかったのだ。天馬博士の頭の中だけにしか完全な設計図はなかったのである。

ということは、天馬博士がもし死んでしまえば、※アトムの技術も地獄へ道連れ。天馬博士亡き後にアトムが壊れたら、もう二度とは復活できないということになる。考えるだに恐ろしい。

結局このときは、復活したアトムは無事にお茶の水博士のもとにもどるのであるが、これではおちおちと壊れてもいられない（？）。

アトムの技術
天才・天馬博士といえども、アトムの制作には丸1年かかっている。アトムは2002年4月8日に起工し、翌年4月7日に完成した。

博士の狂気の中にこそ、天使のアトムは存在する

改めて原典をみてみると、天馬博士の人間性の振幅の激しさに圧倒されてしまう。科学省長官として科学行政に手腕をふるっていたかと思えば、秘密警察を組織して宇宙人の大量殺戮を行い、その手を大いに血で汚す。

ここで大変疑問に感じるのは、復活してからも大虐殺の責任を問われないことである。なぜなんだろう。考えられる理由はふたつある。

ひとつは、博士が殺したのはあくまでも宇宙人であるという事実。地球人ではないので、刑法の殺人罪が適用されないのだ。殺宇宙人罪はまだどの法典にも整備されてはいないのである。

▲反社会性人格障害の気配が濃厚である。

もうひとつは、精神鑑定をした結果、心身喪失状態にあり、刑事責任は問えず不起訴処分となったケース。息子のトビオ君を失ったときすでに博士の精神は異常をきたしていたのだ。

判断材料がないので、どちら

とは一概にはいえないが、博士の精神状態が、「青騎士の巻」あたりから常軌を逸していたことは間違いない。

「アトム復活の巻」で、自らの秘密工場※にお茶の水博士を招いたときに、天馬博士は独自のロボット観を披露する。それは、人間はロボットに劣るというものだ。

「わしはいずれゆくゆくはロボットが人間を支配する世界になると思うよ」

「ロボットが人間にかわって世界の王者になる!!　ゆかいじゃないか!」とまでうそぶくのである（15巻191ページ）。

そして奴隷化した人間に君臨するロボット王、それがアトムだというのだ。博士自身もアトムの父として絶対的な権力を握ろうというのである。そのためには、なんとしてでも、アトムをお茶の水博士から取りもどす必要があったのだ。博士の妄想は、科学省長官時代よりいっそうグロテスクに肥大化したようだ。

未来科学の奇跡の芸術品であるアトムの技術が、こうしたアブナイ博士の脳髄の中にしか存在しないとは、なんとも皮肉としかいいようがない。

秘密工場
人里離れた地底深くにあり、科学省にも負けない設備を誇る。天馬博士によると、アトム以上のロボットがごろごろしているとか。にわかには信じがたいことである。

第1部付録

神様が創造した博士図鑑

神様はじつにたくさんの博士を創造している。

その数、百万人は下らない。

ウッソー！　と思う人もいるかもしれない。でも、ウソではない。本当の話である。百万人いれば、政令指定都市になる。ということは、手塚治虫ワールドは、博士の政令指定都市といってもいいのである。

百万人の博士のなかで、最高のキャラクターは誰だろうか？

花丸博士？　ナンデモカンデモ博士？　朝雲博士？　それとも矢似鳴太（だと思った人はかなりのマニア）？

最高の博士は、神様・手塚治虫本人なのである。

手塚治虫は医学博士でもあったのだ。博士論文のテーマは「タニシの異型精子細胞の膜構造における電子顕微鏡的考察」。なんともスゴいテーマではないか。

手塚治虫は神様であると同時に博士でもあったのである。

アトム神話の博士たち

科学マンガの永遠なる代名詞『鉄腕アトム』にはじつに多くの博士が登場する。博士の創造したロボットやマシンは、ときにはアトムの味方となり、ときにはアトムに敵対する。博士こそ、アトムストーリーの真の主役である。

パブロス博士　独裁国家の屈折した知識人

幽霊製造機の巻

独裁者ヒトーリンのゴルゴニア連邦の科学者。ヒトーリンがコピー人間を作るために開発させた「幽霊製造機」の責任者。

だが、幽霊製造機をヒトーリンに示したその場で、命を捨てて己の発明品を破壊し、独裁者を破滅させる。お茶の水博士の旧友である。

ペダン博士　甦った宇宙吸血鬼

コウモリ男爵の巻

反陽子爆弾を開発するほどの優秀な科学者だったが、宇宙実験の爆発事故に巻き込まれて死亡。しかし、卓越した科学力を持つブズブズ人の手によって甦り、地球に舞い戻って来る。コウモリ・ロボットなどを駆使して悪事を働き、アトムを執拗につけねらう。

トミー　世間知らずのお坊っちゃん発明家

ガデムの巻

普段は人間の型をしているが、集団で合体すると巨大なムカデになる合体ロボット・ガデムを発明。

しかし世間知らずのところを悪人の兄につけこまれ悪事に利用される。最後はアトムと協力して兄を改心させガデムを退治する。天才発明少年である。

©手塚プロダクション

姓名不詳（ゲルニカ博士＝仮名）　食糧問題を見事解決？

ゲルニカの巻

偶然、異常に大きい品種のカタツムリを発見し、それを元に巨大な食用カタツムリを開発して、ゲルニカと名付ける。しかし、このゲルニカは凶暴なモンスターと化し人間を襲い始める。来たるべき食料難の時代に備えて、子孫に新たな食料源を贈るという理想をもっての研究だったが、結局は自身もゲルニカに襲われ、食い殺されてしまうのであった。

だが、そもそも異常に大きいカタツムリというのは、環境ホルモンによる汚染が原因で発生したのではと思われる。研究の最初の段階でそのことに気づかなかったのが、致命的だったといえよう。

人爪博士　狂気の科学者、実はいい人

若返りガスの巻

巨大隕石から若返りのガスを発見するが、悪用されるのを恐れて、世間への公表を頑なに拒む。猜疑心の虜となりアトムすら銃で狙撃するほど。しかし、銃を撃った衝撃で柱に頭を強打して死んでしまう。

悲劇的なようでいて喜劇的な最期だ。

ドン・ペレス・プラド博士　眠れる20世紀の使者

冷凍人間の巻

マヤのピラミッドの玄室でアトムはタイムカプセルに眠るドン・ペレス・プラド博士を発見する。

核戦争で20世紀の文化が絶滅してしまうと予言した彼は、後世に20世紀の文明と記録を伝えるべく、スフィンクスに守られながら冷凍睡眠に入っていたのである。

Y教授　生類憐れみのマッド・エコロジスト

赤いネコの巻

お茶の水博士と同級生の動物学者。動物の言葉を理解する特技を持つエコロジストで、一時首都を完全に制圧したものの、結局はアトムの活躍でY教授は倒される。

もある。家族はなく、猫のチリたちと武蔵野の自然に囲まれて暮らしていたが、自分の住む笹が谷にまで開発の手が伸びると知るや、建設省開発センター土木課課長に「死んでも抗議する」と開発の中止を訴える。

だが開発が強行されるや、自殺したと見せかけ、猫のお面を被って化け猫の化身のふりをし、東京中の動物という動物を使ってクーデターを起こす。人海戦術ならぬ獣海戦術で、

戸沢博士　変身にとりつかれた忍者の末裔

十字架島の巻

忍者・戸沢白雲斎の18代目の子孫に当たり、魔法や変身に憧れるあまり、それをロボットという形で実現させようする。

その願いを込め変身ロボット・プークを完成させるが、プークの高性能ぶりを犯罪に使おうとする悪の一団と争い、その凶弾に倒れる。

フーラー博士　知性は金なりの銭ゲバ科学者

マッド・マシーンの巻

すべての機械を狂わせるマッド・マシーンをネタに10億円を要求する恐喝博士。

結局はアトムの活躍でマッド・マシーンは破壊されるのだが、これだけの超高性能メカを造り上げる知性と技術があれば、正しい研究をしても十分金持ちになれるはずだが。

矢似鳴太　ロボット技師のモンタギュー

ロビオとロビエットの巻

江戸時代のカラクリ人形を研究していた先祖の代から、連綿とロボット工学に携わった名門の直系。顔に似合わずロマンチストのようで、蝶の羽根を持つ妖精のように美しいロビエットを製造。井塩春三とは犬猿の仲で、ロビエットが井塩のロビオと恋仲になると烈火のごとく怒る。

井塩春三　ロボット技師のキャプレット

ロビオとロビエットの巻

エンジニア・タイプの矢似に対し、井塩は研究者タイプ。ライバルの矢似が幻想的で凝ったデザインをするのに対し、井塩はシンプルでスポーティなデザインが好みのようだ。肥満体型の彼はスマートなスタイルに憧れがあるのだろう。美男ロボット・ロビオを造ったのも、そのせいか。

バリバリー博士　マイ・フェア・レディは女王様

エジプト陰謀団の巻

博士は世界一の美女を造りたいがためにロボットの研究に励む。そして、世界一の美女・クレオパトラを造り上げ、自分の言いなりに働かせようという歪んだ欲望を持つ。

やがて博士はクレオパトラや巨神ロボ・アメンホテプなどを駆使して、エジプト陰謀団を率い、古代エジプト帝国を再興しようとする。だが、良心に目覚めたクレオパトラに陰謀を思い留まるよう忠告される。それを一蹴するとクレオパトラに無理心中に追い込まれてしまう。科学者として、己の発明に殉じるのは本望だろうが、悪人とはいえ、なんとも悲しいエピソードだ。

ウッズ博士　嫉妬が人を悪魔にする

透明巨人の巻

博士は弟子の花房と共に物質電送機を研究していたが、花房に先を越されてしまう。嫉妬に狂った博士は、花房自身がその電送機に乗ったとき、受信側の機械を壊してしまう。花房の体は分子の霧の集合体の透明巨人殺人鬼と化し、ウッズ博士は花房に命をねらわれる…。

山田ジロウ　天才少年は問題少年

ロボット流しの巻

ジロウは、アトムとさほど年の変わらぬ子供なのに、独力でタイムマシーンを造ってしまうほどの天才少年。その反面、研究資金をヤクザまがいの悪徳金融業者に勝手に借りるような問題児でもあったのだ。結局タイムマシーンだけが勝手に動いて元の時代に戻れなくなってしまう…。

雪杉博士　おかしな研究に打ち込む変人博士

ウランちゃんの巻

彼が研究したのは、ロボットをまっぷたつに分裂させ、それぞれ独立させること。勉強と遊びとの両立に悩むウランがこれに飛びついた。ところがふたつに分裂してしまうと、それぞれが知能も腕力も半分になってしまうのだ。おかげでウランはとんでもない目に。おマヌケな研究である。

灰戸博士　ロボット版ディズニーはとんだ悪党

ロボットランドの巻

ロボットランドの建設者。その名の通り、ロボットを使って、世界中のおとぎ話や伝説の国を造ろうというものである。だが、博士は資金調達のため、武器密造に手を出す。機械文明の中で忘れられていく人間らしい心の大切さを説こうとして、かえって悪の道に。皮肉な話である。

ポンコッツ博士　機略に富んだ博士版諸葛孔明

ホットドッグ兵団の巻

犬のサイボーグ軍隊・ホットドッグ兵団を作り上げる。確かにこのポンコッツ博士は悪の手先だが、こういう奇抜な発想をし、それを実現させるあたり、卓越した頭脳の持ち主である。そしてその頭脳は、アトムとの闘いでも遺憾なく発揮される。

アトム率いる日本航空自衛隊来襲の際、人工濃霧と人工雷雨でアトムを孤立させる。またアトムを罠にかけ、伏兵のロボットに挟み撃ちさせ氷漬けにしてアトムの捕獲に成功するなど、じつにあなどれない。近代的集団戦術をロボットものに導入したという点でも、ポンコッツ博士の功績は大きい。

天川博士　学究心が仇となり身の破滅を招く

アトム対ガロンの巻

1機で惑星を改造するほどの力を持つ超高性能メカ・ガロン。このハイパーロボに興味を持ったのが宇宙開発局の天川博士。博士は実際に地球環境の改造を企てるが、ガロンの能力は想像を超え、暴走したガロンは地球を死の星へと変えていく。それを止められるのはアトムだけ。

ラム博士　悲しきインディオの復讐鬼

アトラスの巻

インカ民族の出身。子供の頃、奴隷のように働かされていた母親を白人に殺され、以来、侵略者である白人に復讐を誓う。そのためオメガ因子という「悪の心」を植えつけたスーパーロボット、アトラスを開発。

だが、結局はアトラスに殺されてしまう。

ロッス博士　青騎士に背かれ苦悩する

青騎士の巻

彼はアトムに負けないくらいの超高性能ロボットとしてブルー・ボンを造り上げた。

さらにトント、マリアという弟妹を造ってやる。ところが、マリアとトントは心ない人間に破壊されてしまう。

博士はふたりの首を捨てるにしのびず、ブルー・ボンに移植し、それぞれに変身できるように改造する。よかれと思ってしたことだったが、そんな呪われた姿に改造されたブルー・ボンは己の身を恥じ、博士に反逆。弟妹の復讐に燃えるブルー・ボンは青騎士の鎧を身にまとい、人間社会に戦いを挑む。博士はブルー・ボンを必死に説得するのだが…。

アブーラ博士とゴジ博士　仮面博士の恩返し

地上最大のロボットの巻

名前は違うが、どちらもサルタン・チョチアババ3世の召し使いロボットがひとり二役で演じわけたもの。

王座を追われて失意にあった主人を慰めるべく、ロボット工学を学び、正体を隠して世界一のロボット学者アブーラ博士として主人の前に現れる。望み通り最大最強のロボット・プルートウを創造するが、主人はそれで満足せず、プルートウを使って世界中の強いロボットを倒そうとする。そんな主人を諫めるべくアブーラ博士は、ゴジ博士に変装し、さらに強大なロボット、ボラーを造り、強さを求めることの空しさ愚かさをわからせようとする。

手塚原理主義の博士たち

神様・手塚治虫が創造した博士は数多いが、誰もが科学に全幅の信頼をおいていた。正義の味方、悪の手先、立場は違えど、「科学に不可能はない」という手塚SFの原理はかわらない。科学至上主義の博士たちである。

ノッコ　銀河同盟の腕利きエンジニア

「W3」

宇宙人の技術士にして銀河同盟軍の兵長。W3の一員。馬に変身し地球人を調査するのだが、技術士としての特性を遺憾なく発揮。どんなガラクタからでも最新のテクノロジーをつくりだしてしまう。馬小屋の備品から高級自動車セダンをつくるなんて朝飯前。

ナンデモカンデモ博士　歩く百科事典に不可能なし

「漫画天文学」「漫画生物学」など出演作品多数

お茶の水博士らとともに「イノセント」な博士の代表的存在。その名の通り、生物学、天文学、科学はもちろんのこと、美学やマンガ学まで、知らぬことはない。

黒のモーニングに白いベストに赤の蝶ネクタイ、頭には学者帽と、いかにもアカデミックな雰囲気。科学がすべての問いに答えることができると信じられていたよき時代の博士。ナンでもカンでも、科学が万能と信じた挙げ句が公害、環境破壊、大量殺戮兵器…。彼の出番は50年代をピークにみるみる減少し、60年代以降は、医者役でゲスト出演する程度になってしまう。科学の推移の象徴である。

美土路博士　行動派のノーベル賞科学者

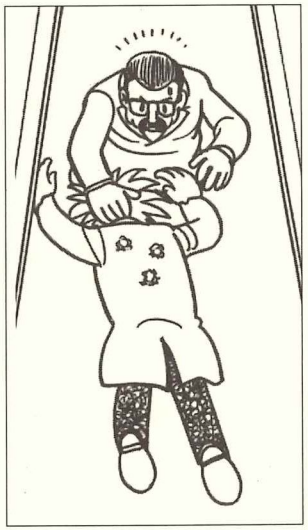
「ミクロイドS」

ノーベル生理学賞を受賞した世界的生物学者。進化したアリ・ギドロンによる世界征服を阻止すべく、息子のマナブや正義の昆虫人間ミクロイドと力を合わせ敢然と闘いを挑む行動派。ミクロイドと悪のギドロンとの区別がつかない一般人により、ミクロイドをかばったことでリンチを受けそうになったことも。あまりの恐怖体験に一夜にして髪の毛がまっ白になったりしながらも、けっしてくじけない。

その反面、なにかと暴走しがちなマナブを心配する親心を見せる。人類存続の危機だというのに「とにかく学校へ行け」と叱る、平均的家庭人でもある。

朝雲博士とエンゲル博士　命をはって殺戮計画を阻止

「ビッグX」



ナチスドイツによる人間を巨大化させる「ビッグX」計画の推進者。この計画が破壊と殺戮に使われることを恐れた朝霧博士とエンゲル博士は、科学者の良心としてわざと完成を遅らせるが、そのために虐殺されてしまう。もし、ふたりが殺されずに研究が完成していたら、ナチスは形勢逆転、歴史は大きく変わっていたことだろう。

さてその後この計画はどうなったのか。ビッグXの秘密は朝雲博士の子から子へと秘かに受け継がれていったのだ。孫のマモルは世界平和のために計画を実行することを決意。正義の戦士ビッグXとなって大活躍をする。

花丸博士　科学の福音を説く伝道師

「来るべき世界」「ビッグX」など出演作品多数

手塚作品の50年代を代表する正義の博士。バラ色の未来を語る科学の伝道師。出演作品は、『大空魔王』『一千年後の世界』『メトロポリス』『ロック冒険記』『来るべき世界』『地球の悪魔』『化石島』『ビッグX』『勇者ダン』…。

これといった画期的な発明品や発見はないが、『ビッグX』では、ハンスを電脳ロボット化する。ナチス同盟のハンスが敵の機銃掃射を浴び、脳以外の全身機能が停止し、このままでは、死んでしまう。そこで花丸博士はハンスにインフォームド・コンセントを行い、巨大ロボットにハンスの脳を移植、ロボット人間に再生するのだ。

高野博士　正義と悪との心の葛藤で人格崩壊

「地球の悪魔」

核戦争に備え、地下に巨大要塞を築く理想に燃える青年博士。しかし、博士は二重人格者だった。理想の人物の仮面の裏側に、原爆によって地球を破滅させようという悪の人格が隠されていた。その人格は自らを「地球の悪魔」と名乗るのである。最後は地下要塞を道連れに破滅する。

ブラック・ジャック　冷たい仮面の下の人間愛

「ブラック・ジャック」

金に汚い悪徳医だが、じつはなにより人の生命を尊重するヒューマニスト。無免許医なので博士号があるかは不明。本作には、かつての博士たちが、科学者から医学博士へと転身した姿で多数姿をみせる。第1話にお茶の水博士が、第2話には天馬博士が医師として登場する。

田手上博士　叶わなかった異種人との共生

「0マン」

太古の地球に移住してきた金星人の子孫0マンと人類との共存を目指す正義の博士。いわば平和を望む人類の代表的存在。だが、田手上博士の願いや努力も虚しく、その共存は叶わなかった。0マンの独裁者と人間の悪人の手により、破壊兵器ブッコワース光線が使用され、0マンの大量虐殺が行われてしまうのだ。人類と地球に絶望した0マンたちは金星に去って行く。

自分の無力さを嘆く田手上博士。破壊を止めることができなかったのだ。その無力感は、博士ひとりのものではなかった。戦争を前にして感じる、すべての博士の痛みと焦燥なのである。

アルベルト博士　食物連鎖なきユートピアを夢想

「ジャングル大帝」

レオの数少ない理解者。動物たちの共食いをなくすため、人造肉の研究に着手。

だが、その理想とは裏腹に、人造肉は、動物界から食物連鎖をなくし、そのことで生態系が破壊されてしまい、自然界のバランスを崩し、動物そのものの存在を危うくしてしまうのであった…。

プラス博士とマイナス博士　大自然に見果てぬ夢を追う

「ジャングル大帝」

両博士は地質学者。大陸が移動するさいのエネルギーに着目、それは月光石による強力な磁力線の作用が原因と推理する。博士は月光石を求めて、レオに道案内を頼み、前人未到の幻のムー山に向かう。だが、大自然の脅威の前に、両博士ともあえなく命を落としてしまう。

第2部
博士黄金伝説

百万人の博士たち　科学の夢に向かって大行進！

「魔法屋敷」

『魔法屋敷』（48年製作）は、マンガの神様・手塚治虫の科学への熱い思いがビシビシと伝わってくる作品。お話自体は、たわいないもの。天才科学者ヒゲタ博士（ヒゲオヤジが好演）と森の魔法使いとの争いに火星からの使者がからみ、科学が勝つか、魔法が勝つか、魔法屋敷で最後の決戦が行われる…といったもの。

圧巻は、なんといっても月からの落下物を捜しに博士たちが集団を組んで行くところ。これがまたスゴイのなんの。

その博士の数、じつに百万人！　百万人なのだ。

百万人といえば、アイスランドの人口より多い。それだけの博士が一丸となって、落下地点と思われる山に向かって行進するのだ。絶景である。

百万人の博士を観察してみると、かなり高年齢者が多いことがわかる。おおざっぱにみて、ハゲの割合74％、ヒゲの割合50％、ハゲでヒゲの割合48％といったところか。

手塚治虫は博士の群衆シーンにこだわりがあるようで、初期の傑作『メトロポリス』でも、博士がウンカのごとく登場する。なにしろ、わずか5コマに420人近くの博士が描かれている。まさに博士の洪水である。しかも、そのほとんどが白髪とハゲ頭のおっさんたちだ。

手塚治虫にとって博士とは、老成した賢者というイメージがあったようである。

かつて博士のエル・ドラド（黄金境）があった。
そこへ行くとどんな願いも叶うという科学のテーマパークだ。
鋼鉄の巨人が、スーパー・サイバースペースが、キャスターとして人々を迎えてくれた。
夢があり、冒険があり、ロマンがそこにはあふれていた。
人々は博士の未来への預言に耳を傾け、その実現を心から待ち望んだのであった。
時代は50年代から60年代にかけてであり、
人々はサイエンスという言葉のもつ力を信じていた。
科学こそステアウェイ・トゥ・ヘブンだったのである。

第②部　博士黄金伝説

谷博士

人知を超えた能力には理由がある
アッと驚く谷博士の正体とは!?

©桑田二郎

絵になる博士である。

白髪白髭黒マント。つねに沈着冷静。けっして取り乱すことはない。ひとめ見ただけで、優れた能力の持ち主だということがピンとくる。

味方につければ、これほど頼りになる博士はいない。まちがっても、絶対、敵にはしたくはない。

谷博士は多くの謎につつまれている。

出身地、学歴、過去の業績、生まれた星座…いっさい不明だ。わかっているのは8マンの開発者ということだけ。8マンとともに、アメリカの秘密研究所から逃れてきたということだけだ。

博士と8マンは一身同体。8マンがピンチに陥れば、どこからともなく駆けつける。壊れれば修理をほどこし、時には傷つきやすい8マンの心を癒すカウンセラーにもなる。

博士は、誰よりもサイバースペース（電脳）のことを理解しているのだ。

電脳の最大理解者。それには理由があった。驚くべき理由が隠されていたのである。それはなにか……おっと、結論を急ぐことはあるまい。

まずは博士と8マンとの関係から話を進めていくことにしよう。

谷博士は8マンをベトナム戦争用に開発？

日本空想科学史上、最初に人間の思考と感情をもったスーパー電脳ロボット、それが8マンである。生みの親は谷博士。

博士と8マンのコンビは、40代以上の人には忘れ難い存在だ。※アニメの主題歌をいまだに歌える人も多いだろうし、フリカケののり※たまについていた8マンシールも記憶に残っているはず。

若い世代でも、マンガ喫茶で目にしていることだろう。なにしろ、本稿の原典とした秋田書店のサンデーコミックス版は現在25版を数えているロングセラーなのだ。マンガ喫茶の定番である。比較的最近にも、宍戸開主演で実写による映画化もされている。まさにスーパーロボットの金字塔である。

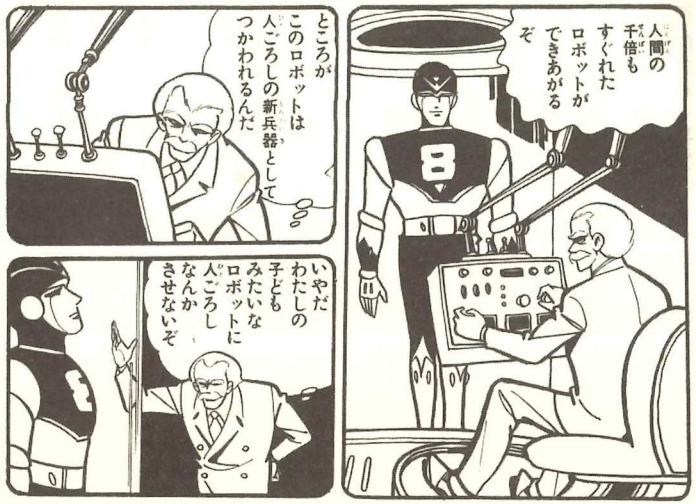
1963年から「少年マガジン」誌上で連載されたわけだから、発表以来40年近くたつ。だが、その間8マン以上にエレガントでジェントルなロボットは現れていない。人間以上に繊細で思いやりのあるロボットなのである。

そうしたロボットを製造した谷博士は、まぎれもなく天才といっていいだろう。

ここで博士の履歴をひもといてみると、もともとはアメリカの秘密研究所の研

アニメ
アニメでの表記は『エイトマン』だった。63年11月放映開始。翌64年夏休みには劇場版「ロボット007・光線銃レーザー」が公開される。

のりたま
丸美屋のふりかけで、のりたまと牛肉すきやきにシールかワッペンがおまけでついていた。また、フルタエイトマンチョコレートというのもあった。



▲アメリカの研究所時代の博士。全身白のコーディネートがダンディ。

究員だったことがわかる。ロボットを軍事目的や秘密工作に利用するため研究開発する極秘セクションである。博士は、そこで戦闘用ロボットの研究に携わっていたのだ。

当時は冷戦まっただなか。アメリカの宿敵ソ連もまだまだ健在。核戦争一歩手前までいったキューバ危機※の記憶も新しい。ドイツも東西分断状態にあり、ベルリンの壁も2年前に築かれたばかり。米ソは一触即発の緊迫した状況にあった。アメリカ軍がベトナムに本格的に介入する直前のことだ。

キューバ危機
62年、アメリカのケネディ大統領は、ソ連がキューバに中距離ミサイル基地を建設中であることを察知すると、その撤回を要求しキューバを海上封鎖した。ケネディは核のボタンに指をふれたといわれている。

研究を続けつつも谷博士は悩む。精根かたむけて開発したロボットが軍事兵器として破壊や殺戮に利用されるのがたまらなかったのだ。とくに博士が設計製造した8マンは、抜群の高性能を誇っていた。もし、戦闘で使われたら、想像を絶する惨劇を生むのは間違いない。誠実な人柄である谷博士には耐えられないことであった。

博士は秘※密研究所から8マンとともに脱出することを決意する。

常識的に考えれば、それは不可能に近いことだった。相手は世界一の情報力と行動力を誇るアメリカの秘密機関である。殺人ロボット兵器という第一級の機密事項が万が一東側陣営に洩れでもしたら、軍事バランスが崩れてしまう。それを防ぐためにも、何としてでもロボットを奪還してくるはずだ。

しかし、谷博士はクレバーだった。闇雲に逃げても捕まるだけ。ソ連に亡命しても、さんざ利用されたあげくに粛清されるのがオチ。そこで、日本の警視庁に、なかば駆け込むというかたちで保護を求めたのである。

これはナイスな選択であった。

日本とアメリカは安保条約で同盟関係にある。アメリカの世界戦略上、極東地域において日本と問題をおこすのは得策ではない。日本国内で強制的に谷博士を拉致してしまうと、それが発覚した場合、大きな国際問題となり、2国間に緊張

秘密研究所
谷博士の研究所での同僚だったホワイト博士の造ったロボット・007が博士と8マンを追ってくる。抜け忍のカムイと追っ手との闘いを描いた『カムイ外伝』のパターンである。

が生まれる。※60年の安保闘争における嵐のような反米運動の再現はなんとしても避けたいところだった。単に博士が日本人だったからかもしれないが。

アメリカは妥協の道を選ぶ。ロボットが日本の管理下にあれば、機密が共産圏に流出する心配も少ない。そのため、アメリカは警視庁に身を寄せた谷博士を黙認したのである。時の大統領、※ジョン・F・ケネディの決断だと思われる。

晴れて警視庁嘱託となった博士は、安息の地を得たのであった。

人間の脳をエミュレートした画期的発明

谷博士は、警視庁の所属となったところで、8マンの平和利用を思いたつ。8マンの能力を犯罪捜査と破壊活動防止に生かそうというのである。いわゆるロボコップである。そのために画期的な発明を行う。人間の脳の働きを電脳スペースへ転送するという偉業である。そのいきさつはこうだ。

警視庁捜査一課の敏腕刑事・東八郎（Ｔａｋｅ2の東のオヤジではない）は敵の罠にはまって殉職してしまう。東は頭脳明晰にして推理力に富み、かつ人間的魅力あふれた理想の刑事である。このまま死なせるにはあまりに惜しい。そこで谷博士は、東刑事の記憶と意識をそのまま8マンのコンピュータに転送したのである。

60年安保闘争
闘争の理論的指導者のひとりに、ばなな パパこと吉本隆明がいる。吉本がアニメの『宇宙戦艦ヤマト』に言及した映画評論集「夏を越した映画」は大変興味深い。

ジョン・F・ケネディ
ケネディの平和への意志を継いだ正義の結社に「ケネディ騎士団」がある。その活躍は望月三起也の記すところにくわしい。

▲東八郎の記憶と意識を８マンにビビビと移送。

８マンのなにが画期的かといえば、人間の心をもっているということである。プログラミングされた人工知能ではない。正真正銘の人間の記憶と意識、そして心をもったロボットなのだ。

人間に近い動きをするロボットはそれまでにもあった。空を飛び、海を潜るなど、人間以上の能力をしめすロボットは多い。しかし、それらの多くは遠隔操作で機能するもので、自らの意志で行動するものではなかったのである。

人工知能ロボットも中にはいた。しかし、プログラミングされたものだけに、融通や機転がきかなかったりと欠点が多かった。なによ

り人間の心の機微に通じていないというのが致命的だった。

人間に近い「心」をもったロボットを造ることは、すべての研究者の願いだった。そのためには、脳の機能を数値化する必要がある。だが、それは困難をきわめたのであった。

いわゆる精神活動と呼ばれる脳※の機能には、次の5つがある。

1 知覚と認識
2 運動制御
3 記憶と学習
4 感情や直感
5 意識と意志

人間はこれらの働きにより、論理的な思考をしたり、意志の決定や判断、クリエイティブな発想を行っているのである。

このうち、3の「記憶と学習」はいかにもコンピュータの専売特許とでもいったものだが、それ以外の要素は、機械仕掛け※にはおきかえるにはあまりに複雑すぎた。

泣く、笑う、怒るといった感情や、ひらめき、第六感といったものは、計算でシミュレートすることは大変困難である。「いやよいやよも好きのうち」なんてのは、どうやってパターン認識すればいいのだ…。

多くの博士たちがその難題にチャレンジしていった。しかし、いずれも芳しい成果は得られなかったのである。

谷博士の偉大なところは発想の転換をはかったところにあった。機械仕掛けの心の実現は困難である。ならば、人間の頭脳そのものをもってくればいい。まさにコ※ペルニクス的転換である。

しかし、そんなことは可能なのだろうか。人間の思考、感情、記憶をトレースして、それを電脳に移し替えるだなんて…誰しも疑問に思うはず。

それが可能なのである。谷博士ほどの頭脳をもってすれば不可能はない。谷博士が行った作業プロセスを簡単にまとめ

脳の機能
ここに挙げた5つの機能は理学博士である福江純大阪教育大学助教授の言説に準拠した。

機械仕掛けにおきかえ
文芸評論家の柄谷行人法政大学教授は、人間と機械との間にはあらかじめ定まった境界は存在しないと説いている。「人間は機械にどこまで接近できるのか」が、これからの哲学の重要な課題という。

コペルニクス
地動説を唱えたコペルニクスは慎重な人だったようで、地動説を確信した後もすぐには発表せず、その証拠を探すために長年にわたって観測を続けた。なんと40年の長きにわたってである。ご苦労さまです。

▲この自信の発言を聞くがいい。百分の一である。有言実行の人なのだ。

てみよう。

1　東刑事の脳内のすべての※ニューロン（神経細胞）がどうつながっているか、脳内のイオンや化学物質がどう分布されているのかを読みとる。

2　1で読みとった東刑事の脳内の物質の分布を数値化する。

3　8マンの電子頭脳が2の数値をそっくりエミュレートする。エミュレートとは、コンピュータの内容（この場合は東の脳）を別のコンピュータ（8マンの電脳）で計算して真似ることをいう。

こうして、東刑事の思考、感情、記憶は8マンにトランスファー（情報転送）されたのである。

8マンは東八郎の頭脳を得て、新たな一歩を踏み出すことになった。警視庁捜査一課7班の、いずれにも属さない8番目の刑事としての活動を開始するのであった。

8マンは、2進法の数式でプログラムされた杓子定規な思考ではなく、人間そのものの知能をもった画期的な電脳ロボットである。

その証拠として、8マンの電脳は夢をみる。

フィリップ・K・ディックの※「アンドロイドは電気羊の夢を見るか?」どころではない。みる夢は若い女性の夢。それも無理はない。脳の記憶は、青年・東八郎のものだもの。夢の中で、プリティな助手のさち子とクールビューティーの水沢博士がやさしく見つめてくれるのであった（2巻141ページ）。

女の子の夢をみるロボット。人間の脳をトレースしたからこそである。

ちなみに、谷博士は死者の記憶を再現し映像化する装置も発明している。死んだばかりの人間の脳には、死ぬ間際の記憶が残っている。それを機械で読み取り、スクリーンに映し出すのだ。電脳のオーソリティの名に恥じぬ発明品である。

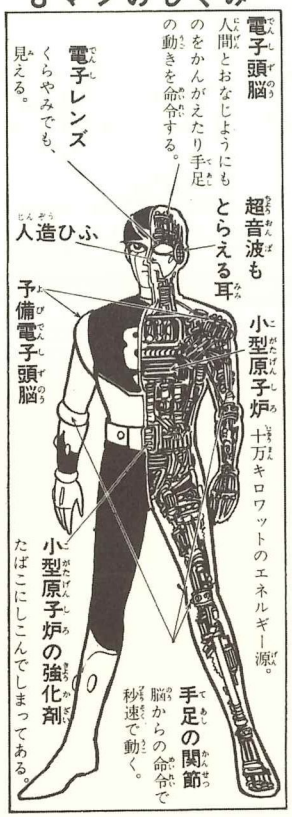
ニューロン
人間の脳の最小構成単位である神経細胞。大脳皮質は約140億個のニューロンからなっている。すごい数ではあるが、毎日1万から2万個ずつ死滅しているのだ。

「アンドロイドは～」
カルト・ムービー『ブレードランナー』の原作として知られている。かっこいい小説のタイトルランキングというのがあるとしたら、間違いなく上位にランキングされるであろう。

走れ8マン、弾丸より速く!

谷博士は8マンの身体機能にも技術の限りをつくす。解剖図を見てほしい。

動力源は※小型原子炉だ。10万キロワットのパワーを発揮する。



▲両肩の予備電子頭脳にも注目。バックアップも万全なのだ。

小型原子炉
百万ボルトの電流を両腕を通して放電することができる。8マンの重要な武器である。超人サイバースペースも、この百万ボルトの放電で倒している。

▲脱ぎすてた服はどうする、なんてチャチャは入れないでほしい。

これによってアニメの歌にもあるように、弾丸よりも速く走ることが可能となる。敵が乱射するマシンガンの弾丸をすべてつかんでみせるというおなじみの光景も、高速移動のたまものである。

その速さは、じつは弾丸どころではない。谷博士にいわせると、人間の最高速度の千倍の速さは優にあるというから、音速は軽く超えている。いや、そんなものではない。100メートル日本新記録は伊東浩司選手の10秒ジャスト。その千倍ということは、秒速10キロ近い。

8マンは空を飛ぶ
超人類との戦いのとき、必要に迫られ一時的に空を飛べるように改造される。化学燃料による推進方式ではなく、体を超高速度で回転させるジャイロ方式で高速飛行を可能にした。

これを、秒速10キロ…そんなものか、と感じる人がいるかもしれない。だが、待ってほしい。鉄腕アトムと違って、※8マンは空を飛ぶのではない。地上を走るのである。新幹線500系のぞみが秒速83メートルであることを思えば、驚くべきスピードだ。秒速10キロで運動可能な人工関節とボディの耐久性は驚嘆に値する。ハイマンガン・スチール製ならではの強靱さといえよう。

超小型原子炉を体内に抱えているということは、走る原発といっていい。もし破損すれば放射能をまき散らすだろうし、もし爆発でもしようものなら大惨事を呼んでしまう。まさに走る※チェルノブイリである。危険なことこのうえない。

しかし、心配ご無用。

超小型原子炉の働きが鈍ったときのための強化剤が用意されているのだ。この強化剤の仕様に谷博士のセンスのよさがうかがえる。

※タバコ形式なのだ。

フィルター式のタバコに超小型原子炉の熱を冷却させる溶剤が注入されているので、一服するだけで原子炉は正常化。コンパクトにして効果抜群の強化剤である。

原典全5巻で、強化剤の使用は23本におよぶ。8マンはハードワーカーなので、つねに限界以上の働きをしてしまう。

チェルノブイリ
86年4月26日、旧ソ連ウクライナ共和国のチェルノブイリ原発で大規模な爆発事故が起きた。北半球のほぼ全域に放射能汚染がおよんだ史上最悪の原発事故である。「ヨーロッパ中央部で起こった核戦争」といわれるほど深刻な影響を残した。

タバコ形式
8マンの強化剤を真似て子供たちがタバコを喫い大きな社会問題となった。谷博士も、よもや、よい子が真似るとは思わなかったのだろう。

▲ロボットとタバコというミスマッチ感がいいのである。

電脳が熱を帯びたといっては一服、原子炉に異常が生じたといっては一服、ボディが欠損したといっては一服。アクシデントがおこるたんびに、強化剤を注入するのだ。栄養ドリンクを飲みながら仕事に励む、リストラ時代のサラリーマンを思わせる涙ぐましい献身ぶりである。

ただ、ここで谷博士はひとつ大きな過ちをおかす。世の中の嫌煙化傾向を読みきれなかったのだ。手軽にどこででも使えるようタバコのスタイルにしたことが、かえって裏目にでようとは…。

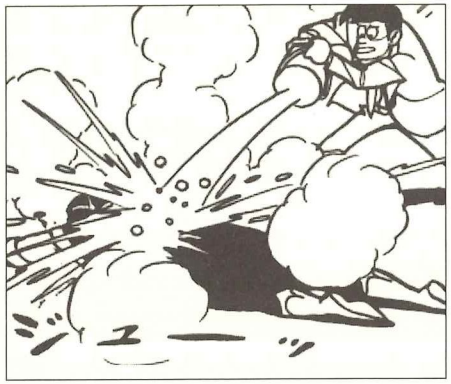
禁煙ゾーンが増えたため、タバコが吸えない状況に陥るのであった。たとえば、テレビ局でアイドル歌手のボディガードをしているときがそうだ。

※長時間にわたる収録のため、強化剤がきれて頭がフラフラになってしまう。しかし、スタジオ内は禁煙。タバコを吸おうとして助手のさち子にたしなめられてしまう。ついには体が金縛り状態に。おかげでスタジオに敵が現れてもなんにもできず、みすみすアイドル歌手を誘拐されてしまうという失態を演じている（1巻92ページ）。

谷博士は、強化剤の注入方法をここらで再考する必要がありそうだ。目薬形式にするとか、のどスプレー形式にするとか、座薬形式……これはダメか。

長時間にわたる収録

「香山ミナショー」というスタジオバラエティだが、当時としては異例のVTR収録で制作に手間どったようだ。8マンはカメリハ、スルーと香川ミナにつきっきりで、スタジオの外に出る余裕がなかったと思われる。



▲電子頭脳が熱を帯びたときもバケツでOK。

チャイナシンドロームもバケツ一杯の水で未然に防ぐ

谷博士によるセイフティ技術は、念には念がいっている。たとえ強化剤が間に合わず超小型原子炉が熱を帯び、デッドゾーンに突入…という危険な状態になっても、なぁに大丈夫。バケツ一杯の水をぶっかければいいのである。たったそれだけの水でメルトダウン直前の原子炉が冷却してしまうのだ。実際、ゲーレンという世界的テロリストに火炎放射を浴びせられたときも、バケツの水によって急激冷却。ことなきをえている（1巻55ページ）。

8マンの出力は高速増殖炉※もんじゅの約3分の1。それを5リットルばかりの水

もんじゅ

使えば使うほど燃料が増えるという何やらネズミ講のような触れ込みの高速増殖炉だが、95年に事故がおき問題となった。もんじゅとは知恵をつかさどる文殊菩薩のことで、英語では「god of wisdom」。

で処理できるのだ。この技術があれば、原発事故なんてものはこの世に存在しなくなる。原子炉が熱をもったら、みんなでバケツリレーをしてお水をかければいいのだ。谷博士はすみやかにこの技術を一般化すべきだろう。

その他、8マンならではの技術に、変身機能があげられる。

プラスティック製の人工皮膚とハイマンガン・スチールの骨格を調整することで、顔から身長体格まで自由自在。子供だろうと女性だろうとニューハーフだろうと、どんな人間にも化けることができるのだ。

実例を挙げてみよう。8マンが変身したのは以下の通り。年齢、身長、体重、は推定。

1 松崎刑事、32歳、168センチ、73キロ。ラーメン屋さんの出前持ちに本人と間違われ、ツケの代金を支払わされる。似せるのも良し悪しだ。

2 殺し屋かまきり、45歳、170センチ、65キロ。俳優の清水紘治に似たかなりクセのある顔だが、なんなくクリア。

3 ※警視庁田中課長、52歳、165センチ、78キロ。三枚目の田中課長も、8マンが変身すると緒形拳のような渋い中年になってしまう。

4 タマ江、24歳、158センチ、42キロ。アイドルスター・香山ミナの付き人。「わたしはかわいい女の子、ほほほ」だなんて口走り、8マンもけっこう

警視庁田中課長
東八郎こと8マンの直属の上司。クールな雰囲気の『8マン』にあって、田中課長のコメディリリーフぶりが光る。やることは三枚目だが、スタイリッシュでつねにダブルのスーツをビシッときめている。

その気になっている。

5 サタンの兄弟（弟）、42歳、168センチ、55キロ。香山ミナを誘拐した極悪非道の誘拐犯。双子の兄が区別がつかないほど弟になりきる。工藤兄弟どころではない。

6 香山ミナ、18歳、160センチ、38キロ。誘拐されたアイドルの身代わりとなる。後ろ手にしばられ、猿ぐつわを咬まされるというSMチックな扱いをされたうえに、コンクリ詰めにされ東京湾に沈められてしまうのであった。

7 関さち子、17歳、155センチ、39キロ。東八郎の助手。胸のふくらみ、腰のくびれまで再現。人工骨格の完成度の高さを見せつけてくれる。

8 佐々木錠、30歳、190センチ、74キロ。殺された錠の幽霊に変身するという手の込みよう。あまりの迫真の演技に、相手は恐怖のあまり精神が錯乱してしまう。8マン、少しやりすぎ。

▲変身シーンをデーモン博士にのぞかれる8マン。アラ見てたのねー。

9　殺し屋ペドロ、48歳、170センチ、75キロ。「外人部隊」と異名をとる国際ギャング団の一員。電子レンズをカラー調整すれば、瞳の色も自由自在。メキシカンだろうとブラジリアンだろうと、※なんなく変身してしまう。性別、国籍いっさい関係なし。身長差35センチ、体重差39キロをものともせず変身する。脅異の技術である。

人工皮膚の技術は、形成外科の治療に活用できる。乳ガンにより乳房喪失した人のための乳房再生にもってこいだし、※性同一性障害の人にも朗報だ。女性から男性に性転換するときの人工ペニスにも応用できる。顔グロを美白にするのもわけはない。また、人工骨格の技術は、骨粗鬆症に悩む人への福音となるだろう。

谷博士は、すみやかにこれらの技術を一般化する必要がある。

8マンの光学技術は天文学にも応用可能

8マンの活動範囲の広さは、谷博士の光学技術に支えられている。

ふつうの人間の目は、網膜にあるロドプシン類と呼ばれる4種類のタンパク質が、それぞれ赤、緑、青、明暗に反応して視細胞を刺激するセンサーの働きをしている。8マンの場合は、※電子レンズがその役割をになっている。

電子レンズはわずかな光量にも反応するため、暗闇でも行動できる。また赤外線にも感応するので、赤外線センサーによる警報システムもなんなく突破してしまう。セキュリティシステムなど、谷博士の技術の前には子供だましも同然である。

そればかりか、X線、紫外線や電波も見ることができるというから、電波望遠鏡と同じ機能があるとみていい。谷博士の技術を天文学に応用しても、かなりの成果がえられそうだ。

現在、もっとも先鋭的な科学分野のひとつにX線天文学がある。X線でみた宇宙は、可視光で観測した宇宙とまったく異なってみえる。X線を放射できるのは、数百万度

なんなく変身
ちなみに扶桑社版『8マン』では、ここにあげた9人以外に、次の二人にも変身している。・テン大佐、53歳、182センチ、85キロ。CIA日本支部長。・ゴーガン親分、60歳、175センチ、96キロ。国際ギャング連合の事務総長。

性同一性障害
原因として、妊娠中の母親のストレスによってホルモンの分泌に異常が生じ、胎児に影響を与えるという説がある。第二次世界大戦中の空襲下のドイツで生まれた人は、母親のストレスが強いため、性同一性障害の比率が高いという研究結果がある。じゃあ、本土空襲をうけた日本はどうなんだ?

電子レンズ
ふつうの人が感知できない放射能物質も見ることができる。強化剤を車のタイヤでひくと、その跡を放射能がマーキングする。8マンは電子レンズでその跡を追っていく。これぞ8マン流追跡術である。

▲赤外線を感知し、どんな警備網もくぐり抜ける。ルパン三世もマッ青。

の高温ガスか、光速で飛び回っている粒子だけ。星の最期の大爆発である超新星やブラックホール※、パルサーをX線望遠鏡でみると、従来の天体望遠鏡による宇宙像とは違った貌をみせるのである。

ちなみに、日本の宇宙科学研究所は、これまで「はくちょう」「てんま」「ぎんが」「あすか」とX線天文衛星を打ち上げている。谷博士の技術は、宇宙学に必ずや新たな地平を切り開いてくれるはずだ。

記憶装置も卓抜な光学技術の応用として誇れるもの。これは、8マンの電子レンズに映った光景はすべて映像として記録してあり、再生も自由自在というスグレもの。電子レンズから記録した映像をスクリーンに投写することも可能なのである。

さらに電子レンズが故障しても、すぐさま超音波探知機が作動。超音波を発信し、反射されてもどってくるまでの往復時間と方向を電子頭脳がすばやく解析し、行動することができるのだ。暗闇を自由自在に行動するコウモリと同じ原理である。

谷博士自身としては、電子レンズの技術にはかなりのこだわりがあったようだ。完成したあともいろいろと手を加え、バージョンアップしている。

その代表メカに電子レンズを使った透視装置がある。

ブラックホール
物質がブラックホールにつかまると、アッという間に吸い込まれてしまうという印象があるが、じつはそうではないらしい。ブラックホールに落ちていく物質は、ブラックホールに対して回転しながら落ちていくのだ。そのため、まわりをグルグル回って、すぐにはブラックホールには落ちないのである。むしろゆっくりと落下していくという。

▲見よ、博士の得意気な顔を。自信の一品なのである。

人間の体はたえず弱い電波を発信している。8マンの透視装置は、その電波を壁越しにでも感知できるのである。だから、部屋の向こうで待ち伏せする敵もなんなく発見。何度もピンチを脱している。

この透視装置は超能力でいうところのクレアヴォヤンス（透視能力）、魔法でいうところの千里眼。谷博士の技術はSF小説の巨匠、アーサー・C・クラークの次の言葉を思い出させてくれる。

「十分に進歩した技術は、魔法と区別できない」

秘密研究所時代に博士に何が起こったか!?

こうしてみると、8マンは万能のように思える。しかし、人間の心を持つがゆ

アーサー・C・クラーク
ご存知『2001年宇宙の旅』や『幼年期の終わり』などの作者。最近、少年買春の疑惑がとりざたされた。老いてなお盛んのようす。

えの弱点もあるのだ。

人間の心はもろく弱い。8マンもその例にもれないのである。

8マンは、スーパーパワーを手に入れてなんでもできる万能感にひたってウハウハしているかといえばそうじゃない。その万能感のせいで、自分は人間なのかロボットなのかという悩みにとらわれる。※アイデンティティが揺れ動く。せっかく谷博士が、太陽の百万倍もの高熱を放射する光線銃レーザーを両腕にセットしてあげても、「これ以上殺人ロボットでいたくありません」と、用がすめばサッサと外してしまうのだ。

美人の助手のさち子が自分に愛情を抱いていることに気づきながらも、それに応えられないことでもまた悩むのであった。

▲さち子の手料理も、こうして処理。しかし8マン、ちゃんとゴミ箱へ捨てよう。

8マンが性の悩みを抱いていることは、深層心理からもうかがわれる。8マンはスーパーロボットなんだけど、その割にはよく傷つき体を欠損させる。それも、手や足を失うことが多い。というより自ら進んで手足を傷つけているようにも思えるのだ。

夢判断の精神分析学者ジグムント・フロイトによると、男にとって、手や足はペニスの象徴。去勢コンプレックスをもった男は、しばしば手足の欠損の観念にとらわれるという。

8マンの電脳空間の深層心理に、はたしてそれがあるのかどうかはわからない。だが、腕を折られ傷ついた東八郎（8マン）が、やさしく介護しようとするさち子を拒絶するシーンをみると、これはどう考えても去勢コンプレックスの表れとしか思えないのだが、いかがなものか。

さて、谷博士は物心両面で8マンをサポートする。PL法でいうところの製造責任者なのだから当然といえば当然かもしれ

アイデンティティ
自己同一性、主体性という意味の精神分析学上の概念。早い話が「自分とは何者なのか?」という問いに対する答えを意味する。「私はオタク」「私は東京都特別区公務員」「私は痛風」…。では8マンの場合はどんな答えが返ってくるのだろう?

▲人間支配を狙う巨大コンピュータ「超人サイバー」に痛めつけられる。

ないが、8マンの修理を施すだけでなく、心の問題で悩めばカウンセラーとなって相談にのってあげるのだ。

※さち子との愛に苦悩する8マン。そこへ谷博士が声をかける。

「なにをなやんでいる?」

8マンは苦しみを打ち明ける。

「わたしはロボット! あたたかい血もなく、ただのつめたい金属のからだがあるだけ…。ああ、じぶんがロボットだということがたまらなくつらいのです。おねがいします、超小型原子炉のはたらきをとめて、わたしをえいきゅうにねむらせてください」

谷博士はガツンといってやる。

「いくじなしめっ」

まず、イッパツ叱っておいて、諄々(じゅんじゅん)と説いていく。

「8マンよ、世の中には悪人にくるしめられている人たちがおおぜいいるのをわすれたのか。みんな、おまえのたすけをまっているんだぞ。おまえはその人たちをみすてる気か(ドン)」

カッコ内は机をたたく音である。胸がすくようなセリフではないか。8マンにいいたい。いまどき、はっきり意見してくれる人は貴重である。精神科で専門のカウンセラーにカウンセリングしてもらうと、30分で5000円。健康保険もきかない。それを無料で、しかも的確にサジェスチョンしてくれるのだ。ありがたいことである。

さち子との愛
さち子は愛する東八郎が実は8マンではと疑心暗鬼に。しかし女の勘は鋭い。さち子はズバリ「東さんがすうたばこと8マンの強化剤はおなじにおいがする…」と見抜いているのだ。

それにしてもなんである。傷つき悩む8マンに対し、谷博士はつねに的確な助言と指示を与えている。谷博士がなぜそんなにロボットの気持ちに理解が示せるのか。じつは、ここにこそ谷博士の大きな秘密があったのだ。

驚かないでほしい。これから衝撃の事実を伝えるから心してもらいたい。

なんと、谷博士自身がサイバースペース(電脳)だったのである! 谷博士も8マンと同じくロボットの肉体をもっていたのだ。

原典でそのことは、さりげなく語られるだけである。一切説明はない。

8マンの危機を救うために、博士自らが8マンに変身し敵役のデーモン博士(p160参照)と対決するシーンで、唐突に正体が明かされるのであった。

自らもサイバースペースロボットである谷博士。

その過去やいきさつは一切不明である。想像をたくましくすれば、博士はアメリカの秘密研究所の電脳研究の第一号の試作品だったのではないのだろうか。

扶桑社版『8マン』によると、谷博士には妻とケンという息子がいることになっている。ということは少なくとも元は人間だったことは確か。8マンと同じく、

▲東八郎に変身した谷博士。まさか博士がロボットだとは、お釈迦様でも気がつくまい。

記憶を取りだし、ロボットの体にエミュレートしたものと思われる。もしかしたら、自分の体を実験台にしたのかもしれない。恐ろしいばかりの執念ではないか。試作品のため、運動能力ははるかに8マンに劣る。そのため、ふだんは白髪の老人を装い運動性を封印、頭脳を武器としたのだろう。老人力ってやつか。その執念は息子のケン※にも受け継がれた。何とケンも自らの体を機械化し、サイバースペースとなったのだ。なぜ？　復讐である。自分たちを捨てた谷博士と8マンに復讐するためであった。ああ、親子二代の妄執である。

　谷博士を主人公にすれば、『8マン』以上の物語ができあがるだろう。間違いなくそれは、サイバースペースの神話となるはずである。

ケン
ケンは自ら望んでアメリカの秘密研究所でロボット手術を受け、8マンと谷博士に戦いを挑む。しかし、谷博士に弱点を指摘され、そのために8マンに倒されて命を落としてしまう。谷博士は肉親の情よりも8マンを選んだのである。このエピソードは扶桑社版による。

第②部　博士黄金伝説

敷島博士

鉄人28号は初心者でも思いのまま！マニュアルいらずの簡単操作!!

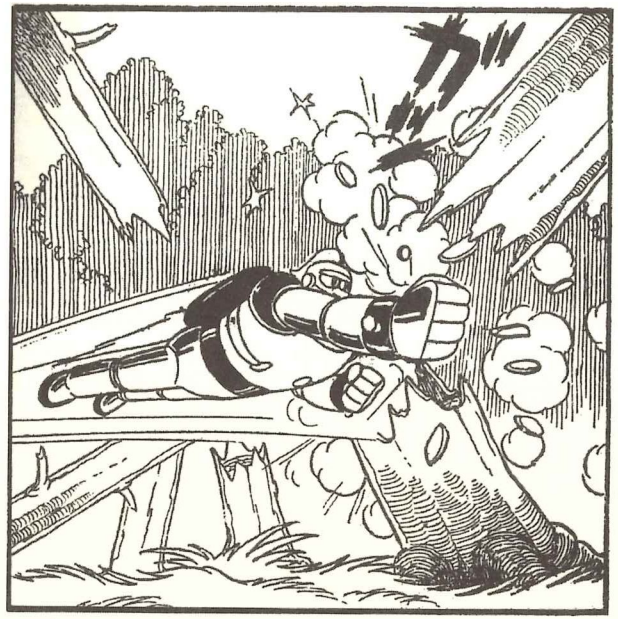
©光プロ

巨大ロボットには、男のロマンをかりたてるサムシングがある。
とくに日本人は世界で一番巨大ロボットが好きなのではないだろうか。
なんでか？　答えは決まっている。鉄人28号がいたからである。
この半世紀に生まれた日本の男の脳には、鉄人28号の雄姿が刷り込まれているのだ。深層心理に鉄人の影があるからこそ、ガンダムやエヴァンゲリオンがあれだけブレイクしたのである。
鉄人28号の生みの親は、敷島博士。第2次世界大戦中に秘密兵器として心血を注いで鉄人を開発した。しかし、正確には、鉄人は博士のじつの子供ではなかったのだ。
たとえていうなら、サロゲート・マザー（代理母）に代理出産をしてもらったようなもの。博士が日本の敗戦を知らずに姿を消していたスキに、勝手に横取りされてしまったのだ。
それはないでしょう。博士の悔しさは想像してあまりある。
しかし、博士は分別ある紳士。著作権侵害で訴えることなく、鉄人28号を自分の手に取りもどすと、正太郎クンと手を携えて正義のためにつくすのであった。
博士が鉄人28号に込めた設計思想は、時代を先取りするものがある。時の流れに古びることのない普遍性をもっていたのだ。それをここで探ってみよう。

戦争が科学の発展に寄与する逆説

戦争は科学の進歩を促す一番のモチベーションである。
素直には認めたくないことではあるが、事実だからしようがない。科学の成果は、まず軍事技術として開発され、それから民間技術に転用される。よくあることである。
たとえば、ソ連崩壊を決定づけたというアメリカの戦略防衛構想※（SDI）いわゆるスターウォーズ計画が、航空宇宙技術を飛躍的に発展させたという事実。
スカッドミサイルなどの巡航ミサイルや、パトリオットミサイルなどの迎撃ミサイルの技術が、ナビゲーションシステムに応用された例。
などなど、軍事技術が民間に転用される例は枚挙にいとまがない。
そして、われらが鉄人28号もまた、戦争の落とし子だったのである。
鉄人28号……空想科学漫画史上、燦然と輝くビッグネーム。誰もが一度は目にしたことがあるスーパーロボットだ。
最近のお宝ブームとやらで、ブリキ製の鉄人28号オモチャがプレミアがついて十万円するとか、鉄人28号フィギュアが在庫薄だとか、鉄人28号トレーディングカードがレトロ人気だとか、いろいろ話題になっている。

戦略防衛構想
83年にアメリカのレーガン大統領が提案した防衛構想。敵のミサイルをアメリカ本土に到達する前にレーザー光線などのエネルギービームによって破壊してしまおうというSFチックな計画。結局計画は放棄されたが、ソ連を恫喝するという目的は十分達せられた。



▲巨木をなぎ倒す力強き鉄人28号。シンプルなフォルムが機能美をたたえる。

博士こそ、巨大ロボットの父として、博士の殿堂入りをすべきヒーローといえよう。

だが、本質を見失ってはいけない。鉄人28号の価値はそんなところにあるのではない。

鉄人28号こそ、エヴァンゲリオンやガンダム、パトレイバーなど、空想科学ジャンルの大きな柱である巨大ロボットものの元祖、ルーツ、草分けなのである。

その鉄人28号の設計に携わった敷島

戦争遂行に積極的に加担した博士バカ

ここで、お話はぐ～んとさかのぼる。

昭和20年、1945年、太平洋戦争末期のころである。小林よしのり先生記すところの『戦争論』でとりあげられている時代だ。

戦争は、世界中の博士たちに暗い影を落としていた。

博士たちは国家の統制のもと、戦争協力を余儀なくされたのだ。だが、アメリカと日本とでは協力の姿勢に大きな違いがあった。アメリカの博士たちは、自ら進んで積極的に戦争遂行に協力していったのだ。

これは、ヨーロッパからの亡命科学者※が多かったことが影響している。ヒトラー憎しナチス憎しで、いわれなくても自発的にしゃしゃりでて、その挙げ句に原子爆弾なんぞを作ってしまったのである。

しかし、日本の博士たちは、そうしたヘンな使命感はもっていなかった。望まないままに動員されて、戦時研究に狩り出されたのである。たとえば、のちにノーベル物理学賞を受賞する朝永振一郎博士は、海軍の電波研究所でレーダーの基礎研究に従事。そこで「極超短波の発信装置の理論研究」を仕上げている。

だが、日本の博士たちが戦争協力に消極的だったというが、全部が全部そうだ

亡命科学者
ヒトラーの迫害から逃れた科学者たちは、「もしヒトラーに原子爆弾製造で先をこされたら…」という強迫観念にかられたという。原爆も最初は対ドイツ戦で使われる予定だった。

ったわけではない。なかには、国家の全面的なバックアップを得て、ウハウハいっていた博士も多かったのである。

ここで、そうしたウハウハ博士たちを紹介しよう。日本の前に、まずはアメリカ、ドイツのウハウハ博士を順に追ってみよう。

戦時中、アメリカでは「※マンハッタン計画」の名のもとに、極秘に原子爆弾の製造が進められていた。名門ハーバード大学の総長がトップに立ち、アメリカ全土から優秀な科学者と技術者を研究内容も告げないで、なかば誘拐するようにしてシカゴ大学に連れてきて、ウラン連鎖反応実験を行わせたのである。

そして、その成功を受け、アメリカのウハウハ博士の代表、38歳の理論物理学者※オッペンハイマー博士が人類最初のプルトニウム爆弾を完成させたのであった。

こいつらが張りきりやがったおかげで、広島・長崎のアルマゲドンが現出したのである。

ドイツにもウハウハ博士はいた。のちに「ロケットバカ一代」の異名をとったフォン・ブラウン博士である。

博士は子供のころから空想科学読本フリークのロケット好き。多くの博士がナチスから逃れてアメリカに亡命するなか、ドイツに残ってロケット開発を進め、

マンハッタン計画
アメリカによる原爆製造にはアインシュタイン博士も一枚かんでいる。ルーズベルト大統領に原爆製造を進言したのは、ほかならぬアインシュタイン博士。のちに広島、長崎の惨状を知った博士は大いに後悔したというが、遅いんである。

オッペンハイマー博士
ウハウハの代表と書いたが、博士はのちに深い悔悟にかられ生涯を自責の念のなかに沈んですごした。

その結果、弾道ロケット爆弾・V1号、※V2号を完成させたのである。Vとはドイツ語の「報復」を意味し、その名の通り、ロンドン爆撃を遂行し、ロンドンっ子を恐怖に陥れたのだ。

敗戦後、本当だったら戦犯になってもおかしくないところ、博士の技術に目をつけたアメリカに強制連行される。冷戦に備え、ミサイル整備を急ぐアメリカが博士の技術を必要としたのだ。こうしてブラウン博士はアメリカのロケット開発を手がけることになったのである。

その結果が栄光の※アポロ11号の月面着陸。呪われた「ナチスのロケット悪魔」が一転して栄光ある「宇宙ロケットの父」である。まったくもって、科学というのは結果オーライなのであった。

乗鞍岳で軍事ロボットを開発した敷島博士

さて、日本のウハウハ博士。それがなんといっても、鉄人28号の生みの親、敷島博士だ。意外と知られていないことだが、鉄人28号は大日本帝国陸軍が開発した秘密兵器だった（あくまでも漫画の中の話ですが）。劣勢にあった旧日本軍が一発逆転、形勢挽回をはかるべく計画した最終兵器。アメリカに原爆、ドイツにVロケット、日本に鉄人28号である。

V2号
最高速度マッハ2。2トンの爆弾を搭載し、飛行距離320キロの性能を誇る。ドイツ軍は合計4300発のV2号をロンドンに落とした。

アポロ11号
アポロが月に着陸したのは69年7月20日のこと。1か月後に『男はつらいよ』の第一作が封切られる。この年はロック奇跡の年といわれ、ウッドストックの開催、『レッド・ツェッペリンII』『クリムゾン・キングの宮殿』など名盤が続々リリース。

▲秘密科学研究所にて鉄人開発中の博士。その表情にはどことなく狂気が宿る。

若き敷島博士は、軍の徴用をうけ、乗鞍岳にある秘密科学研究所で秘密ロボットの開発に携わる。

博士は、敷島という名前からすると憂国の士を想像する。「敷島の　やまと心をひととはば　朝日に匂う　山桜花」（本居宣長）とあるように、敷島は「やまと」の枕ことば。名は体を現すとやらで、愛国の情から鉄人製作を推進した……かというと、さにあらず。どうやら博士はただ、鉄のようなロボットが作りたい！　その一念だったようだ。じつに無邪気なものである。

無邪気なだけに、その思考はフレキシブル。既成概念にとらわれない自由さがある。そうでなければ、ロボットを兵器にしようという発想は生まれなかったであろう。

そもそもロボットという言葉は、よく知られるようにチェコスロバキア（現在はチェコとスロバキアに分離）の作家カレル・チャペックの『ロッサム万能ロボット会社R・U・R』という戯曲にはじめて登場したもので、人間のために働く

秘密科学研究所
地下5階建ての巨大施設。2つの実験室と修理工場が収められていて、敵の攻撃に備え、高射砲1門、2基のカタパルトから9機の戦闘機が出撃して迎撃する体勢になっている。ナバロンの要塞ならぬ乗鞍の要塞である。

ロボット
ロボットを兵器として活用するというのが敷島博士の独創なら、ロボットで「美」を実現しようとしたのがヴィリエ・ド・リラダン伯爵。『未来のイブ』において絶世の機械美女アダリーを詩的にうたいあげている。

目的で作られた人造人間である。ロボットとはチェコ語で「労働」を意味する。ちなみに、この戯曲に登場するロボットはバイオによる生物的なもので、今日のような機械的なものではないのだが…。

われらが敷島博士のスゴイところは、それまで「労働」の代替わりをさせる存在にすぎなかったロボットを「兵器」として使おうというところにあった。今ではあたりまえの発想のようだが、本当にあたりまえのことは天才の独創によって発見されるという。

ライト兄弟が大空を飛びたいという素朴な夢で作った飛行機が、ほんの数年後には大空から爆弾を落とす兵器になったように、ロボットも遅かれ早かれ兵器に使われる運命だったのである。敷島博士はその先鞭をつけたのだ。

防御を重視した敷島博士の設計コンセプト

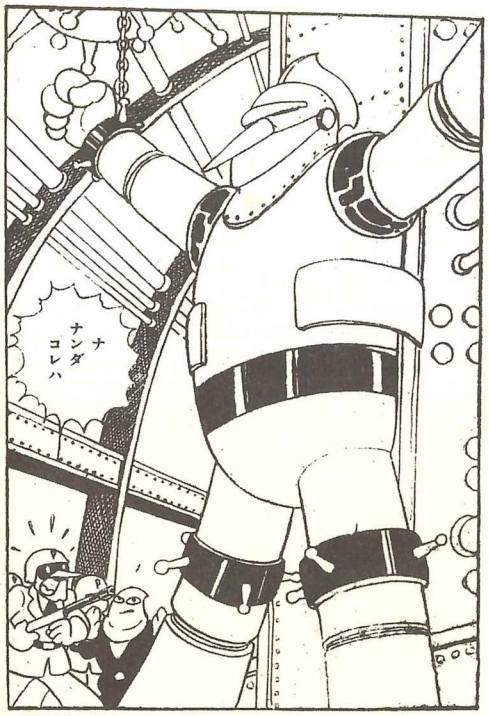
乗鞍秘密研究所で研究に没頭、敷島博士の頭の中に最強のロボット兵器・鉄人28号のグランドデザインはできあがる。ここで、それを紹介してみよう。

まずはボディ。鉄人28号は、全身これ鋼鉄製。そのためきわめて頑丈、強固とできている。敵の火器にも十分耐えられる。ここに敷島博士の発想の卓抜さがある。そのすごさを証明するための比較をしてみよう。

敷島
もともとは磯城島といって、崇神天皇や欽明天皇の宮のあった、大和の国（奈良県）磯城郡の地名に由来する。転じて大和の国、ひいては日本の別称になる。

戦時中に日本が誇った兵器に海軍の零式艦上戦闘機、いわゆるゼロ戦がある。このゼロ戦は太平洋戦争前期においては世界最高の戦闘機といわれ、敵なしだった。巡航速度560キロ、航続距離1570キロメートル、7・7ミリ機銃と20ミリ機銃を2挺も備え、スピード、攻撃力どれをとっても外国の戦闘機に勝っていた。イギリスのスピットファイア、アメリカのロッキードP37など、まったく眼中になかった。

しかし、ゼロ戦には大きな、そして致命的な欠点があった。防御力がまったくヤワだったのである。攻めには強



▲開眼前の鉄人28号。白覆面の男が鉄人誕生の鍵を握る。

新型機
第二次世界大戦の最高傑作機といえばB29爆撃機だろう。全長30メートル、全幅43メートル、最大速度は時速576キロ、航続距離6598キロ。高度1万メートルから日本本土を爆撃したが、日本の戦闘機はその高度に追いつくことはできなかった。半村良の『産霊山秘録』には、B29による東京大空襲がリアルに描かれている。

いが守りに弱い。機動性を重視するためギリギリまで軽量化をはかったので、防弾の装備がなかったのだ。

そのため、無敵の時代はあっという間だった。ゼロ戦の欠点を突いた新型機※がすぐに登場。大空のエースの座は、ロッキードP38やグラマン・ヘルキャットなどに奪われてしまったのである。

だが、敷島博士の設計コンセプトは、ゼロ戦とは対照的。防御という点にも十分な配慮がなされていた。鉄人28号は全身これ鉄板。こいつは撃たれ強い。弾丸なんか軽くはね返してしまうのであった。

特攻を賛美する人には、博士の思想を聞かせたい

鉄人28号のエレクトロニクス部分はどうなっているのだろう。信じられないことではあるが、真空管を使用していたものと思われる。

※IC（集積回路）やLSI（大規模集積回路）などの固体素子などは論外。トランジスターの発明は第二次世界大戦後の47年なので、これも使用不可能。鉄人28号の胸の中には、真空のガラス管に封じられた金属のフィラメントがいーっぱい詰まっていたのである。

鉄人28号の設計コンセプトでなにより優秀なところは、遠隔コントロールで操

ICとLSI
半導体のチップの上にトランジスターやダイオード、コンデンサーなどの素子を組み込んだものがIC（Integrated circuit）、1個のチップの上に1000個以上の素子があるものをラージなスケールのICということでLSIという。

縦が可能なこと。ここには敷島博士の人命尊重思想が表れていた。

当時の日本軍は、とにかく人命を軽視していた。兵士をなんだと思っていたのか。※神風特別攻撃隊、人間魚雷回天……どれも人の命を消耗品としか扱っていない。自軍の兵士に対し、これほどまでに冷酷で無慈悲な軍隊は、世界史に例をみないのではないか。

その点、敷島博士の鉄人28号は、兵士を無意味に危険にさらすようなまねはしない。操縦者が遠く離れたところにいて、遠隔操作によって鉄人28号を操ることができるのだ。人間は安全なところにいながらにして、敵に攻撃を加えることができるのである。人工衛星からコンピュータによって誘導する巡航ミサイルのシステムと通じるところがあるではないか。

また、簡単な操作性は、鉄人28号を設計するにあたり、敷島博士がもっとも心をくだいた点だ。

※操縦リモコンにはレバーが2本あるだけ。きわめてシンプル。今日び、テレビゲームのキーパッドですらもっと複雑。レバー2本をちょこちょこ動かすだけで、自由自在の動きが可能なのだ。ぶ厚いマニュアルを読む必要がないというのは、兵士を教育する手間も省け効率的。まさに理想の兵器といえよう。

この使いやすさは、最近、デザイン界で提唱されている「ユニバーサル・デザイン」の先駆といってもいい。これは「年齢、性別、能力などを問わず誰もが簡単に使える製品を目的として提唱されるデザイン」のこと。すでに家電製品で取り入れられている。

鉄人28号のリモコンは、まさに「ユニバーサル・デザイン」の結晶である。

神風特別攻撃隊
特攻隊の出撃数と戦果は、今もってはっきりしていない。敵目標への突入率は、フィリピン戦で27％、沖縄戦ではわずか13％といわれている。目標到達前に撃墜されることのほうが多かったのだ。

操縦リモコン
リモコンにも真空管が組み込まれている。取り扱いを雑にすると、すぐに壊れてしまうのも無理はない。

たったひとりの戦争から帰ってみれば悲劇がそこに…

敷島博士は乗鞍岳の秘密基地で鉄人28号の設計製造に没頭した。少しでも早く無敵ロボットを実現させたかったのだ。何度も失敗を重ねるが、まったくへこたれなかった。

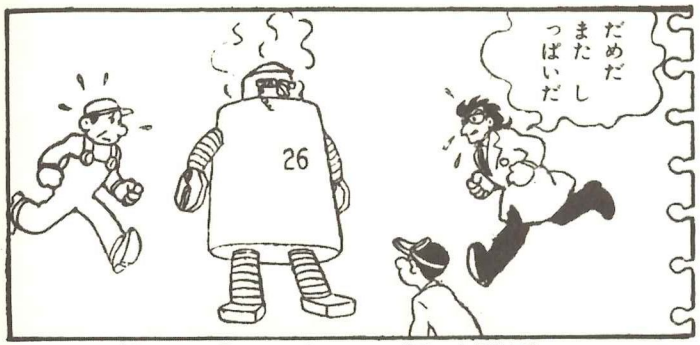
しかし、戦局は日本にとって悪化する一方。突然、敷島博士の※研究は完成をみないうちに打ちきられてしまう。

なぜ？　軍が一方的に方針を転換したのだ。軍はロボットの研究を中止し、博士に新型特攻機の開発を命じたのである。あれほど兵士の命を尊重しようとした博士に特攻機とは。じつに残酷な仕打ちであった。

だが、これも運命と諦観、鉄人を乗鞍岳の秘密基地に打ち捨て、南洋の孤島の特攻機開発秘密基地におもむく敷島博士であった。

なおも過酷な運命が博士を襲う。特攻機開発に従事していたところでアメリカ

研究は完成をみない
鉄人研究に携わった記念として、博士は小型ロボット〇八一五号を息子の鉄雄に託す。〇八一五号は5センチくらいのペンシル型ロボットだが、リモコン制御で大木だろうと簡単に破壊してしまう。鉄人28号の原型である。



▲鉄人28号の試作である26号。いかにもパイロット版という粗雑な造り。

爆撃機の絨毯爆撃をうけ、基地は壊滅。研究員は全滅してしまう。だが、博士は九死に一生をえた。まさに奇跡といえよう。

このあと、敷島博士は数奇にみちた人生をおくる。基地近くのキム・ノヴァック島の原住民に助けられ、そこで9年間もアメリカ軍の目を逃れ隠れ住んでいたのだ。9年間の長きにわたってだ。

そのため日本の敗戦を知らなかったのである！

まるで横井庄一さんか小野田寛郎さんではないか。戦後10年目にしてインドにわたり、そこではじめて日本が負けたことを知ったのだった。

それにしても、よくぞ隠れていたものだ。博士は民間人、そこまで日本軍に義理立てする必要はないはずなのに。生きて捕虜の辱めは受けずという戦陣訓が頭にたたきこまれていたのだろうか。日本には、家族が待っていたものを…。

キム・ノヴァック島
南洋の孤島というだけでくわしい位置は不明。ただ、キム・ノヴァックはハリウッド女優の名前であることから、アメリカ領と推定される。ノヴァックは50年代に神秘的ムードでうった女優で、代表作に『愛情物語』『ピクニック』。特にヒッチコックの『めまい』におけるミステリアスな美女役はよござんした。

横井庄一さん、小野田寛郎さん
横井さんは72年1月24日グアム島にて、小野田さんは74年2月27日ルバング島にて、それぞれ終戦を迎える。

敷島家は東京の上流階級に属していた。お屋敷は鹿鳴館のようなゴージャスな洋館。アールヌーヴォー様式の門構えを抜けると、数十メートルは石畳が続く広い敷地。舞踏会が行えるほどの大広間があり、金庫には千円札がうなっている。家族は3人。教養ある財界人である父と、和服が似合う美しい妻。その面影はどこか桑野通子を思わせる。そしてかわいい息子の鉄雄…。

▲島民はじつに親切。博士は何不自由なく、アイランド・ライフをエンジョイしたものと思われる。

愛する家族が日本で敷島博士を待っていた。戦死の報を受けながらも、必ずや生きていると信じて待っていたのである。

ああ、それなのに、博士は南海の孤島でたったひとりの戦いを続けていたのだ。

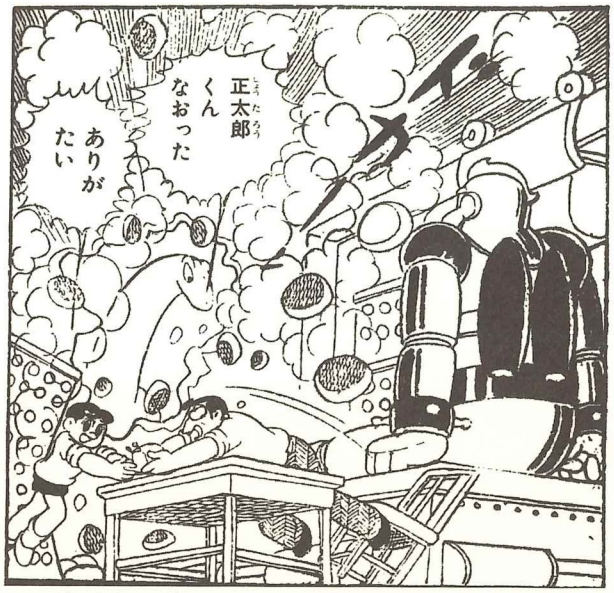
戦争の悲劇といえよう。

いや、悲劇はそれだけではない。

千円札
当時の最高紙幣は千円札。一万円札の登場は58年。千円札、一万円札ともに肖像は日出処の天子こと聖徳太子。

桑野通子
戦前から戦中にかけパッと大輪の花を咲かせた女優。古風な顔立ちとグラマーなボディのアンバランスさが世の男性を魅了した。中野翠の『曲者天国』（文藝春秋）にその魅力がくわしく述べられている。

鉄雄
鉄人28号の所有者となる金田正太郎少年の同級生でもある。鉄雄という名前からも、博士の鉄のロボットへのこだわりがうかがえる。



▲わが身の危険も顧ず鉄人に尽くす博士だが、その胸中はいかに。

う。科学者にとっては耐えがたいことである。自らが設計したものを勝手に横取りされたのである。しかも、自分が完成できなかった技術をなんなく克服したうえで。博士の胸中は察するにあまりある…。

鉄人28号は、その後、正義の少年・※金田正太郎くんの所有するところとなり正義のために働くことになる。敷島博士も金田少年の後継者的存在となり活躍をする。鉄人が壊れれば修理を施し、※ロケットを新たに装備するなど、バージョンアップにも心をくだく。

ときには命をはることだってある。鉄人28号の開発者ということで、S国のスパイ団に誘拐され恐竜ロボット内に監禁されるという危ないめにも。このときなんか、傷ついて松葉杖をつく身でありながらマシンガン片手に大暴れ。弾薬庫に火を放ち、恐竜ロボットを大爆発させている。さすが戦火の中をくぐり抜けてきただけのことはある。そこらの青白いインテリ博士とはワケが違う…。

それなりのことはしているのではあるが、どこか冷めた印象は否めない。戦時中にあれほど情熱を傾けた鉄人28号に対して愛着が薄いのである。

だが、それも無理はない。自らの手で最後まで完成させられなかったのだ。自分の作品のようでいてそうでない。モヤモヤした気持ちはどうしようもないのではないのか。鉄人28号に対して複雑な感情を抱いていることは間違いない。

敷島博士。鉄人28号の生みの親といわれるたびに、心の中を小さな棘がチクンと刺すのである。

なかった。

10年ぶりに日本に帰った敷島博士を待っていたのは、もっと残酷な現実だった。博士が日本に不在だった間に、なんと鉄人28号が完成していたのだ。なぜそんなことが？

博士が乗鞍岳に打ち捨てていた鉄人に謎の怪人が手を加え、完成させていたのである。敷島博士にとっては晴天の霹靂（へきれき）だったろ

金田正太郎
本文は光文社文庫版『鉄人28号』を原典としたが、秋田書店サンデー・コミックス版によると、鉄人28号は敷島博士ともうひとり、金田という博士が共同で開発したことになっている。金田正太郎はその金田博士の息子？　残念ながら確かなことは明示されていない。

ロケット
鉄人28号はもともとは地上兵器でロケットは装備されていなかった。某国の秘密工作員ニコポンスキーが鉄人を奪い、独自に開発したロケットを装備したのである。鉄人を奪還したのち、敷島博士はその性能に目を見張り、改良を加え正式に装備に組み入れる。

鉄人28号はときには娼婦のように

以下は余談である。気楽に読みとばしてほしい。

ここにひとつの仮説がある。鉄人28号は娼婦であるという考えがあるのだ。

ドイツ文学者・種村季弘は※ピグマリオンを評してこう記した。「絶対的な受動性においてひとりの男にだけ盲目的に忠実な貞女が、その主体性を欠いた性的奴隷たることのゆえに、つまるところ万人に身を任せる娼婦と区別できなくなる…」

まるで、鉄人28号のことをいってるようではないか。リモコンをもつ人間にはあくまでも忠実で、※絶対の奴隷たる鉄人28号。

鉄人28号にはどこかエロティックなエモーショナルが感じられる。鉄の仮面の下にきわめてエロティックななにかがある。

ピグマリオン
ギリシア神話に登場するキプロスの王様。自分で造った象牙の女像に恋してしまうアブナイお人。女神アフロディテが象牙の女像に命を与えると、ピグマリオンはそいつを妻にしてしまう。映画『マイ・フェア・レディ』や『プリティ・ウーマン』の原型といわれている。

絶対の奴隷
鉄人28号の物語はロボット版『O嬢の物語』といわれている（？）。

食は三代、江戸っ子は三代目といわれている。
その法則は博士にもあてはまるかもしれない。
兜一族を見ていると、そう思わずにはいられない。
初代・十蔵博士はマジンガーZを造り、二代・剣造博士はグレート・マジンガーを造り、三代・甲児はマジンガーZの操縦者にしてアメリカに研究留学に進む博士の卵。
なんという血の濃さだ。まさに博士の万世一系である。
それもこれも、初代・十蔵博士の影響力の強さ、存在感のスゴサゆえだ。十蔵博士のDNAが宿命のドラマを呼び起こしていくのである。
親から子へと天才が伝えられていく。そのたびに巨大ロボットもバージョン・アップしていくのであった。
ここでは、初代・十蔵博士にスポットをあて、天才の系列を生みだした烈しく壮絶なサイエンティスト魂を見ていくことにしよう。

ポケットマネーで巨大ロボットを造る富豪博士

日本の空想科学漫画史上、一番のお金持ち博士は誰か。
それは文句なしに兜十蔵博士である。黙っていても年間億単位の所得があるのだ。
兜博士は巨大ロボット・マジンガーZの製作者で、年配者が多い博士の中でもかなりの高齢。70歳はとうに越えている。いや、おそらく現役の※博士の最高齢といっていいかもしれない。
すでに社会の第一線からリタイアした隠居の身だ。それでいて高額所得とはどういうわけだ。こういうわけだ。
億を超える収入は、すべて特許によるものなのだ。
兜博士はかつては有名な科学者だった。発明品も数知れず。その特許料が黙っていても入ってくるというわけである。孫の甲児（マジンガーZの操縦者）によると「信じられねえほどのものすごい金額」という。近親者の証言だから信じていいだろう。
しかし、兜家の生活はつつましい。家こそ敷地は数百坪、洪洋社の建築年鑑に載っているような洋館造りとゴージャスだが、贅沢三昧の暮らしとは程遠い。食

博士の最高齢
『火の鳥未来編』の猿田博士は160歳だが、35世紀の人ということで除外してある。

▲孫ですら驚く迫力あるフェイス。実験の事故によるものなのか。

事も目玉焼きと野菜サラダに白米と質素なもの。みそ汁すらついていない。

博士には甲児と※シローという孫がふたりいるが、そうした暮らしに不満があるわけでもなく、家事を分担したりして健気なところをみせている。唯一高価な消費材として、せいぜい甲児がオートバイにこっているくらいのものだ。

これではお金がたまってしようがないだろう。巨額な収入はどうしているのか。※ヘッジファンドに運用させて、よりためこんでいるのか。いや、本作の舞台となった72年当時はヘッジファンドは一般化されていなかった。

ギャンブルにつぎこんだりフーゾクにうつつを抜かして大金を投入しているわけではない。ましてやどこぞの教団にお

シロー
弟の名は兜シロー。かつて中央競馬に同名のカブトシローという馬がいた。天皇賞をとった名馬である。名付け親はたぶん十蔵博士。意外とギャンブル好きなのかも。

ヘッジファンド
拓銀や山一証券が潰れたときにヘッジファンドは株の空売りをして莫大な利益をあげた。拓銀で360億円、山一で1800億円だといわれている。

布施をしているわけでもない。

もったいつけずにいおう。莫大な資産はすべて研究費につぎこんだのだ。巨大スーパーロボットの開発に全資産を投入したのである。

それが※史上初の人間乗り込みタイプのロボット、マジンガーZである。後に一般化するモビルスーツ型ロボットの輝けるパイオニアなのだ。

これはスゴイことである。なにがスゴイのか要点をわかりやすく整理すると、次の3点が挙げられる。

1　ポケットマネーにより趣味で巨大ロボットを造った。
2　誰の助けも借りずたったひとりで巨大ロボットを造った。
3　遠隔操作方式ではない、モビルスーツ型の巨大ロボットを造った。

兜博士は誰もなしえなかった偉業を打ち立てた、まさに天才の名にふさわしいサイエンティストだったのである。

輝ける「博士の時代」の最後の博士

兜博士は科学の古きよき時代を代表する博士である。兜博士の青、壮年期は、博士個人の独創と天才によって科学が進歩する時代だった。アインシュタインの相対性理論、※湯川秀樹の中間子理論…輝ける才能が科学を未来へと前進させていい

史上初
手塚治虫の『魔神ガロン』のガロンも、ピット少年が心臓部に収まって初めて正常に作動する。ガロンも一種のモビルスーツか。

湯川秀樹
湯川秀樹は平和問題にも取り組むなど、評価が高い。しかし、文学者の唐木順三は厳しく批判する。湯川秀樹には、自分が築いた素粒子論を基にして原爆が製造されたという意識が薄いと。物理学が核兵器の開発を助けたという、科学者としての「原罪」意識が感じられないというのだ。

った。

しかし、そうしたグッドオールディズは長くは続かなかった。

1960年ごろを境に「博士の時代」は曲がり角を迎える。科学の飛躍的な進歩によって、面白くファンタスティックな研究がやりつくされてしまったのだ。世の博士の前には科学の未開の処女地は残っていなかったのである。世間をアッ※と驚くタメゴローと唸らせる発明や発見は、そうそう望めなくなってしまったのだ。

博士たちの前に残されたのは、コンピュータとにらめっこの、独創性とは縁のない複雑で煩雑で面白くもない研究ばかり…。

さらにアメリカのアポロ※・プロジェクトを契機に科学は巨大化し始める。ときには国家の強力な後押しをうけ、膨大な資金と人力を投入して行われるビッグプロジェクトと化したのであった。

そこには、ひとりの個人の独創が入り込む余地は少ない。いかに博士といえどもビッグプロジェクトの前では小さな歯車にしかすぎないのである。そこで指導力を発揮できるのは、ほんのひとにぎりのトップだけだ。

ではトップの条件とはなにか。それは独創性、天才性ではない。根回し、人脈、派閥力学…ああ、そこにあるのは、組織の論理だけ。天才の論理はどこにもない。

アッと驚くタメゴロー
69年の人気TVバラエティ「巨泉・前武ゲバゲバ90分！」の中でハナ肇が放ったフレーズ。一世を風靡し、映画化（監督／瀬川昌治）もされた。

アポロ・プロジェクト
アポロ計画は60年7月にスタート。アメリカが国家の威信をかけて取り組んだ。レンジャー、サーベイヤー、ルナ・オービターなどの月面調査、マーキュリー、ジェミニ宇宙船などの飛行実験を行う一方で、サターンV型エンジンの開発も進められた。そこには博士ひとりの手にあまる巨大な知の集積があった。

もう、アインシュタインは必要とされないのだ。むしろ、突出した個人の存在はジャマなのである。

そうした状況にあって、兜博士は異彩を放っている。巨大ロボットの設計から製造までをすべて独力で、しかも資金も自己調達で行ったのである。兜博士の存在は、肥大化し産業化した科学への強烈なアンチテーゼであった。

そうしたことを可能にしたのは、前述した発明の特許による巨大マネーと類い稀な博士の頭脳だったのである。

資材の発注から納品までひとりで切り盛り

兜博士は自宅の地下に巨大な秘密工場を構え、ひとり黙々とロボット製作に励む。全長30メートル、重量120トンもの巨大ロボットを老人ひとりが造ったのである。数万枚にわたる設計図を引き、数十万回線の配線を処理し、数万パーツのキットを接合する。ひとりの人間がなしうる作業量をはるかに越えている。

もちろん実際の熔接や組立は作業ロボットが行う。地下工場でマジンガーZ製作の模様をみると、研磨ロボット、切断ロボット、ドリルロボットと、完全分業システムで作業が進められているのが確認できる。

しかし、かなりの数にのぼるロボットを作業過程に応じてプログラミングする

▲大見得をきる博士のうしろで黙々と作業に励むロボットたち。

と搬入、そして品質管理（QC）※なのである。

数万点にもおよぶ部品を業者に注文し、予定通りにそれらを納入させる。特注品も多いので、納期に遅れる業者も当然出てくるだろう。そうしたチェックをいちいち行わなければならないのである。

また、いくら資金が潤沢だとはいえ、これほど巨大な規模ともなれば、そうそう湯水のごとくは使えない。当然、業者に見積もり書を出させて比較検討し、ダンピング交渉もしたはずだ。

マジンガーZ級の巨大ロボットともなると、経済波及効果はかなりのもの。取だけでも容易でないことは、十分に想像されよう。

こうした巨大機械を造るには、もちろん設計施工も大変だろうけど、同じくらい大変なのが、資材の調達

品質管理（QC）
管理図法など統計学的方法を利用、検査をするなどして品質の安定化と向上をはかる生産管理の大系。

引額もかなりのものになるので、業者にとっても受注できれば大きな利益を呼ぶ。営業担当者も必死だ。となると、売り込みも激しいだろうし、接待攻勢もあったやもしれぬ。70年代初頭の接待はお座敷ブルーフィルム※が人気。兜博士のようなお年寄りでは体がもたないのでは、なんてよけいな心配までしてしまう。

ロボットの製造と平行して、事務関係も処理していかなければならない。請求書の締め日はいつにするのか、月末締めの翌々月払いなのか…そうした煩雑な経理事務まで他人の手を借りずにこなしていったのだ。

恐るべき事務処理能力といえよう。きっと博士のことだから、当然「勘定奉行」のような経理ソフトを作ったことと思われるが、それにしても大したものである。

実験の失敗により、博士としての誇りが傷つく

こうした創造のエネルギーはどこからきたのか。

じつは博士自身の言葉によれば、贖罪（しょくざい）意識からなのである。

兜博士は実験中の事故により、助手をしていた息子夫婦を死なせてしまったのだ。甲児兄弟の両親である。

博士は、自分を責めて責めて責めまくる。不手際で最愛の子供を殺してしまったうえに、孫までをも不幸に陥れてしまったのだ。取り返しのつかない罪悪感が

ブルーフィルム
アダルトビデオが一般化する前に流通していたポルノフィルム。映写機やスクリーンなどの機材が必要なため、日常的に目にすることは少なかった。

▲日ごろエネルギッシュな博士も、息子夫婦を思い出すとシュンとする。

博士を襲う。

その罪滅ぼしのためにマジンガーZを造ったのである。博士の論理によるとこうだ。

「わしが死んだらおまえたち兄弟はたよれるものはいない…。だが心配ない。マジンガーZがあるかぎりおまえは強い！　世界一！」

孫を思うがゆえの祖父の強き愛情…といいたいところだが、これって、どこかヘンである。両親を奪った罪滅ぼしだからといって、なにも巨大ロボットなんぞを造らなくてもいいのではないか。

つぐなう方法は、もっと他に考えられるはずだ。罪の意識に悩むのなら、※般若心経（はんにゃしんぎょう）を写経するなり、四国霊場88か所を※同行二人でお遍路してみるのもいい。

自分が死んだ後の孫の行く末を本気で心配するのなら、相続税の対策や遺産管理を弁護士に託すなどして、甲児らの生活保証をちゃんとするべきだ。生前贈与という方法も、当然視野にいれるべき。特許

般若心経
般若経のエッセンスをわずか262文字で説いた経典。般若波羅蜜多心経、摩訶般若波羅蜜多心経ともいう。伝奇小説やミステリーで暗号の素材に使われることも多い。

同行二人
「どうぎょうににん」と読む。四国巡礼はいつも弘法大師（空海）とともにあるという意味。

の契約の見直しも必要だろう。進路の相談にのってあげたりして、孫たちに将来へのサジェスチョンを与えることも大切だ。

身の回りのことが心配なら、家事ロボットを造ればいい。則巻千兵衛博士のスーパーお手伝いアキコさん（P174参照）に負けないものができただろう。頼りになる存在が必要なら、ボディガードロボットですむはずである。なんなら高性能南極2号でもいいではないか。なにも、身長30メートルのスーパーロボットなど必要ないはずだ。あまりに極端である。

思うに、兜博士は実験事故のショックで精神に異常をきたしたのではないだろうか。愛する息子夫婦を失い、精神のバランスを崩したものと思われる。いや、それ以上に完全無欠だと思っていた科学者としての自信と誇りを、事故の爆発によって吹き飛ばされてしまったに違いない。きっとこちらのほうがショックだったのではないだろうか。

それは、次の博士の言葉からも明らかである。ロボットの存在を初めて甲児に明かしたときに発したものである。

「おまえはマジンガーZを手に入れた　たったいまから人間をこえるのだ。おまえは超人じゃ！　いやそれ以上のものだ！」

「おまえは神にも悪魔にもなれる。神となり人類を救うことも！　悪魔となり

▲「世界平和のために使え」くらいは言ってほしかった。

世界を滅ぼすことも！」

「おまえの自由だ。おまえがえらべる！　おまえのすきかって に世界を手玉にとるがよい！　世界はおまえのものじゃぞ！」

イッちゃってる…。

罪滅ぼしでもなんでもない。実験事故で失われた科学者としてのプライドと自信を、スーパーロボットを造ることで取りもどしたかっただけのようだ。孫のためだなんて、おためごかしもいいところ。実際は自分自身のため。これも博士というものの性なのか、業なのか。なんともエゴイスティックな存在ではないか、博士ってやつは。

なんだかんだいいながらも、ロボット製造によって、博士の誇りは取りもどせたようだ。そのうえおつりがきた。兜博士の異常な愛情が注がれたマジンガーZは、それほど画期的なメカニックだったのである。

モビルスーツという革命的な設計思想を創造

マジンガーZは、ロボットの設計思想に革命をもたらした。

鉄人28号以来、連綿と続いた遠隔操作でロボットを操縦するという方式からの転換を計り、モビルスーツ方式を採用したのである。

操縦者をロボットに組み込んだことにより、操縦性は飛躍的にアップ。ロボットの視点にたって制御できるようになったのだ。

いってみれば、人間の意志をロボットを通じてフィードバックすることに成功したのである。

ロボットにおけるフィードバック機構の確立、これぞ兜博士の独創※であった。

フィードバックとはよく聞く言葉。どういう意味か。直訳すると「元に供給する」こと。結果をもう一度原因のほうへもどすという意味で、工学的にいうと、出力の一部を入力側にもどして出力調整を行うことである。

なにやら難解なようだけど、そんなことはない。私たちが日常的に経験していることだ。

たとえば歩行、ウォーキングがそう。まず右足を出し、その感触を受け左足を出す（もちろん左右どちらが先でもいい）。交互に調節しつつ足を出し、あると

独創
独創とは99％の過去の遺産からの吸収と、1％の新しい積み上げによって生まれるという。過去のロボット工学をすべてカバーしたのだろう。当然、敷島博士の業績からも学んだはずだ。

きは犬のフンなどの障害物をよけ、あるときは道なりに進む。こうして思いのままに歩くこと。これが※フィードバックだ。

マジンガーZにおけるフィードバックを理解するには、自転車や自動車の運転をイメージしてもらえれば早い。車の場合、ハンドルを右に切りすぎたら左にもどす。マジンガーZの場合も同じ。兜甲児がコックピットでハンドルやレバーを動かし、思うように操る。兜甲児の感覚が操縦装置を通じて、そのままアウトプットされるのである。

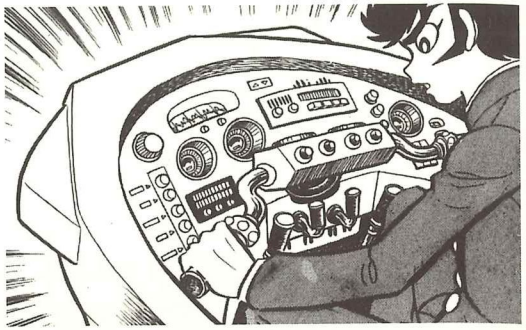
遠隔操作ではそうはいかない。たとえばラジコンカーは、いくら練習してもふつうの乗用車を運転するようにはコントロールしきれない。マシンが操縦者の視界から消えればフィードバックは困難になる。

その点、マジンガーZは人間とロボットとが調和のとれたフィードバック機構を形成している。甲児は、思った動きをマシンを通して自由に実現（フィードバック）できるのである。

フィードバック機構と連動するのだが、この他の博士のオリジナル技術として、マジンガーZの電脳部分を本体と分離したことが挙げられる。

コックピットが小型のホバークラフト（ホバーパイルダーと命名）として独立したマシンになっているのだ。甲児がそこに乗り込みマジンガーZ本体と合体する仕組みなのである。

フィードバック
人間のコミュニケーションにもフィードバック機能がみられる。話し手が自分自身の声を聞きながら話の内容に修正を加えていく「個人内フィードバック」と、話し手が聞き手の返答や身ぶりを確かめながら修正していく「個人間フィードバック」の2つの機能である。


▲ハンドルがまるでオートバイ。操作はさほど難しそうではない。

コックピットにはオートバイのようなハンドルとレバーがあり、計器盤が多数配列されている。だが、多いといってもふつうの飛行機よりもずっと少ない。これだけのメカでマジンガーZの複雑な動きを制御できるのである。抜群の操作性である。

もっとも、兜甲児がマジンガーZの操縦法をマスターするまでには、多大な犠牲を払ったことは事実。兜博士は甲児に操縦マニュアルを伝えてなかったのだ。大変間が抜けているのではあるが、それはご愛嬌。天才には、えてしてそんなところがあったりして。

マニュアルがないため、恐ろしいことに甲児はいきなりマジンガーZを無免許運転したのであった。

見よう見まねで操縦するのだが、※オートバイのようなわけにはいかない。甲児を乗せたマジンガーZは暴走する。兜家の地下工場から市街地に飛び出し、無差

オートバイ
兜博士が甲児にオートバイを次々に買い与えたのは、マジンガーZの操縦の予備訓練の意味があったのだ。深謀遠慮というやつである。

別破壊をくりひろげてしまう。民家は踏みつぶすわ、高速道路は叩きつぶすわ、オフィスビルは倒壊させるわ、暴れほうだい。

甲児がやっと操縦法をマスターしたときには、街は廃虚と化し膨大な死傷者を出したあと…。そうした尊い犠牲があって初めてマジンガーZのフィードバック機構は確立されたのである。

以下は余談。最近、フィードバックという言葉を誤った用法で使うケースが目立つ。誰の歌とはいわないが、歌詞の中で「思い出をフィードバック」うんぬん。回想という意味で使っているようだが、そいつは違う。日本の歌謡界はもっと厳密な言葉遣いを心がけてもらいたいものだ。同じ音楽でも、伝説のギタリスト、※ジェフ・ベックの※フィードバック奏法は、音のノイズを再びアンプにもどし、それを効果として使うのだから、正しい用法である。

この他、兜博士はマジンガーZを造るにあたり、数々の独創的な技術を駆使している。いくつか紹介してみよう。

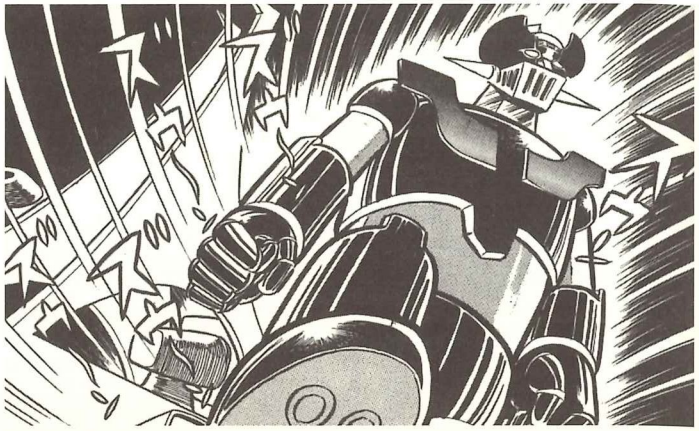
ボディに使用した金属は、博士の発明した未知の合金だ。

その名は合金Z。

現在地球上でもっとも強い金属といわれている。自衛隊の戦車部隊の一斉射撃を浴びてもびくともしない。たとえ北朝鮮がテポドンをぶちこんできてもきっと

ジェフ・ベック
エリック・クラプトン、ジミー・ペイジとともに3大ギタリストとして60年代末から70年代にかけて全盛を迎える。ヤードバーズ、ジェフ・ベック・グループ、BB&Aなどグループ時代もいいが、『ワイアード』や『ギター殺人者の凱旋』などソロ時代も渋い。ギターはギブソン・レスポール、アンプはマーシャル。

フィードバック奏法
サンタナの『哀愁のヨーロッパ』のむせび泣くようなギターが印象的。キャバレーの閉店のBGMとしてもおなじみの曲。



▲鉄人28号と比べるとスタイルはより洗練化。ロケット・パンチで敵をノックアウトだ。

大丈夫。※あしゅら男爵の操る機械獣トロスD7の角によって穴をあけられてしまったことがあるが、ボディが破損したのはその一度きり。抜群の耐久性を誇っている。

マジンガーZの動力源は、画期的な光子エネルギーである。従来の原子力エネルギーでは、核廃棄物処理や核の偶発事故の可能性など、クリアすべき課題が多すぎた。その点、光をエネルギー源とするなら、そうした心配はいらない。汚染や事故とは無縁の、地球にやさしいエネルギーだ。

太陽からは毎秒40兆キロカロリーのエネルギーが地球に降り注いでいる。40兆キロカロリーといわれてもピンとこないが、7000万トンの石炭

あしゅら男爵
マジンガーZの魅惑の敵役。右半身が女、左半身が男という完全両性具有。なのに男爵というのは男性優位思想の表れか。フェミニズム運動家は抗議しよう。

を一気に燃やした熱量に相当するという（これもピンとこないか）。どちらにしろ、太陽エネルギーは無尽蔵と考えていい。マジンガーZにはエネルギー問題は存在しないのである。

オビ・ワン・ケノービに先立ち死後も大活躍

以上、兜十蔵博士の天才性を検証してきたわけだが、じつは原典において、博士は登場してすぐに死んでしまうのである。表紙から数えて36ページめであっけなくも姿を消してしまうのだ。

中公文庫版で4巻ある長編のほんのプロローグ部分で早くも退場。登場カットにしてわずか39コマ（手や頭の一部の露出もふくめて）にしかすぎない。マジンガーZ製作中に地震による事故で死んでしまうのだ。はかない最期である。

しかし、兜博士の画期的なところは発明だけにあるのではない。死んだのちも重要な登場人物として物語を支えていく点に、キャラクターとしての博士の画期性があるのだ。いわば死後も生きているのである。

もちろん背後霊とかオカルトの類いではない。甲児の心の中、意識の中に生きているのだ。マジンガーZがピンチに陥ると、姿を現し甲児を叱咤激励するのである。

▲兜甲児もまたフォースの使い手、ジェダイの戦士なのかもしれない。

これって、なにかを連想させないだろうか。そう、『スターウォーズ』における、※オビ・ワン・ケノービがいやでも浮かんでくる。

オビ・ワン・ケノービも、ダース・ベイダーに殺された（？）あとも、主人公ルーク・スカイウォーカーを見守り、励まし続けていく。名セリフ「ルーク、フォースを使え」というあれだ。

兜十蔵も甲児がピンチになると「おまえはなみの人間ではない！　世界無敵の超人なのだぞ！」と、励ますというか、無責任にけしかけるのであった。甲児には祖父の姿が実在として見えるのである。

どちらも、知恵のある老人が肉体を失ったあとも若者の冒険を支援し続けるという構図であるが、本作のほうが発表年度は古い。※ジョージ・ルーカスは、兜十蔵にインスパイアされてオビ・ワン・ケノービの性格設定をしたのかもしれない。

オビ・ワン・ケノビ
『エピソードⅢ』にてオビ・ワンを演じたのはアレック・ギネス。『戦場にかける橋』『アラビアのロレンス』『ドクトル・ジバゴ』などD・リーン監督作品でもおなじみの名優だ。

ジョージ・ルーカス
日本映画にも造詣が深いルーカス。ヨーダというネーミングは、溝口健二監督作品でおなじみの名脚本家・依田義賢にちなんだものだとか。

兜剣造博士

ゾンビのごとくよみがえった兜剣造博士

兜十蔵博士には死んだ息子がいたと先に述べた。その死によって、兜博士が精神に異常をきたしたほど愛していた子供である。

兜十蔵博士の息子の名は剣造。じつは、この人も科学者だった。十蔵博士の後継者だったのだ。天才博士の血を受け継いでいるだけあって、剣造博士も優秀な学者であった。それだけに、その死が十蔵博士に与えた影響は深刻だったといえよう。

ここで、ひとつ訂正をさせてもらう。剣造博士は実験事故で死んだと書いた。しかし、それは正確ではない。じつは博士は死んではいない。生きていた。いや、一度死んだのだが、よみがえったのである。というと、なにやらジョージ・A・ロメロっぽくなるが、剣造博士は、父・十蔵博士の手によって半機械人間のサイボーグとなって生き返ったのだ。

十蔵博士のこの行動はどう考えても異常である。

▲なんともいたましい姿である。ところで妻は死にっぱなしなのか。

ジョージ・A・ロメロ
ゾンビ映画の巨匠として、一時カルト的人気を誇った監督。『ゾンビ ディレクターズカット完全版』『クリープショー』など。ゾンビは「プログラムされた細胞死」に対するアンチテーゼだと深読みするバカ…いや人がいる。

サイボーグ
語源である「サイバネティックス」はギリシア語の「キュベルネテス（操舵士）」からの造語。操舵士が舵を右へ切ったり左へ切ったり調整をしながら船を操ること、つまりフィードバックすることからきている。一世を風靡した「サイボーグ」だが、今やすっかりバイオに押され廃れてしまった。

▲ミケーネ帝国の七大将軍を相手に死力を尽くすグレート・マジンガー。

いくらわが子可愛さとはいえ、死人をよみがえらせるのは、人倫に反する。しかも、半機械人間としてだ。十蔵博士はマッドサイエンティストと化してしまったようだ。

十蔵博士は、サイボーグとなって復活した剣造博士に命令を下す。未知なる敵の襲来に備え、※グレート・マジンガーを造り、科学要塞研究所を建設しろというのだ。それも、一般社会とは関係を絶ち地下活動をすることが条件だ。

剣造博士は、愛する息子の甲児とシローに会うことすら禁じられたのだ。

十蔵、剣造親子にみる博士の深い業

過酷な指令だったが、黙って従う剣造博士。それどころか父の期待以上の成果をあげる。剣造博士が造ったグレート・マジンガーの性能は、父の造ったマジンガーZを超えていた。ボディも超合金ニューZ。すべてにおいてパワーアップだ。

博士の行動には少しも迷いがない。世俗の楽しみや喜びを一切顧みることな

グレート・マジンガー
キャッチフレーズは「地上の平和を守るため神のつかわした偉大なる勇者グレート・マジンガー！」。これは操縦者である剣鉄也が機械獣の「なにものだ～ッきさま」という問いかけに答えたもの。

▲死して悠久の大義に生きる。これぞ日本的心情。

く、ただ正義の実現のためだけに生きる剣造博士。なぜそれほどまで父の命令に従うのか…。十蔵を信頼しているからか。それとも恐れているからか。

これだけはいえる。本来死ぬべきところをサイボーグ手術によって蘇生させられた剣造博士は、父のくびきから逃れる方法はたったひとつしかないということだ。

それは死である。再び死ぬことである。

実際、剣造博士は、恐るべき敵・地獄大元帥を自らの科学要塞研究所におびき寄せ、研究所ごと自爆するという壮絶な最期をとげるのであった。自爆※することで、父の呪縛を解いたのである。

マジンガーZをめぐる父と子の人間模様には、なんとも深い業が感じられるではないか。唯一の救いは、博士三代目の甲児が科学者となるためにアメリカ留学に旅だったこと。自由なアメリカの研究所生活を経験することで、必ずや父や祖父のような情念の深さから解放されるはずである。

兜甲児が、深刻さとは無縁なハッピーな博士に成長することを、みんなで期待しよう。

自爆
剣造博士は自らを犠牲にして地獄大元帥と差し違える。その直前に博士は、ついに甲児と涙の対面をはたしている。思い残すことはなかったのか、笑顔で死におもむいている。

第2部付録

博士黄金伝説図鑑

かつては博士のひとりひとりが、ドラえもんの4次元ポケットを持っていた。みんなのニーズに応えて、あるときは口ボットを出し、あるときは口ケットを出し、またあるときはスーパー潜水艦を出してみせた。

次々と新しいアイテムを出すマジシャンのような博士たち。その鮮やかな手際にブラヴォーの声をおしまなかったあの時代…。

博士のグッド・オールド・デイズ。

黄金時代の博士は今でも十分新鮮だ。時代の風通しもよかったし、だいいち博士がつねに前向きだった。

だから、たとえ発明品が古びようと、その精神は、いついつまでも輝きを失うことはないのである。

野津井博士　死霊憑きの和製ジキル

「まぼろし探偵」　桑田二郎

銃撃戦の末、死んだギャング団のボス・加保根の脳を取り出して自分の研究室に持ち帰り、培養液の中で保存、記憶や思考を読み取る実験をする。だが、博士の精神は加保根の脳に乗っ取られてしまう。つまり外見は野津井博士なのだが、内面は加保根なのである。

その野津井＝加保根はギャング団を再興。加保根の生前同様の犯罪に手を染める。機械をはずして正気に戻った野津井は、加保根に体を乗っ取られてたまるか、と脳をこわそうとする。しかし、脳も野津井の精神に働きかけ、野津井から殺意を奪い取る。

月見博士　発明品で濡れ衣を着せられる羽目に

「まぼろし探偵」　桑田二郎

防火服の発明者。だが、この発明品のためにとんだ濡れ衣を着せられる。放火殺人犯で脱獄囚の蛇山は、月見博士を襲って監禁。防火服を奪い博士に変装し、火事場泥棒を働いた。

この防火服、大火事でもへっちゃら。消防庁使用の物より優れ物だ。

出府野博士　等身大ロボなのに巨人とは？

「巨人16号」　桑田二郎

宇宙で行方不明になった両親を捜し出そうと宇宙探偵に志願する少年のために、超高性能人型等身大ロボット・ジャイアンツを宇宙探偵16号として派遣する。等身大なのに巨人とはこれいかに。巨人軍の大ファンなのか？　宇宙探偵は明らかにロボット刑事やロボコップの先駆である。

©桑田二郎

オビ　プライドの高い職人肌の博士

「超犬リーブ」　桑田二郎

世界一の大企業SF社の技師でロボット犬リープを造る。だが、彼は自分の傑作を独り占めしたくなり、これを商品化して大々的に売り出そうとするSF社を抜け出す。巨万の富よりも職人としての誇りを選ぶ頑固者だ。

博士の情報提供者には100万ドルの賞金がかけられる。

牧博士　世間知らずの地震博士

「超犬リーブ」　桑田二郎

世界一の地震学者。招かれて渡米するのだが、スポンサーは犯罪組織MMM（殺人、軍隊、狂気の英語の頭文字）団。博士の発明した地震発生装置を悪用しようとする。そこでMMM団を抜け出そうとし、刺客に追われるところをロボット犬リープに救われる。

東博士　鉄腕をもって鉄人を制す

「鉄人ブラック」　桑田二郎

突然現れた謎の巨大ロボット・ブラックが暴れ回ってみんなは大弱り。そこで東博士は少年の姿をした等身大ロボット・鉄腕トップを開発してこれに当たらせる。これはいってみれば、「鉄腕アトム」と「鉄人28号」の夢の対決である。当時の少年たちの夢の代理戦争である。

バイブル博士　己の発見に振り回される

「宇宙博士」　桑田二郎

フワール彗星を発見。だが、その軌道を計算したところ、地球に衝突する見込みが強い。この危機を回避するために忙殺される。発明や発見を求める学者が、その名誉のために厄介事に巻き込まれるという皮肉である。

「アルマゲドン」を先取りした内容だ。

©桑田二郎

東郷直樹　死んだ息子を甦らせた親バカ

「ゴッド・アーム」　桑田二郎

ノーベル賞候補になる偉大な科学者で、息子・日出人は空手界のスーパースターだ。

だが、その日出人が死んでしまう。そこで息子をサイボーグとして復活させるのである。

生前の息子は無敵の空手家だったが、復活した彼は化け物的な強さを発揮する。

ゲルハルト・ハインリッヒ　格闘ヒーローを悪の兵器に

「ゴッド・アーム」　桑田二郎

ナチスの研究員。細胞を強化して常識を超える力を出させるV100なる薬品を発明。

ナチス再興をもくろんで、そのために働いてくれる超人を生み出そうとしていた彼のお眼鏡にかなったのが格闘界のヒーロー、東郷日出人だったというわけである。

浅岡博士　少年ジェットの頼もしき後見人

「少年ジェット」　武内つなよし

X0型ロケットを開発。何かと少年ジェットをサポート。悪の組織にしてみれば、そんな博士が邪魔であれこれ魔の手を伸ばしてくるのだが、どっこい博士はロボットを開発してこれを撃退してみせるのだ。空も飛べるなど、当時としては画期的なメカである。

荷蛭妖造　少年ジェットにミラクルボイスを伝授

「少年ジェット」　武内つなよし

犯罪組織・紅さそりのリーダーとして悪事を働く。かつて天才科学者として学界の表舞台で脚光を浴びていたが、悪い一味の罠にはまって社会的地位を失う。そのため、自分をハメた連中に復讐を誓う。少年ジェットと敵対するが、ジェットを見込み、秘技ミラクルボイスを伝授する。

©桑田二郎　©武内つなよし／アース出版局

トイレット博士　世界一バッチイ博士の高潔な志

「トイレット博士」とりいかずよし

今も昔も、子供はウンコの話が大好きだ。そうした童心をいつまでも忘れなかったのが、トイレット博士である。

博士は、その名の通り、排泄や糞尿に関することなら何でも研究するという人物である。スカトロ・サイエンスの第一人者だ。

経歴もかなりキョーレツ。クソ医大うんこ研究部出身というから恐れ入る。卒業後、トイレット研究所を開き、研究と診療の生活に入る。人体をミクロ化できる薬を発明して患者の体内に入り、便秘を解消してやったり、くみとりロボを開発するなど、天才的なところを見せる。

早乙女博士　変形合体のコンセプトを創造

「ゲッターロボ」
作／永井豪　画／石川賢

巨大ロボに新コンセプト「合体変化」を導入し、飛躍的に性能アップを果たす。博士は最愛の息子を世界征服をたくらむ恐竜帝国に殺される。そのため巨大合体ロボット・ゲッターロボを造り、恐竜帝国にリベンジを挑むのであった。浅間山の早乙女研究所をベースに日夜奮闘する。

シッコモーロー博士　ぬとぬと系マッド・サイエンティスト

「シッコモーロー博士」　吾妻ひでお

7つの博士号を所持し、原爆まで造ってしまう天才科学者。激安ラブホテルを装って若いカップルをおびき寄せ、首を切り、その胴の肉を首だけになったカップルにも食べさせる。それも、これは人間は首だけで生きられるのかの実験なのだ。

また、美少女アンドロイドを造っても、男性生殖器をくっつけて、チン子などというみっともない名前で呼び、挙句に博士自身をかたどった巨大ロボットで踏みつぶす。

かと思えば、魚屋で「そせー液」なる薬品を店頭の魚にかけて生き返らせて釣るという、本当はすごいんだけどわけのわからない行動を示す。

©ダイナミックプロ　©吾妻ひでお

小早川令次郎　神を作ろうとしたエコロジスト

「デビルキング」　さいとう・たかを

まず博士は日本一の外科医で細胞学では世界的権威。現代整形外科の基盤を築き、植皮術も博士が編み出す。そんな彼が軽井沢で2年がかりで、新陳代謝を活性化することで個体を巨大化する研究をしていたのである。そして助手の古場に連れて来させた青年を巨人にして、彼を世直しの神に仕立て上げる。巨人は異常に活性化された新陳代謝の力で、病人を治し、動物を巨大化したりといった奇跡を見せて人心を掌握する。

だが、博士は巨人の力を独占して来たるべき新時代の支配者になろうという野望を抱いた愛弟子・古場によって殺されるのである。

滝沢三郎　悪の博士はいじわるじいさん

「ザ・シャドウマン」
さいとう・たかを

さまざまな運動能力が飛躍的に向上した黒い肌の超人・シャドウマンを開発。第二次世界大戦中には、ナチスの研究員であった。滝沢は、たるみきった「文化国家」の破壊を選択する。偽りの繁栄などたたきこわし、思い出の中にある懐かしい古きよき祖国を復興するために。

テム・レイ　アムロの父はガンダムの技術開発者

「機動戦士ガンダム」　作／矢立肇　富野由悠季　画／岡崎優

モビルスーツ・ガンダムの技術開発者のひとり。ガンダムは、各種モビルスーツのなかでは抜群の完成度の高さを誇っているが、それも技術長であるテム・レイの力によるところ大である。

息子は、ご存じアムロ・レイ。ガンダムの操縦者として大活躍する。

©さいとう・プロ©創通エージェンシー・サンライズ©岡崎優／大都社

南部博士　公害学者転じて戦隊司令官に

「科学忍者隊ガッチャマン」　吉田竜夫

者。それが、科学を悪用するギャラクターの悪事が許せず、これと対抗すべく結成されたガッチャマンの司令官に転身する。

鳥をイメージしたキャラクターといい、無公害エネルギー研究者出身といい、自然を愛する人間像が浮かんでくる。「博士」という肩書きの割に、従来の天才博士たちのようにスーパーロボットや超兵器を発明したりするシーンがあまり描かれず、もっぱら司令官という軍人のような役割に徹している。「新世紀エヴァンゲリオン」の、碇ゲンドウあたりの祖先と言えよう。

ガッチャマンの司令官。元々は国際科学技術庁で無公害エネルギーを研究する学

ミノス博士　南部博士の裏をかく作戦を実施

「科学忍者隊ガッチャマン」　吉田竜夫

科学を悪用して世界征服をたくらむ犯罪組織ギャラクターで、主にメカデザインを担当。

ガッチャマンの変身は特殊な高周波の音波でなされるという原理を見破ったミノスは、この高周波を打ち消す低周波をぶつけてガッチャマンの変身を妨げる。

木江田博士　備えあれば憂いなしの慎重博士

「タイム・ボカン」　吉田竜夫

タイムマシンに戦闘メカの要素を盛り込んだタイム・ボカンを製作。タイムマシンを完成させ、時間旅行をするだけでよしとせず、時間旅行をした後のことまで考えに入れていた。

つまり、過去や未来での不測の事態に備えることを忘れなかったのである。

©タツノコプロ

山田博士　マッド・サイエンティストの息子は孝行者

「バイロットA」　吉田竜夫

A10ロケットを研究。が、その斬新でユニークすぎる理論は誰にも理解されず、実現の見込みなしとして研究費も下りない。

だが博士の息子は孝行者。レーサーになって賞金を稼ぎ、そのお金で父に研究をさせてやろうとするのだ。美しい話である。

丸出はげ照　ダメ息子のために天才的発明を連発

「丸出だめ夫」　森田拳次

ノーベル賞候補3回、アカデミー賞候補1回、参議院選挙に立候補すること5回、オリンピック候補2回という文武両道に秀でた博士。だが、頭痛の種は落ちこぼれの息子・だめ夫。成績はつねにビリ。そんなダメ息子のために睡眠学習機や、ボロットというロボットの弟を造る。

東光太郎　飼い犬に手を噛まれ後ろ指さされる

「新造人間キャシャーン」　吉田竜夫

従来の公害源の化石燃料や原子力の機械に代わる労働力を求めてアンドロイドを研究。だが、開発中のBK1号は落雷のショックで暴走。自らブライキング・ボスを名乗って、アンドロイドを奴隷化しようとする人間たちに復讐するため、アンドロ軍団を結成、暴虐の限りを尽くす。

アンドロイド研究に対する非難の声が上がり、博士も狂人扱いされて、人類の敵も同然。博士の息子・鉄也は、父に自分をアンドロイド化して闘わせるよう頼む。父の技術で問題を解決すれば、父の技術から生まれたアンドロイドの暴走も帳消しになるという計算、いや孝行心だ。

©タツノコプロ　©森田拳次

沖博士　天下の異変は食卓にあり

「潜水艦スーパー99」　松本零士

深海探索用潜水艦バチスカーフ「くろしお」を開発した沖博士は、海底の異変を探る

に当たって、テレビでこう発言する。「サンマが高い」

博士が言わんとしているのはこうだ。つまり例年に比べてサンマの水揚げ量が異常に少ない。それは海流に異変があったからに違いない。だから、海底深く潜ってその原因を調べるのだ、と。

博士は片腕である長男と共に「くろしお」に乗り込むが、次男にはもしもの時は後のことは任せた、と「SS99」と刻まれた鍵をわたして留守を命じる。そしてそれこそは、「くろしお」以上の超高性能潜水艦スーパー99の鍵だったのである。

塚森博士　不屈の信念を持った大科学者

「電光オズマ」　松本零士

自ら開発した新型高性能船・日本丸の船長となって出港。だが、インド洋を根城にする謎の組織ノバ帝国の手によって沈められ、遺体となって発見される。その遺体は冷凍保存されるが、今度はその冷凍の遺体がノバ帝国に奪われる。彼らは博士の優秀な頭脳を利用するつもりなのだ。卓越した科学力を誇る彼らは博士の蘇生に成功。ノバ帝国は博士夫人を誘拐して来て博士を脅し、自分たちに協力するよう博士に命ずるのである。しかし博士はこのような人類の敵に力を貸せない。そんな時、スーパーヒーロー・オズマが現われ、博士夫妻は無事救出される。

©松本零士

ジョージ　明るさは孤独の裏返し!?

「ピコピコロボベエ」　ジョージ秋山

底抜けに明るいお調子者。だが、彼は孤独。家族も友達もペットさえもいない。その孤独を癒すためにロボットを造ったとしか思えない。ロボベエも底抜けに明るいし、またロボベエの10年前に造ったイジワルEという、その名の通りイジワルなことばかりするいじめっ子ロボットでさえ、実は友達のいない博士がコミュニケーションを求めて造ったに違いない。ロボベエの後、ポポちゃんという美少女ロボットを造るのだが、ロボベエたちのガールフレンドではなく、なんと、ジョージ自身のおよめさんロボットだというのだ。悲しくて泣けそうなエピソードではないか。

ガニ平博士　ひたすら動物ロボットを造る孤独人

「ピコピコロボベエ」　ジョージ秋山

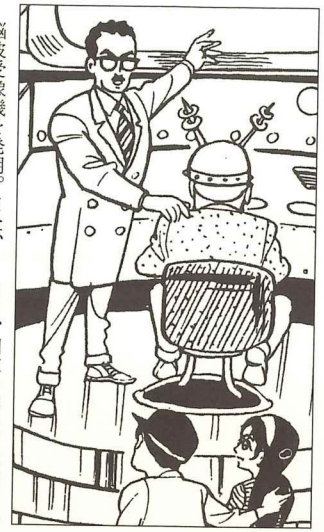
人を困らせるのが大好き。そんな彼が生み出すロボットは、すべて、動物をベースにしている。もしかしたら、彼は動物好きなのかも。

ライバル（？）ジョージと同じように家族も友達もいない孤独な彼は、人づきあいが苦手で、そのまま人間嫌いになったのだろう（この辺が、人間型ロボットを造り続けるジョージとの差異だ）。そんな人間は、しばしばペットを飼ったりするものだが、彼はひたすら動物型ロボットを造り続けることで己の心の隙間を埋めようと生身の動物と接することさえできなくなってしまっているのかもしれない。

©ジョージ秋山

沖博士　大科学者にして町の小さな開業医

「電人アロー」一峰大二



脳波受像機を発明。また、開発されたばかりの時速900キロのニュー光号で、超高速走行が人体に与える影響を実験するよう依頼されているあたり、国家レベルで信用されている、ということがわかる。が、こんな偉大な学者の自宅には「沖医院」という看板が掲げられているのだ。つまり、国家レベルで尊敬されている偉大な学者が、小さな開業医をやっているのである。その気になれば、もっと然るべき地位にもいられるはずの実力の持ち主が、町の小さな開業医に甘んじてご近所との触れ合いを大切にしている、というこの心理には、実に興味深いものがある。

旗竜作　文武両道の達人ヒーロー

「ナショナル・キッド」一峰大二

若くして学界に名を轟かせた天才。それも天文学、考古学、原子科学など多岐にわたる分野で活躍する万能派。

しかも、この天才博士・旗竜作は、なんとスーパーヒーロー・ナショナル・キッドに変身して敵と闘ってしまうのである。

まさに文武両道の達人。

水野博士　核推進を図る正義ヅラ博士

「ナショナル・キッド」一峰大二

原水爆実験を強行。その核実験に反対するのは、悪の組織に相当する宇宙人と主張する。つまり、核実験に反対するのは、平和主義の美名のもと、日本から戦力を奪って無力化した上で侵略しようという陰謀であり、日本も自衛のため核武装をすべきだ、と言わんばかりだ。

©一峰大二

Xファイター　自分より強いものをひたすら憎む

「電人アロー」一峰大二

師匠・不二博士によって改造された栗田助手のなれのはての姿がサイボーグ・Xファイターである。改造実験は失敗し、怪力どころか非力なサイボーグにされてしまう。栗田は独力で強さを求めるようになる一方で、自分以外の強いものを片っ端から憎むようになる。

黒沼博士　手柄がすべて、邪魔する奴は皆殺し!!

「電人アロー」一峰大二

彼は功名心がすべて。賞のためなら、他人の手柄を横取りすることも辞さない。

そんな彼が沖博士との共同調査で、ほぼ完全な姿で保存された恐竜を発見、その手柄を独占しようとする。さらには、犯罪組織ブラックミストを率いてアロー抹殺を図るのである。

不二博士　人体実験の重すぎた代償に苦悩

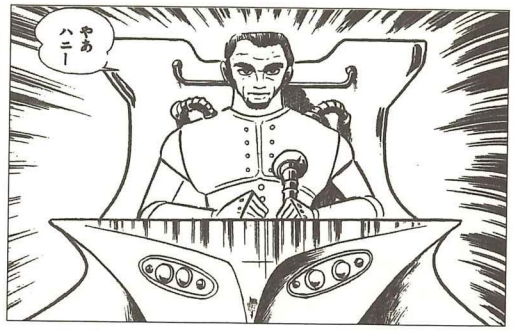
「電人アロー」一峰大二

世界で初めてサイボーグを完成させる。だが、彼にはいかなる栄誉も与えられはしなかった。彼はその偉大な業績を公にしないまま、この世を去ったのである。始めに、彼は息子を実験台にする。その頑強な肉体に、博士が開発した超小型高性能原子炉・不二パイルを組み込み、電力人工細胞の半人造人間・電人アローを完成させる。次にその改良型に着手。息子と違って、ひよわな栗田をアロー以上の怪力サイボーグに改造しようとする。だが、その実験は失敗。博士は絶望し、また助手を人体実験に使ったという罪深さにようやく気づいて自殺してしまうのである。

©一峰大二

如月博士　娘煩悩な現代の錬金術師

「キューティーハニー」　永井豪



彼が娘をアンドロイド化したのは、娘があまりにも病弱だったので、アンドロイド化でもしないことには生きていけそうになかったから。そんな如月博士は生物、理工、物理…などなどあらゆる分野で活躍する天才万能科学者である。

そんな多岐にわたる知識と才能をフルに生かして開発したのが、空中元素固定装置だ。

これは空気中に充ち満ちている元素を物質化して取り出すというもの。実はハニーがさまざまに変身できるのは、この空中元素固定装置のおかげなのだ。

つまり、空気中から元素を取り込んで衣装を瞬時に合成するというわけである。

水原博士　肉体派豪傑でもある天才博士

「ガルラ」　永井豪

大兵肥満の堂々たる威丈夫。若々しく元気。それこそ自分でメカに乗り込んで闘ったほうがいいのでは、というくらい。

健全なる精神は健全なる肉体に宿ると言うが、天才の頭脳と強健な肉体、理想の人間像かもしれない。ただし顔はコワイ。

火鳥ジュン　将棋マニアのナルシスト

「真夜中の戦士」　永井豪

将棋ファンの孤独な天才科学者。将棋の駒を元にしたロボットを造って戦争ゲームをさせる。しかも、そのひとつは自分をコピーしたアンドロイドというナルシストぶりを発揮。研究所でひとりでいるあたり、友人どころか助手もいないらしい。このぶっ飛んだ性格を考えれば当然か。

©ダイナミックプロ

飛鳥教授　魂を売った悪魔に身を張って抵抗

「デビルマン」　永井豪

考古学者でマヤの遺跡を調査中、悪魔の胸像のようなものを発見。氷河期以前の先住人類デーモンの手になるもので、歴史を記録する装置だった。教授はデーモンを研究し、その合体能力を調べるべく、自ら実験台となる。デーモンと合体してからは、それまでの温厚な性格から一転、凶暴に。教授がデーモンと合体したのは、来たるべきデーモン襲来に備え、自らその力を取り込もうという実験だったが、その結果、野獣のように暴れ回る。このままでは、悪魔のような力をセーブできず破壊と殺戮に明け暮れてしまう。彼に残された選択は、自ら死ぬことだけだった。

司馬博士　死してなお、電脳守護霊として活躍

「鋼鉄ジーグ」　永井豪

息子・宙と共に邪魔大王国の刺客に襲われ、瀕死の重傷を負う。そんな中、博士は我が身を捨ててまで息子を救うことを選択する。かねてより研究中の超人に虫の息の息子の肉体を使うことで甦らそうとする。最後の力を振り絞って機械を操作する博士。そんな悲愴なまでの父性愛が功を奏して、宙は息を吹き返す。だが、博士は力を使い果たし、死の間際、自らの記憶をコンピュータにコピーし、バーチャル映像で会話できるようにしておいた。死してなお、息子を見守り、人類の平和を気づかう。父として、学者として、これほど執念を感じさせる人物は他にはあるまい。

©ダイナミックプロ

久留間博士　神の使徒をかたるトンデモ博士

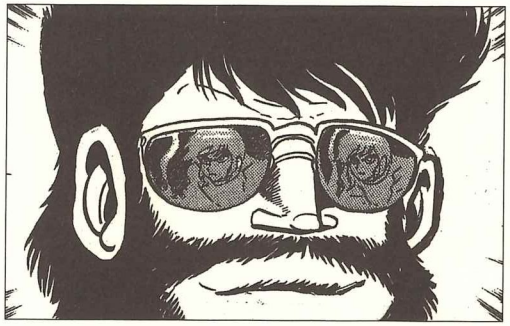
「魔獣戦線」　石川賢

生物学者の彼は国際科学研究所で各分野の天才科学者を集めて怪しげな研究に励む。人類が汚染された過酷な環境下でも生きていけるよう、科学の力で人工的な進化をしなければならない。そう考え、さまざまな動物の力を取り込むことで「進化」しようとするのである。そこで彼は妻と息子を実験台にする。その結果、妻は死に、魔獣となった息子は父を恨むようになる。そんな博士は、自分たちこそ神に選ばれたしもべだと自負する。

科学技術庁きっての優秀な学者だったが、実験の失敗による事故でクビに。その後も、

ユダ博士　良心の呵責から、裏切りを計画

「魔獣戦線」　石川賢



神のしもべを名乗る久留間博士以下の国際科学研究所のメンバーはキリスト12使徒を

なぞっている。

この中のメンバー・ユダ博士ときたら、もう始めから裏切りを宿命づけられているような名前である。

彼は久留間博士のように、家族愛など捨て去って学者に徹するにはあまりにも人間的すぎた。実験で怪物化した息子たちを処分することができないのだ。

ユダ博士は、息子たちの人生を台なしにした久留間博士に復讐を誓う。彼は久留間博士に自分の未来と母を奪われ、報復を狙う慎一を引き込み、久留間博士にけしかけようとする。

©ダイナミックプロ

デーモン博士　超小型ミサイルで8マンを苦しめる

「8マン」
作／平井和正　画／桑田二郎

谷博士の宿命のライバル、それがデーモン博士である。旧ソ連から8マンを奪いにやって来て、谷博士とぶつかりあう。白髪に黒マントのコスチュームがムード満点の怪紳士だ。博士の最高傑作はステッキ仕込みの超小型ミサイル。巡航ミサイルを20年先取りしたスグレものである。

水沢博士　愛の復讐のためレーザー銃をぶっ放つ

「8マン」
作／平井和正　画／桑田二郎

博士が発明したのは殺人レーザー光線銃。どんなものも瞬間的に溶解、切断してしまう。博士はこの銃を駆使して犯罪をくりかえす。博士を犯罪にかりたてたものは、愛する夫を殺した者への復讐だった。最後は復讐を果たし、8マンの腕に抱かれて死んでいく。美人博士ナンバーワン！

大江博士　半ズボンをはいた恐るべき超人類博士

「8マン」
作／平井和正　画／桑田二郎

博士といっても、外見は半ズボンをはいただのガキ。しかし、正体は人類が進化した超人類だった。圧倒的な科学力と超能力で人類に戦いを挑むが、8マンの勇気と愛の前に屈し、巨大円盤にのって超時空の彼方に去っていく。超人類仲間にアレク、ソフィア両博士がいる。

ドラグネット博士　超人間ケリーの復讐のえじきとなる

「鉄人28号」
横山光輝

鉄人以上にフォルムが美しいロボット・ギルバートを造るなど、天才ではあるが人間性に欠陥が。アンドロイド開発中に助手のケリーがミスをしたところ、逆上。彼を人体実験に使い、超人間ケリーに改造してしまう。結局、博士は超人間ケリーによって殺されるはめに。自業自得。

©桑田二郎©光プロ

第3部
世紀末サイバーパンクの博士たち

不乱拳博士　敷島博士の脳みそ奪取を画策

「鉄人28号」
横山光輝

ロボットアカエイや巨大ロボット・バッカスを造った天才博士。バイオ分野にも進出し人造人間モンスターを造るが、知能をもたせることができなかった。そこで目をつけたのが敷島博士の脳みそ。博士を襲い、脳を奪おうとする暴挙にでるが、鉄人に阻止される。本名、不乱拳酒多飲。

牧村博士　「たまごっち」型ロボットを作製

「鉄人28号」
横山光輝

人工知能ロボット・ロビーの製作者。ロビーは今でいうたまごっちのような育成型ロボット。無垢の電子頭脳に子供を育てるように知識を与えていくのである。しかし、こころない助手が善悪の区別のつかないロビーに悪いことばかり教えこみ、博士のもくろみは、もろくもついえる。

ドクター・ヘル　人間不信のかたまりの超マッド博士

「マジンガーZ」
永井豪

まさしく名前通りの「地獄博士」。世界征服の野望に燃え、機械獣軍団を組織し、マジンガーZと真正面からぶつかりあう。博士は徹底した人間嫌いの人間不信論者。そのため死者の脳を機械に埋め込み、意のままに操れる機械獣軍団を造ったのだ。マジンガーZ最大の敵である。

弓弦之助博士　女性型ロボ・アフロダイAの生みの親

「マジンガーZ」
永井豪

光子力開発研究所所長。兜十蔵博士の一番弟子で、師匠のマジンガーZにならってアフロダイAを製造する。フェミニン型の巨大ロボットは史上初であった。娘のさやかが搭乗し、マジンガーZとペアを組んで難敵に立ち向かう。兜甲児の後見役になるなど、なかなかの人物である。

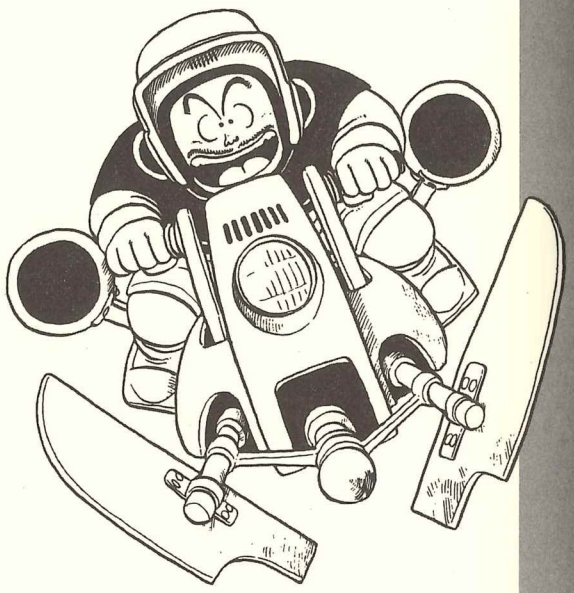
©光プロ©ダイナミックプロ

神様・手塚治虫とともに科学の夢は失われてしまった。
科学に導かれてたどり着いた約束の土地は、ユートピアではなかったのだ。
かつて人々は科学のまぶしい部分にだけ目を奪われていた。
しかし、人々は気づいたのだ、科学にはダークサイドがあることを。
80年代に入り、博士たちも無理をして正義の味方のふりをしなくなる。
世界平和だ、人類の未来だのという、できもしないことは口にしなくなった。
口にしたところで、信じてくれる人はもういないからだ。
そして、90年代に入ると、むしろ進んでドロップアウトし始めるのである。
天才博士は自ら、マッド・サイエンティストへの道を選択していくのであった…。

第③部　世紀末サイバーパンクの博士たち

則巻博士

「発明は日常を面白くするためにある」そのポリシーでアラレちゃんを造る



©鳥山明・集英社

んちゃ。ほよよよ〜。

なんという言語感覚。かつてこんなメチャクチャな言葉をしゃべるロボットがいただろうか。犬のうんちを棒で刺して喜ぶロボットがいただろうか。そんなの、いるわけがない。

少女型アンドロイド・アラレちゃんの登場は衝撃的だった。それまで謎の侵略者と闘うロボットはいた。宇宙空間でミサイルやレーザービームをぶっ放すロボットもいた。しかし、日常生活を舞台に、カワユサとオチャメを武器に暴れまわるアンドロイドは画期的なことだったのだ。

80年代に入ってすぐに登場したアラレちゃんは、ロボットの歴史に新たなページを刻んだのである。悪と闘うロボットではなく、生活の退屈さと闘うロボット。こんなロボット、だれが想像しただろうか。

アラレちゃんの生みの親である則巻千兵衛博士は、そうした意味で日本の空想科学漫画の歴史を変えたビッグでグレートな存在なのである。

博士は、科学の力を世界の平和のために活用しようだの、世界征服のために悪用しようだのと考えたことがない。あるのは、科学を使っていかに生活をエンジョイするか、いかにエッチなことに利用できるかってこと。

80年代の消費文化を代表する天才博士である。

ニュートン
晩年の膨大な研究はすべて火事で消失してしまったとか。それも、飼い犬がロウソクの火を倒したのが原因。このバカ犬のおかげで科学の進歩は半世紀遅れたといわれる。

ガロア
数学的業績もさることながら、風のように駆け抜けた生涯もカッコイイ。ナポレオン没落後の不安定なフランスで反体制運動に参加。恋愛問題のもつれから決闘をし、それがもとで死亡。享年21。ディカプリオのような美形だったとか。

独身
アラレ製作当時は独身だったが、のちにめでたく山吹みどり先生と結婚する。みどり先生が便所で用をたしているときに、便所の外からプロポーズ。見事、先生のハートをゲット。

若き天才博士が造形した完全無欠なアンドロイド

58・6歳。

これ、本巻に登場する100万168人の博士たちの平均推定年齢である。けっこう、いい年している。やっぱり、博士として名を成すには、長い労力と時間がかかるということなのか。高齢化の波は博士ギョーカイにも押し寄せているようだ。

しかし、いつの時代も若い才能というのは必ずあるもの。※ニュートンが力学の法則と微積分を考えたのは20代前半のとき。※ガロアが「方程式のガロア群」を示したのが21歳のとき。アインシュタインが特殊相対性理論を発表したのは26歳のとき。

そうした若き天才の系列に当然加わってしかるべきなのが、われらがドクタースランプこと則巻千兵衛博士である。

なんたって若い。伸び盛りの28歳。外見は少しばかりくたびれモードが入っているが、正真正銘の※独身。若いだけではない。もちろん才能のほうも折り紙つき。

則巻博士はまぎれもなく天才である。天才の最大の発明品、それはもちろんアラレちゃんだ。たしかにアラレちゃんの性能はすごいものがある。

▲アラレちゃんには製造時から泣かされる博士。早くもバカにされる。

電脳による計算能力は未知の数式すら解いてしまうほど。たとえばこんな問題（集英社文庫『Dr.スランプ』1巻「オ〜ッス！の巻」）。

♂÷□△＝

$\frac{\times}{5}$ ＋♀＝

単純なようでいて極度に抽象化された深遠な数式である。こんな問題、車イスのホーキン※グ博士だろうと、おヒゲの秋山仁先生※だろうと、きっと解けやしない。

しかし、アラレちゃんにかかればカシャカシャチーンと答えイッパツ。

♂÷□△＝□○△×

$\frac{\times}{5}$ ＋♀＝♂♀△×

みごと正解（だそうだ）。まぁ、アラレちゃんはまがりなりにもコンピュータ制御なのだから、計算能力が高いのは当然かもしれない。だが、運動制御能力も想像を絶するものがある。

運動制御とは手足を動かしたり、言語をしゃべったり、表情を変えたりといったような、いわゆる外界へのアウトプットの要素である。

アラレちゃんの身体能力は尋常ではない。鉄腕アトムの百万馬力は優に超える。なにしろ、岩を軽く月までほうり投げてしまうほど。地球の重力圏の脱出速度は秒速11・2キロメートル。それを片手で岩石をほうり投げて重力の軛（くびき）をたち、さらに38・5万キロメートルかなたの月まで到達させてしまうのだ（3巻129ページ）。

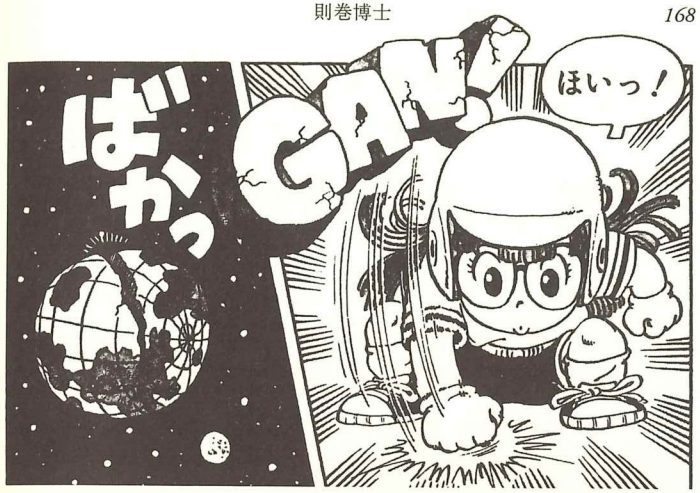
わが国の宇宙開発事業団（NASDA）がきいたらイヤになる。NASDAが開発した2段式液体ロケットHⅡ※が、どれだけ苦労して重力から抜けようとしていることか。

3段式ロケットの第1段に液体酸素と液体水素エンジンと2基の個体ロケットブースターをそろえなければ重力圏を脱出できないのだ。全長49m、外径4m、

ホーキング博士　虚数の実在を提唱する。空間は縦・横・高さの3方向からなるが、博士によると、第4の方向が「虚数の時間」であるという。難解…。

秋山仁先生　日本を代表する数学者にして人生相談回答者にしておヒゲの似合う人。

HⅡ　お値段は1機約190億円。開発費は2700億円で、国民一人当たり約2500円の負担。安いか高いか。ちなみにHは水素のH。



▲アラレちゃんがK1に出場すれば、ホーストもフグもアーツも敵ではない。

全重量256トンの巨大装置が必要なのである。ああ、それなのに、アラレちゃんときた日には、片手でポ～ンだ。それも月まで。

それどころか、拳を地面に振り降ろしただけで地球をまっぷたつに断裂させてもいる（5巻32ページ）。その力はカワラだったら単純計算で5兆8000億枚分に相当する。極真※空手松井派の消費量の何年分だ？

さらに驚くべきことに、アラレちゃんはメディカルテクニックにも神業を発揮するのである。なんたってカエルの盲腸のオペを軽くこなしてしまうのだ。これには、神のごときメスさばきと謳われたあのブラック・ジャックも、内心ビックリといったところだ。

※アンドロイド（人間型ロボット）としては、ほぼ完璧に近い作品といっていいだろう。

極真空手松井派
極真空手は大山倍達総裁の死後、松井派と大山派に分裂。松井派の全世界空手道選手権大会では、試合で決着がつかない場合、試し割りで割ったカワラの数で優劣を決める。

アンドロイド
ロボットのうち、手足と頭のあるロボットをヒューマノイド（人間タイプ）。そのなかで特に質感や雰囲気など外見が人間そっくりなものをアンドロイドという。『スターウォーズ』のC3POはヒューマノイド、アトムはアンドロイドに分類されるが、明確な区分定義はない。ロボコップはどっち？

若さゆえ悩む…博士も今青春のなかにいる！

ただ、若さゆえの詰めの甘さか、アラレちゃんには残念ながらところどころに欠点があることは否めない。そのひとつに人工網膜の光学解像度の低さ、早い話が視力の弱さが挙げられる。

博士が視力検査をするのだが、検査表の文字を任意に「ケ」「ボ」「マ」「〇」と指したところ、アラレちゃんから返ってきた答えが「キ」「ン」「タ」「マ」。人工知能を造る際の知覚と認識のプログラミングに、重大な欠陥があったことは明らかだ。

似たような話がある。

アメリカ航空宇宙局（NASA）が20年におよぶ準備期間と2000億円の巨費を投入して打ち上げた※ハッブル宇宙望遠鏡（HST）には、かんじんのレンズの焦点が合っていなかったという致命的な※欠陥があることが、作動してすぐに判明した。

ハッブル宇宙望遠鏡
この世でもっとも高価な写真はHTSが写した写真。値段の算出方法はまずHTSの製作費、管理維持費、修理費、人件費を合計。それをHTSが今まで地球を何周したかで割り、一周あたりの費用を出す。そこへ1枚の写真を撮るのにかかった周回数をかける。これによると、HTSで撮った写真のなかでもっとも高くついたのは、1枚20億円だとか。プリクラだと約67万回分だ。

▲アラレちゃんの目はテレビカメラに。名づけて「アラレ目テレビジョン」。

宇宙から送られてくる画像はすべてピンボケ。予想解像度のわずか20％ほどの精度しかなかったのだ。

だが、このあとのＮＡＳＡの対応は素早かった。焦点のズレを矯正するプログラムをすぐに作成し、スペースシャトルでハッブル宇宙望遠鏡まで運んで不良部分と交換したのである。さすがＮＡＳＡ。ああ、それにひきかえて…。

眼鏡。

それが則巻博士の解決方法だったのだ。

アラレちゃんの視力を矯正するのに、プログラミングを変更するでもなく、人工網膜を交換するでもなく、人間と同じように眼鏡の使用ですませたのである。それはないでしょう。せめてコンタクトレンズくらいしてもいいのでは。それを

欠陥
望遠鏡の主鏡の曲率が狂っている「球面収差」と呼ばれる、光学では最も初歩的なお恥ずかしいミス。原因は、研磨チェックするさいに機器の位置がわずか1・3ミリずれていたことによる。たったの1・3ミリのおかげで、修理費が200億円かかった。

眼鏡だなんてあまりに安直な。

しかし、逆もまた真なり。完全なアンドロイドの条件が「どこまで人間に似ているか」にあるとすると、近眼という人間ならではの特性を備えたアラレちゃんは、それだけ人間に近いということになる。人間は不完全なものだからである。

となると、アラレちゃんの眼鏡は、則巻博士のアンドロイド技術の精度を逆説的に表しているのかもしれない。

そのほかアラレちゃんの欠点として、大きな声ではいいにくいのだが、お股がツンツルテンなことが挙げられる。これは、技術力の問題というよりは、博士がウブなため、女性について無知だったせいである。ヌード本を参考にしたらしいのだが、残念ながらアラレちゃん製作時には、ヘアすら解禁になっていなかった。そのため、※泣く泣くツンツルテンのままにしておいたのだ（1巻「…がない！の巻）。

アラレちゃんからも、その点を指摘され責め

▲このメガネをかけて、みどり先生のナイスバディを拝む千ちゃんであった。

泣く泣く…
誰かのホンモノを無理やり見ちゃいましょうというアラレちゃんの提案を「チカンで逮捕されるわいっ!!」ときっぱり拒絶。なかなかのモラリストである（あたりまえか）。

られ苦悩する博士…。いかに天才といえども、こと女性に関しては、発明するようにはスムースにいかないようだ。

ウケをねらうために命を賭けるロボット登場

いろいろ問題はあるようだけど、そんなことは些細なこと。アラレちゃんが傑作ロボットであることは衆目の一致するところ。しかし、博士の天才は、それだけにおさまるものではない。

ロボットだけでも、アラレちゃん以外にも、何体も製造しているのだ。

博士のロボット製造技術の高さを示すものとして、とこやロボットバーバーマンがある。文字通り床屋※さんのようにヘアーカットをするロボットだが、これを博士はほんの短時間（推定45分）で、それもたったスパナ1本で造り上げているのだ。このバーバーマン、アラレちゃんと同じように運動制御能力は大変すぐれている。

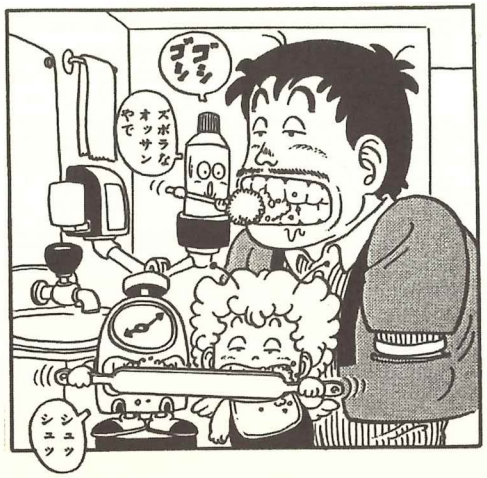
感情表現に関して高度なプログラミングがなされているため、かなり洗練された冗談をかます。髪をカットしましょうといって手にするのは、ハサミはハサミでも、高枝伐り※バサミ。テレビショッピングで人気のアレだ。博士がすかさず「わしのアタマは植木かっ!!」と怒り※のツッコミを入れると、「ほんのジョークで

床屋さん
博士にとって床屋さんは鬼門のようで、一度として望みのスタイルにしてもらえたためしがない。坊主刈りにされるわ、鉄腕アトムカットにされるわ、さんざん。

怒り
年中怒っているように見える則巻博士だが、全巻を通して、本気で怒ったのはわずかに一度。愛犬の「ウンチ」が車にはねられたときだ。こんときゃ、はねた車を投げ飛ばすほどの怒りようだった。

す」と切り返す。絶妙の間である。

このシーン（4巻66ページ）、読者は何気なく読み飛ばしているようではある。アハハと笑って。しかし、このシークエンスこそ、じつは日本空想科学漫画史において、太ゴチック文字で特記されるような画期的なできごとだったのだ。一大事件といってもいいかもしれない。



▲朝の則巻家の風景。いかにも科学者の洗面所って感じ。

なぜなら、ロボットが自覚的にジョークを発した記念すべき瞬間だったからだ。アラレちゃんをはじめ、過去においても笑い※を誘うようなおかしな行動をとるロボットがいることにはいた。しかし、意識的に意志をもってジョークを言い放ったロボットは、このバーバーマンが第一号だったのである。

しかも、バーバーマンが冴えているのはジョークだけではな

笑いを誘うロボット
前谷惟光の『ロボット三等兵』や森田拳次の『丸出だめ夫』のボロットなど。そうそう『鉄腕アトム』の「アトム対ガロンの巻」で、ガロンがテントを頭にかぶっておどけるシーンがある。ナイスなぼけだ。

い。リアクションがまたいいのである。ジョークが則巻博士にウケないと知るや、なんと自爆してしまうのだ。わが身をけずってウケをねらうとはまさにこれ。ロボットながら見上げた芸人根性ではないか(?)。

でも、笑いがとれないときは自爆するようにプログラミングしたのは、ほかならぬ則巻博士自身。自分の笑いのセンスを基準に自爆装置をプログラムしていれば、みすみすバーバーマンも自爆しないですんだものを…。

コンピュータ研究者の夢を実現させたアキコさん

このほか、発明ロボットはまだまだぎょうさんある。バーバーマンとともに、注目に値するのがお手伝いロボット「アキコさん」だ。

▲博士は読者のアイデアもアッという間に実現。

博士が身の回りのことを面倒見てもらうために造ったロボットなのだが、かなり感情の起伏が激しいのが特徴。

博士に「きれいだよ」と言われれば、少女のように頬を赤らめる。アラレちゃんにぶん殴られれば、「アキコないちゃお!」といって、月に向かって「ツクツクホーッシ」と泣きわめく(なんて泣き声だ)。人が後ろに回れば、「なにをなさるんですかーっ!!! エッチーッ」とストーカー扱いをする。ぶっさいくなロボットのくせに自意識過剰なのだ。こんなロボットに「エッチ」と呼ばれた日には、人間やめたくなるってもの。

この自己愛の固まり、アキコ嬢ならば、コンピュータ研究者なら誰もが夢みる、あのチューリングテスト※を完全にクリアできるはずだ。チューリングテストとは、コンピュータに知能があるかどうかを判定するテストとして知られているもので、やり方は次の通り。

1　Aの部屋に人間の質問者を入れる。
2　Bの部屋に人間の解答者を入れる。
3　Cの部屋にコンピュータを入れる。
4　A、B、C、3つの部屋を完全に遮断する。
5　質問者がキーボードを通じて、人間の解答者とコンピュータとランダム

▲金髪の下には人工知能が組み込まれている。

チューリングテスト
50年にイギリスの数学者、A・M・チューリングが提唱したもの。チューリングはプログラムやシミュレーションなど、現在のコンピュータ科学の理論的基礎を築いた。第二次世界大戦中はドイツ軍の暗号解読に従事している。

に対話をする。

その結果、質問者がどっちが人間の解答者でどっちがコンピュータであるか区別できなければ、そのコンピュータは知能を持っていると判定する、というものだ。

どうだろう、「媚びる・すねる・甘える」の若い娘の3つの「る」をマスターしているアキコ嬢は、まず人間と区別できないはずだ。少なくとも当節の女の子並みの知性は立派に備えている。むしろ、完璧なアンドロイドのはずのアラレちゃんのほうが、過剰なまでの幼児性と楽天性ゆえに、人間離れしていて区別が可能であるに違いない。

原典には、※警察犬ロボット、人の家に忍び込む泥棒ロボット・※ドロボット、博士の分身である※スーパーセンちゃん、などなど多彩なロボットが登場するが、チューリングテストを行って知能を確認できるのは、お手伝いロボットアキコさんをおいて他にはないだろう。

人工知能もなんなくクリアした博士の才能は恐ろしいばかりだ。

博士の時へのロマンに隠された男のサガ

則巻博士にはロボット以外の発明品も数多いが、そこにはひとつの傾向がある。

それは、時間への執拗なまでのこだわりだ。時へのロマンとでもいおうか。時の運行にまつわる発明品の多さは特筆に値する。

ざっと挙げてみても、若返り薬、タイムストップウォッチ、未来カメラ、タイムスリッパー、※時間よとまれマシン、そしてそのものズバリの※タイムマシンと枚挙にいとまがない。

時間を自由にコントロールすることは、科学の究極の夢でもある。則巻博士はくりかえしくりかえし時間を支配しようとする。あるときは、薬物により若返り、またあるときは時空間ごとトリップし、またあるときは…。

その目的はなんなのか。博士としての功名心か。それとも科学の徒としての純粋な探究心からか、経済

警察犬ロボット
抜群の臭覚で人を捜す。ただし、ネコとケンカをしたり、オシッコでマーキングしたりと、よけいな点まで本物の犬と似ている。

ドロボット
どんな鍵もハリガネを使って開けてしまう。でも、開けたあと、やたら大いばりするのがタマに傷。

スーパーセンちゃん
千兵衛博士がTV出演を頼まれたとき身代わりに出演。ペンギン村から遠隔操作するが、故障して暴れまわる。

▲科学の発展のため、若返り薬を自ら投与。

時間よとまれマシン
千兵衛博士がマンガ家Aに頼まれて製作。そのとき条件として「このマンガの主人公をわたしにすること」と「山吹先生と結婚させてほしい」の2つを提示している。

タイムマシン
タイムマシンで10年後のペンギン村へ行ってみると…。アラレとオボッチャマンは結婚して一児の親に。タロウは鶴燐と、ピースケはヒヨコと、あかねは突詰とそれぞれ結婚。ドクター・マシリトはすでに鬼籍に入っていた。

的な見返りを期待してのことか、はたまた邪悪な野望にかられてのことなのか。

いや、そのどれもが違っている。もっと人間的で根源的な衝動に突き動かされてのことである。

ズバリ、エッチ目的だったのですね。

時間よとまれマシーンを造る目的は、次の4つにつきる。

パンツを見てもしかられない。

女子更衣室も堂々とのぞける。

スケベ本を堂々と見れる。

あこがれの女湯に入れる。

則巻博士は、マシンを製作するときも「パンツ!!」「女子更衣室!!」「スケベ本!!」「女湯!!」と叫びながら、目の色を変えてトンカチをふるうのである（9巻178ページ）。なんとも鬼気迫るではないか。

若返り薬を作ったときも、自らモルモットとなり人体実験をして赤ちゃん化。その結果、何をしたかというと、みどり先生のスカートの中をのぞくことと、いっしょにお風呂に入ること。

その挙げ句、「すすすごい…!!　※ぱいぱいみちった…!!　もうしんでもいい…」と興奮のあまり浴槽に沈んでしまうのだ。

ぱいぱい
博士は日常的にも幼児語を使うことが多い。「ボクちゃん～」「どうもあんがと」「キャハハッ!!」「えーんえーん」と、つい赤ちゃん言葉が口をつく。

リビドー
精神分析理論の概念で、フロイトによれば性的衝動を発動させる力で、ユングによればすべての本能のエネルギーの本体だという。フーゾク業界では単にスケベ心のことをさす。

タイムストップウォッチのときもそうだ。時間をとめて、やはりみどり先生のスカートをめくり、パンティーを15センチの至近距離からのぞくのであった。その調子で、博士はタイムストップウォッチで時間をとめては、女の子のヒップを突っついたりバストをツンツンしたり…。なんという※リビドーの強さ。

こうした情熱があってこそ、人間は何かを成しとげることができるのだ。尊い教訓を博士は教えてくれている。

ここで、博士の名誉のためにひとこと弁明させてもらうと、博士はスケベであっても変態性は皆無。根は※フェミニストなのである。みどり先生と晴れて※結婚した後も「みどりさん」とさんづけで呼んでいる。けっして「オイ」とか「オマエ」といった呼び方はしない。亭主関白ぶることもなく、妻をパートナーとして尊重する姿勢はつねに崩すことがない。立派なものである。

アインシュタイン理論に自らの身をもって挑戦

博士は、強烈な時へのロマンを抱いているわけだが、ときには強烈なしっぺ返しをくらうこともある。

タイムストップウォッチで世界の時間をとめても、博士だけは動き回っているので、「博士の時間」は動いていることになる。その結果、とまっている世界の

フェミニスト
妻に対する言葉遣いもあくまでもジェントル。頼みごとをするさいも「…してください」と丁寧語。呼ばれたときも「はい」と正しく返事をする。

結婚した後も…
結婚した後も、二人はプラトニックな関係が続いた様子。「わしはまだオクさんといっしょにおフロにはいったことがないんだぞーっ!!」と泣きをいれたり、みどりさんが添い寝をしてくれただけで喜んだりと、純情丸出し。タローボ君の出生にはなにやら謎が隠されているような気が…。邪推かしら。

時間と「博士の時間」とは乖離が生じてくることに。

すると博士の身に少しずつ異変がおきる。停止した時間で過ごすことが度重なるため、「博士の時間」だけが累積していく。そのため、博士ひとりだけが年をとっていくのだ。

その変化は可視的にも微妙に表れる。

みどり先生に「きゅうにふけたんじゃありません？」と指摘されドキッとする博士。確かに頭部が薄くなっている。しかし、それでも時との戯れをやめられない。リビドーは鎮まることなく、女の子の体をツンツンすることにうつつを抜かす博士であった。

そして気がついたときにはすべてが遅かった。「博士の時間」は現実の時間より40年も先行していたのだ。

先生やピースケやアカネなどのペンギン村の人たちが変わらぬ若さにあるのに、博士ひとりが白髪で足腰のおぼつかぬ老人に変わってしまうのだった…。

バッカでぇ～、と博士を揶揄するのは簡単だ。しかし、この愚かな博士の所業は、じつはアインシュタインの構築した現代物理学への重大な挑戦なのであった。

白髪になって年をとる…ということから、「浦島効果」を思い浮かべる人も多いかもしれない。これはSF小説や相対性理論の解説書によく出てくる用語で、次のような内容だ。

宇宙飛行士がロケットに乗り、光速度に近い速さで宇宙に旅立つ。そして1年間飛行して再び地球にもどってくる。いざ家族と再会してみると、びっくり仰天。同じ年だった妻はお婆さんになり、赤ん坊だった子供は自分より年が上になっている…。

相対性理論に基づくと、光速度に近い速さで動いているものは、時間の進み方が遅くなるという。そのため、光速旅行の宇宙旅行士は若いままでいて、地球に残った家族だけが年をとってしまったのである。光速の9割の速さで動く人にとっての1秒は、ふつうの人の0・44秒にあたるのだ。

則巻博士の発明したタイムストップウォッチは、タイムマシンのように時空を移動するのではない。文字通り時間をとめて、本人だけが動くことができるというもの。

原理としては、タイムストップウォッチの作用により、本人が想像を絶するような光速度に近いスピードで動けるようになるというもの。そのため、相対的に世界のほうの動きがとまって見えるということにほかならない。

しかし、則巻博士が光速度で動いているとすれば、アインシュタインの特殊相対性理論によると、当然「博士の時間」のほうが進み方が遅くなる。ということ

頭部が薄く
タイムマシンで未来に行ってわかったことだが、千兵衛博士は30代半ばで毛髪が退却。側頭部に毛が残る、いわゆるお茶の水博士ヘアーになる。

ペンギン村
ユニークな人ぞろいのペンギン村だが、魅惑のキャラ・ベスト3といえば、摘詰角田野廷遊豪（摘突詰の母）栗頭大五郎（アラレの担任教師）皿田きのこのおとうさんおかあさん（ペコちゃんポコちゃんそっくりなのだ）あたりでしょうか。

浦島効果
浦島太郎が年をとらなかったことの解釈として、助けた亀が光速度で泳いだということが考えられる。もしくは、竜宮城の重力がきわめて強かった可能性も。一般相対性理論によれば、重力の影響を受けているものは、重力の影響のないものよりも時間の進みかたが遅くなるからである。

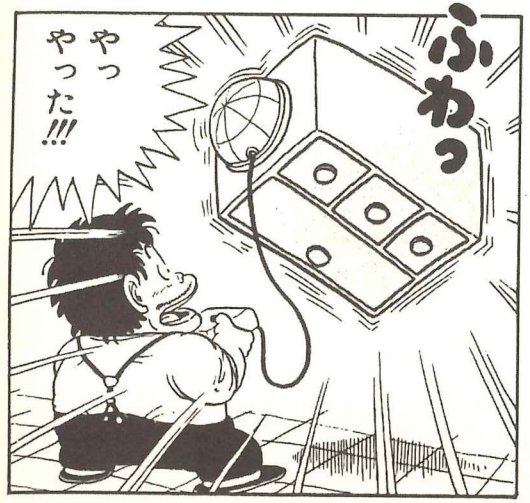
は、年をとるのはみどり先生たちのほうのはずだ。だが、実際に年をとったのは則巻千兵衛博士…。

これは相対性理論と矛盾する！

博士はアインシュタインの理論に身をもって異議を唱えたのである。光速度に近い速さで動いたほうが、時間がたつのが速い。※相対性理論とまったく正反対の結論だ。これを「博士の時間」理論と呼ぶことにしよう。

このことをもってしても、則巻博士は科学史に不滅の足跡を残すことは間違いあるまい。

それもこれも、すべて「パンツ!!」「女子更衣室!!」「スケベ本!!」「女湯!!」が原動力となったのだ。若さの衝動が偉大な発見を生んだのである。



▲重力コントロール装置を造り相対性理論に挑戦。

相対性理論
一般相対性理論によると、加速度運動を行うものは、止まっているものよりも、時間の進み方が遅くなるという。

第③部　世紀末サイバーパンクの博士たち

岸和田博士

国際法で「天才」に認定されているため、免責特権で破壊も殺戮も思いのまま!?

©トニーたけざき／講談社

80年代末から90年代初頭にかけて、世界はかつてない大変動を迎えた。

ベルリンの壁は崩壊するわ、あれほど強大を誇ったソビエト連邦は一夜にしてこの世から消滅するわ、バブル経済で空前の繁栄を迎えた日本はアッという間にバブル崩壊、未曾有の不況に転落するわ……なにがなにやら、なにを信じていいのやら。

科学に対する信仰も急速に薄れていく。その挙げ句のはてが、科学を最悪のかたちで利用したオウム真理教のサリン事件であり、阪神淡路大震災の倒壊した高速道路の無残な姿なのである。

科学は自然の脅威の前にはまったく無力だった。終末を願う邪悪な心の前にはあまりにも無防備だった。

そうした破滅の予感漂う世紀末には、博士といえども理性的でいられるわけがない。マッド・サイエンティストになったとて、なんの不思議があるだろう。

岸和田博士の登場は時代の必然だったのか。

日本防衛軍を後ろ盾に、やり放題し放題、ハチャメチャな発明を造っては、社会に迷惑かけ放題。博士の常軌を逸した行動は、日本の「今」をバッチリ現している。博士は、バブルの虚塔といわれる東京都庁舎を、勝手にトランスフォーマー・ロボットに改造してしまうのだった…ああ、終末は近い!?

「手塚ドクトリン」から外れた岸和田博士

80年代を代表する博士が則巻千兵衛だとするならば、90年代を代表する博士がこれから検証する『※岸和田博士の科学的愛情』の岸和田博士である。

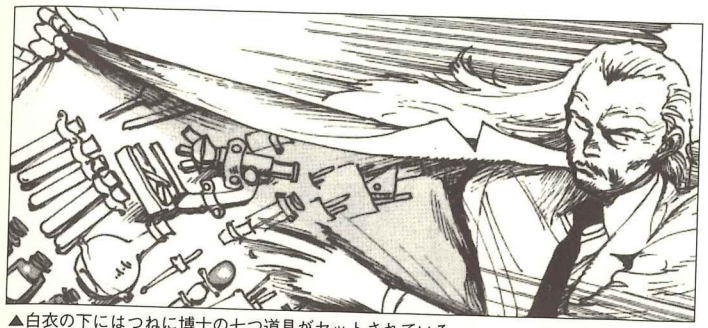
岸和田博士は日本防衛軍の技術顧問。次々と日本を襲う危機に敢然と立ち上がり、持ち前の天才的発想と卓抜した技術力をもってして画期的な発明品を造り、難関を切り抜けていく。

たとえば、謎の怪獣Xが突然東京を襲撃しても少しもあわてない。こんなコトもあろうかと、防衛庁の地下に秘密基地を造り、秘かに巨大ロボット・ジャイアント火星将軍ロボを用意してあったりする。そのさい、防衛庁長官に秘密基地について「勝手に作られると困るんだがなー」とクレームをつけられても、「言っちゃったら秘密にならんじゃないかね!? はっはっは」と、柳にウインドウである。

技術顧問とはいえ、岸和田博士はかなりの自由裁量権をもっている様子。防衛軍の最高司令官の命令体系のワク外にいるのだ。シビリアン・コントロールから外れているのである。

こんなヒトがいたら危機管理も何もあったもんじゃない。岸和田博士が理性あ

※『岸和田博士の科学的愛情』
本稿は講談社ワイドKCアフタヌーン版『岸和田博士の科学的愛情』（全12巻）を原典とした。この作品は、92年から98年まで「アフタヌーン」（講談社）に連載され、緻密な描写とセンス・オブ・ワンダーにあふれた着想、そして徹底してSFをパロディにした内容で評判を呼んだ。いわば空想科学漫画の最終兵器である（?）。



▲白衣の下にはつねに博士の七つ道具がセットされている。

ふれる人格者で、聡明な科学者だったら問題はないかもしれない。しかし、恐ろしいことに、博士は確信犯的なマッドサイエンティストなのであった。自らマッドサイエンティストであることを自覚しているのだ。こんな始末の悪い博士はかつていなかった。

岸和田博士は、次のような叫びをしばしば発するのだ。

「神よ……科学という名の悪魔※に魂を売った私を許したまえ!!」

そして、自らの発明品であるロボットに対して、こう呼びかける。

「さあ目覚めるがよい。呪われし子よ!! 目をあけるのだ。あけろォ。あけンか、ボケーッ」

イッちゃっているではないか。自分で造っておいて「呪われた子」はないだろう。こんな博士は悪魔と契約する前にどーにかする必要があ

悪魔に魂を売る
魂を売ったことでいろいろ制約を受けている。まず大手をふって公道が歩けなくなり、秘密の地下道を作ってそれを利用して移動している。また、なぜか、ことわざに疎くなってしまった。たとえばこんな具合に。「備えあればうれしいな」「灯台デモクラシー」「急所ね ここを噛むゥ?」

る。

しかし、それはできない相談だった。なぜなら、岸和田博士は国際法による「天才の認定」を受けているからである。

世界連盟の天才審議委員会の認定を受けると、天才は結果責任を負う必要がないのである。これを「天才保護条項」といい、批准国はこの条項の忠実な履行を義務づけられる。たとえ、天才が法律的、人道的に許されないことをしても、罪に問われることはないのである。その理屈はこうだ。

「天才」は人類の歴史の中で偶発的に出現する異質な存在。その肉体が人間のものであっても、その精神の元型※はまったく別物なため、天才は特殊な能力をもっている。

だが、その能力は人類に大きな利益と、ときにはそれ以上の災厄をもたらす。たった一匹の天才サルが二本足で立ち、その手に道具をもった瞬間から、人類の繁栄と殺戮の歴史がはじまったように。『2001年宇宙の旅』※のおサルさんである。

だから、人類は天才をできるかぎり保護し、天才から利益を得なければならないのである。多少の犠牲を払うことになったとしても…。

たとえ、博士の発明品によって被害が出ようと、博士※は免責され罰せられるこ

元型
ユングが提唱した概念で、人間の普遍的意識の中に見いだされる人類に共通する無意識的なイメージ…だそーで。

『2001年宇宙の旅』
続編に『2010年』があるが、そこではソ連が堂々と登場する。いつ復活したんだ?

博士は免責
「天才」のしでかしたことはすべて「天災」です…ということらしい。

とはない。それどころか、被害に対しては国家賠償法によって国家が補償することになっているのである。

天才の認定は、水戸黄門における葵の印籠、酒鬼薔薇少年における少年法、※浅見光彦における浅※見陽一郎刑事局長…といったところか。鬼に金棒である。

岸和田博士は、まぎれもなく国際法によって天才の認定を受けていた。だから、好き勝手ができるのである。まさにヤリ放題のし放題だ。

巨大人型兵器なら岸和田博士におまかせを

岸和田博士は、日本防衛軍の参謀として、日夜さまざまな科学兵器の開発に従事している。

だが、博士の開発するハイテク・メカはいずれもスタンダードなものではなかった。博士ならではのツイストが利いていた。人知を超えたものばかり。

ロボットを造れば、巨大人型兵器など朝飯前。たとえば「山野田F-91」は全長50メートルにもおよぶ巨大アンドロイドだ。

これほどの超巨大メカでありながら、「山野田F-91」の質感は人間そのもの。人工骨格と人工皮膚の完成度は恐ろしいばかり。『ブレードランナー』のレプリカントも裸足で逃げ出すほど。生殖器も男のモノそのまんま。※ブリーフをはかせんブリーフ150人分のブリーフが作れるほど。

浅見光彦
内田康夫ミステリーの名探偵としておなじみ。永遠の33歳。テレビでシリーズ化され、初代国広富之、二代篠田三郎、三代水谷豊、四代辰巳琢郎、五代榎木孝明が浅見役。

浅見陽一郎
光彦の兄。全国の刑事の頂点に立つ警察庁のエリート官僚。時に光彦を助け、時に光彦に事件を解決してもらいと、兄弟仲は良好。テレビ化では初代高橋悦史、二代村井国夫、三代西岡徳馬がそれぞれ演じる。

ブリーフ
実際「山野田F-91」はまっ白なブリーフを愛用している。このブリーフは超巨大。1枚でおっさ

▲「山野田F-91」（左）と「玉子田山野田」（右）。スネ毛がリアル。

▲透明ボディの「海野田S-97」。頭のテッペンのちょんちょこりんで形状制御。

ないと、公然猥褻物チン列罪となるような完璧な仕上がりだ。右にナチュラルにカーブする曲線がなまめかしい。

敵の戦車を踏みつぶし、二千度の火炎放射で敵機を焼き落としたりと、破壊の限りをつくす「山野田F-91」。岸和田博士によると、「しかも外見は全く普通で目立たず!!」とある。

腰に手をあてて牛乳を飲む姿は、どこから見てもフロ上がりのナイスな青年だ。博士がいうように「誰がみても我が国の兵器とは気付かない!!」のである。ただし、50メートルという身長を考慮に入れなければの話だが……。

巨大人型兵器は、博士の得意とするところで、このほか「海野田S-97」というスグレモノがある。

これは、※海水を主成分とする、まったく新しい設計思想に基づく人型兵器。96%が水分でできていて、頭のテッペンにあるアンテナの下にある電子脳が水分子のひとつひとつを完全制御して、人間のフォルムを維持しているのである。しかも、その表面は超表面張力で圧倒的な強度を誇っているのだ。これなら、どんな砲撃にもへっちゃらだ。

さらに、体内の水分量の調整も自由自在。体内水分の排出方法も人間を模している。余分な水分は生殖器からじょぼどどどど~とほとばしるのである。複雑

海水
海水と人体の組成を比較すると、海水の原子数の比率は水素66%、酸素33%。人体は水素63%、酸素26%。どちらもこの2種類の元素が主体となっていることがわかる。

な構造を簡単な操作でコントロールする。岸和田博士なればこそである。

人肌兵器はＮＡＴＯ軍のミサイルを超えた

人型兵器ならぬ人肌兵器だって造ってしまう岸和田博士。

これは外見は大陸間弾道弾のようなミサイル兵器なのだが、じつは生体兵器。ボディは人間の肌触りなのだ。兵器の外装を人肌にした点は、博士の独創である。ミサイルにはまつ毛があり、乳首があり、おへそがある。全身にはびっしりと産毛まで生えているのである。

しかも、ミサイルの内部には生物と同じように内臓がつまっているのだ。じつに醜悪にして耽美な兵器ではないか。ＮＡＴＯ軍がユーゴスラビアに撃ち込んだミサイルは人工衛星からの制御によるカメラ誘導だったが、この人肌兵器はミサイル自身の感覚で目標物を探知する。まさに究極の生物弾道弾といえよう。

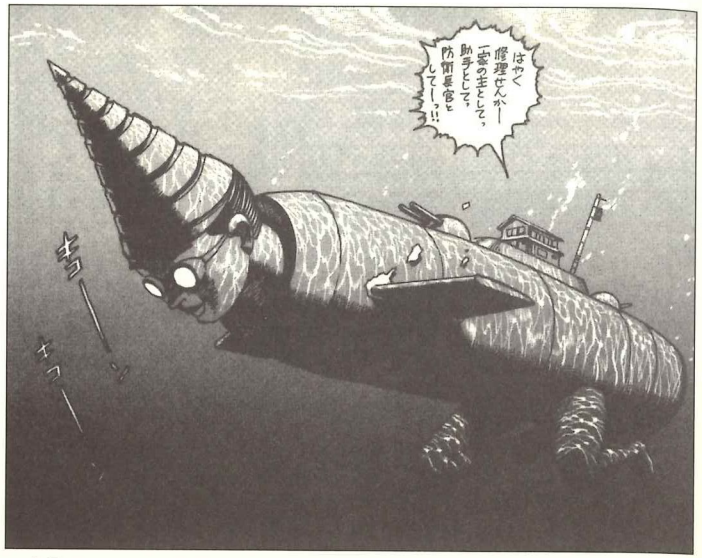
ロボットではないが、人型巨大兵器に海底戦艦脳天号がある。東宝の特撮映画の傑作『海底軍艦』※に登場する轟天号をモチーフにしたもので、本家をはるかに凌駕する性能を誇っている。

なにより、製造を秘密裏に行っていたため、一般市民の民家の地下に勝手に基地を造ったところが意表をつく。某一流企業の経理課長の山本山男さん（38歳）の家を、本人の同意もなしに第一艦橋にしてしまったのだ。

山本さん一家は民間人でありながら、いやおうなしに脳天号のクルーにされてしまう。奥さんは炊事係となり、博士のワガママに泣かされることに。日本防衛軍にとって、有事のさいのガイドラインはどうなっているのか、大いに知りたいところである。

また、脳天号には顔もついていて、それも大阪のくいだおれ人形という

『海底軍艦』
ムウ帝国の女王役を演じた水野久美が大変セクシーだった。伊福部昭による重厚にして悲愴な旋律をバックに破滅の海を泳いでいく女王様の姿が印象的。涙した人も多いはず。原作は日本ＳＦの開祖的存在の押川春浪。



▲全長150メートル、体重２万トンの海底戦艦脳天号。くいだおれ人形のまゆ毛も動くぞ。

あたりに博士のデザインセンスのよさを感じとれる。異質なものをあえて組み合わせるハイブリッド効果が効いている。ポストモダンデザインのある種の到達点といえよう。

この脳天号、見た目はハートウォーミングだが、その破壊力は抜群。牛から進化した牛人類による海底帝国・モー帝国の地上征服の野望を見事粉砕するのであった。まさにビックリしたなぁモ～というところか。

石原慎太郎東京都知事もビックリの都庁ロボ98

博士の創造した巨大マシンの最高傑作は、なんといっても都庁ロボ98であろう。これは、文字通り東京都庁舎が変形してロボットになるというもの。

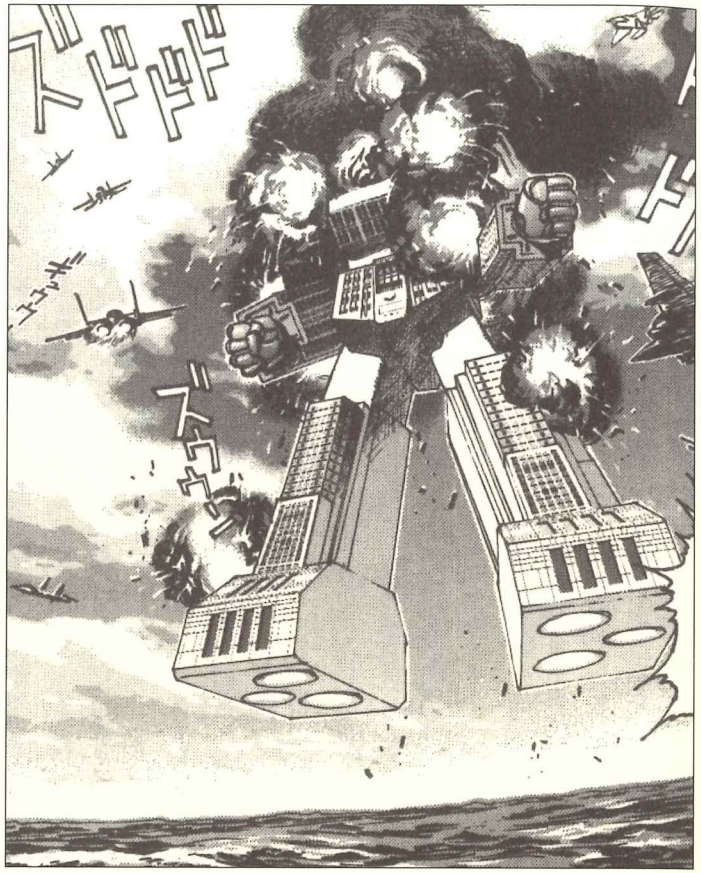
設計者の丹下段平※…ではなかった丹下健三※氏もあずかり知らぬことだった。歴代の都知事、鈴木俊一氏、青島幸男氏にも秘密裏に改造していたのである。まさに博士自らが「極東超巨大公務員伝説」と口走るほどの快挙であった。

この都庁ロボ98は、全長1都庁※メートル、全幅0・3都庁メートル、重量1都庁トン、出力1都庁馬力、パンチ力1都庁平方メートルトン、キック力1都庁平方メートルトン、そしてエネルギーは消費税という、従来のロボット工学の常識を打ち破るものだった。

丹下段平
ボクシング漫画の金字塔「あしたのジョー」でのジョーの鬼コーチ。ジョオオォォ～、立つんだジョオオォォォォ～！

丹下健三
太平洋戦争中は「大東亜建設記念造営計画」を手がけ、戦後は「広島平和記念資料館」を設計する。ナイスな変わり身の早さである。

都庁メートル
1都庁とは都庁1個分を表す新しい単位（平成8年度制定）。



▲都庁第1庁舎が巨大ロボットに変身。米国、露国、中国、ＮＡＴＯ連合と死闘を展開。

武器も独創的だ。公務員ホーミングや迎撃公務員といったミサイルを装備。これは人間がそのまま発射されるという一種の人間ミサイル。その数は都庁に勤める1万3千人分、いや1万3千発もある。だから、在庫を気にせずぶっ放せるのだ。むしろムダ撃ちしたほうが、行政改革推進となる。石原慎太郎都知事もそう願っているにちがいない。

この公務員ミサイルは、軍人に当たると「公務員対消滅」をとげるという現代物理学の成果を組み入れた画期的なものだった。このことを強調しておきたい。

ここで「対消滅」についてひとこと。

自然界に存在するすべての物質粒子には、質量は同じだが反対の性質をもった反粒子が存在する。たとえば、マイナスの電荷をもった電子に対してはプラスの電荷をもった陽電子が存在するといった具合に。こうした反粒子で構成される物質が反物質である。

このような反物質と物質とが接触すると、瞬間的に物質としての形態が消滅して光に変わってしまうのだ。これが「対消滅」である。

アインシュタインの有名な公式※$E=mc^2$でもって「対消滅」は説明できる。エネルギーと質量の関係式で、Eは物質がもつエネルギー、mは物質の質量、cは光速を表す。「対消滅」では、この$E=mc^2$にしたがって、質量はすべてエネルギー

$E=mc^2$
エネルギーは質量に光速の2乗をかけたものに等しいということ。光速の2乗は900億というケタはずれの数字。ということは、ちっぽけな質量の物質にも、ものスゴイ量のエネルギーが秘められていることになる。たとえば東京ドーム一杯分（124万立方メートル）の0度の水を100度に沸騰させるには、たったの1円玉6枚分（6グラム）がもつエネルギーですむという。

（光）になるので、想像を絶するパワーを生みだすのである。

ちなみに、空想科学ものの定番である「反物質爆弾」は、この「対消滅」によるエネルギーを利用したものである。

岸和田博士の発明した「公務員対消滅」は、公務員同士を相対速度マッハ1・2以上で接触させると、公僕反応により大爆発を起こすというものである。公務員である敵の軍人に、同じく公務員である都庁職員が人間ミサイルとしてぶつかれば、ふたりの公務員は完全にエネルギーに変わってしまうのだ。あのアインシュタインも予想だにしなかった、恐るべき秘密兵器といえよう。

あるときは電送人間となって電話回線をさまよう

博士の発明は多岐にわたる。巨大マシンだけではない。

電送装置もモノにしている。これは、物体を電気分解して送信し、受信機で受けてまた組み立てるというものだ。『鉄腕アトム』の「透明巨人の巻」や映画の『ザ・フライ』※でもおなじみの空想科学ものの定番である。

岸和田博士の電送装置の秀でた点として、電話回線を利用したことが挙げられる。たとえば人間を電送装置で電話回線のなかに送り込めば、数値化された情報体として、電話回線中に存在することができるのである。回線のなかで生きてい

『ザ・フライ』
ヘンにスタイリッシュな映画を作り続けるディビット・クローネンバーグ監督による醜悪にして耽美な異色SF映画。アカデミーメイクアップ賞を受賞した蠅男の特殊メイクが不気味。製作総指揮が泥臭いコメディアンのメル・ブルックスというのはちょっぴり驚き。

▲ファックスを通じてメッセージを送信。まさにインタラクティブな存在である。

けるわけだ。

　ということは、人物が回線のなかにいるときに食事も数値化して回線に送れば、回線中の人物は食事をとることができるということである。

　実際、岸和田博士は自ら実験台となって電話回線のなかをさまようことになる。そして博士は、電話回線のなかで助手が数値化して送ってきた天丼を食べる実験を行う。しかし、数値化した情報が回線中で混線、おかげで、博士の情報に天丼の情報が紛れ込んでしまったため、博士の指はすべてエビの揚げものと化してしまったのだった……。これがホントの、ザ・フライである。

電脳を使えばエッチもウハウハで快感増大

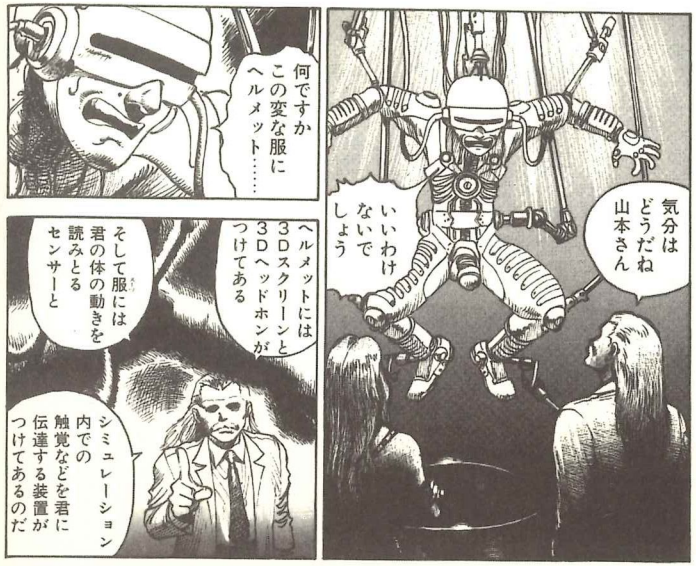
　岸和田博士の前に不可能の文字はない。科学にとって、いわゆるフーゾクは未踏の分野だった。しかし、博士の叡知はそこへも進出する。

　それが、科学による快楽の都、娯楽の殿堂、サイバーファッションヘルスである。早い話が仮想現実セックスマシン。ヘルメットには3Dスクリーンと3Dヘッドホンが内蔵されている。そしてボディスーツには被験者の体の動きを読みとるセンサーと、シミュレーション内での触覚などの感覚を被験者に伝える装置がついているのだ。

　仮想現実のなかで被験者は、現実のファッションヘルス※以上の悦楽に耽溺できるのである。なにしろバーチャル上のヘルス嬢のお口は特別仕様。想像してみてほしい。なんといってもお口だけで97ギガバイトもあるのですよ。

「かぽっ」とお口にふくまれた日には、あなた。疑似体験とは思えぬめくるめく

ファッションヘルス
人間の欲望が技術の革新を生む。ヘルスで流通しているフェラ専用スキンは、スキンの中にローションが注入されていて、フェラしたときに唾液のニュルニュルした感触が残るスグレもの。最新テクノロジーの成果である。



▲快楽を得るためにはこれだけの装備が必要。でも、それだけの価値ありだ。

快感が脳髄を貫くのである。ひいい～。

博士の発明は自身のファッションにまでおよぶ。ふだんの服装は、いかにも博士らしく白衣である。総髪の白髪とよくコーディネイトされ、なんの変哲もない白衣なのだが、大変オシャレである。着こなしにもスキがない。「SWITCH」の表紙が十分つとまろうかというほど。しかし、この白衣、じつはトンでもない逸品なのだ。裏地がスゴイのである。

といっても、その筋の人のように唐獅子や鯉の滝登りの刺繍がほどこしてあるというわけではない。白衣の裏地が強化服※、パワードスーツになっているのだ。リバーシブルにしてスイッチをいれると、白衣が耐火、耐水、耐衝撃のスーパー・パワードスーツに早変わり。「なんだったら大気圏外まで行ってもいいぞ」と豪語するほどの高性能を誇るのである。このように自らを武装化する博士も珍しい。岸和田博士は、まさにアーマード・サイエンティストなのであった。

「天才の認定」さえあれば何をしてもいいのか岸和田博士!?

しかし、岸和田博士のマッドサイエンティストぶりが最大限に発揮されるのは、このような発明よりも、むしろ科学のためなら何をしてもいい、といわんばかりの暴走においてなのだ。

「科学という名の悪魔に魂を売った」という宣言通り、倫理もなにもありはしない。他人の迷惑おかまいなし。先に述べた脳天号のように、面識のない人の民家に秘密基地を作ってしまったり、東京を全滅させ、一千万都民の命を奪ったりとポル・ポトもマッ青だ。

さらには、自分のことを慕う助手※を本人には極秘のうちにアンドロイドに改造するなんてことも。インフォームド・コンセントも科学者としての倫理もあった

強化服
モビルスーツの未来形、超軽量化等身大モビルスーツというところか。この強化服を着れば超高速で走ることもできる。ただ、あまりに速すぎるため、人の声がドップラー効果の影響で聞きとれなくなるところが弱点。

助手を改造
生体実験をやりたくてやりたくてしようがない岸和田博士が、夢遊病となって無意識のうちに助手の安川を手術していたのだ。

もんじゃない。他人を生体実験することに対し、博士には何の躊躇もなかったのである。まったくもって非人間的な…。

なぁんて、博士に崇高なヒューマニズムを期待するだけムダなのだ。なぜなら、岸和田博士は自らにも生体実験を施し、すっかりサイバースペースになってしまっていたからである。

他人の前では、注意深くふるまい、そのことがバレないようにしている。しかし、一度だけ油断をして正体がバレそうになったことが。あるとき、「私にまかせておけ」と胸をドンと叩いた拍子に首がはずれてしまったのだ。ぺよよ～んとバネが飛び出し、首がパコッ…。

このシーンは第3話において登場する。しかし、全84話ある岸和田ストーリーにおいて、博士が機械人間であることを明示するのは、このときだけ。博士の正体はついに最後まで明かされることはなかった。

博士自らが※サイバースペースというと、何やら『8マン』の谷博士を連想させる。だが、谷博士がサイバースペースでありながら人間以上にヒューマニストであったのに対し、岸和田博士はその対極にある。

従来の博士にも多少は見られた「科学のためなら何をやってもいい」という独善性を、岸和田博士は「天才の認定」を錦の御旗に全面的に解放したといっても

サイバースペース
博士の頭がい骨はカパッとすぐにはずれるようになっている。博士が言うには「メットをかぶると頭がムレるんで頭がい骨ごとはずしたんじゃよ。涼しくていいぞ！」とのこと。

▲パワードスーツに見を包み、自ら敵と直接対決する博士であった。

いいだろう。

単なるマッドサイエンティストや笑いの対象としての博士は数多い。しかし、岸和田博士はそうした博士たちとは、けっしてキャラがかぶることはない。

圧倒的な存在感、無敵の行動力、そしてもう誰にも止めることのできない明日なき暴走…。エネルギッシュさにおいては、唯一無比だ。もはや、笑いを超えた恐怖でさえある。

もちろん、岸和田博士は世界征服をたくらんだり、人類滅亡を狙う犯罪結社に仕える悪の科学者ではない。それどころか、くりかえすようだが日本防衛軍の参謀である。国民の生命を預かる重大な責務を担っているのだ。

しかし、博士は身をもって示してくれる。自分があくまで正義であると言い張ることが、いかに危険なことであるかということを。岸和田博士が、自らを正義だ、と主張すればするほど周囲は迷惑をこうむるのである。

そもそも本作のタイトルからして、マッドサイエンティストの暴走がもたらす恐怖を描いた古典的名作『※博士の異常な愛情』を意識したもの。博士が恐怖の対象として描かれるのも当然といえば当然なのかもしれない。

『博士の異常な愛情』
この映画を最も早く再評価したのは藤子不二雄だった。伝説の雑誌「COM」に連載されたマンガコラム「マンガニカ」にて埋もれた名画として紹介している。

第3部付録

世紀末サイバーパンクの博士図鑑

ここに登場する博士は、いずれも常軌を逸しているような人ばかり。
けっしてマンションの隣の部屋には住みたくない人たちばかりである。
もちろん、世界平和の役にはこれっぽっちも立たないばかりか、むしろ人々の生活を脅かすようなアブナイお人ばっかりだ。
いったい、いつからこんなことになってしまったのやら。
ただ、これだけは言えると思う。博士がここまでレールから外れてしまったら、もう修復はむずかしいってこと。
再び人々の信頼を博士が取りもどすことは、まず絶望的っていうこと。
ああ、博士よ博士。あなたがたはどこへ行く!?
何処へ。クォ・バディス。

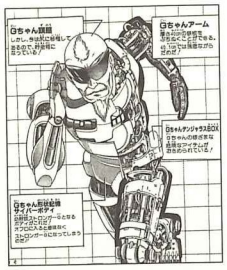
社礼頭毒郎　近親憎悪のロボット博士

「CYBORGじいちゃんG」土方茂

女子大の教授で、密かに世界征服をたくらむ。10年前まで壊造時次郎と共にサイボーグ研究に励んでいた。
だが、サイボーグを軍事用か農業用に使うかで対立し、以後時次郎を仇敵視している。その時次郎と再会してからは、次々と暗殺用のメカを送り込む。

壊造時次郎　自然のために闘うロボ農夫

「CYBORGじいちゃんG」土方茂



農夫にして天才科学者。その経験と頭脳を生かして自らを農作業用サイボーグに改造。プラズマ堆肥融合鶏糞ガスを燃料に2000馬力のパワーを有し、またカラス撃退用マシンガン内蔵などさまざまな機能を持つ。
最後には家族全員をサイボーグに改造する。

ミケネコ博士　猫に憑かれた発明狂

「赤ずきんチャチャ」彩花みん

その名の通り猫の目をしていて、自分の持ち物や発明品を必ず猫絡みにするという人物（車が猫型なのはまだしも、燃料がなんと魚なのだ！）。
チャチャたちの釣った魚を勝手に失敬したおわびに自宅に招くが、実は新発明の実験台にするつもり。
で、チャチャたちは博士の妙ちきりんな発明のおかげでとんでもない目に遭わされる。
怒ってチャチャたちは博士の発明品を滅茶滅茶にするのだが、すると博士は「科学の力に魔法で対決する気にゃな!!　受けて立つのにゃ!!」と叫び、猫型巨大ロボ・ニャンダバーZで出撃する。

©土方茂・集英社©彩花みん／集英社・りぼんマスコットコミックス

Dr.八巻　変態耽美派の悪の首領

「黒いチューリップ」シリーズ
東城和実

小沢伝次郎の弟子で悪の秘密結社「黒い真珠」の総帥。世界征服のため優秀な人材を募っており、桂介にも声をかけるが断られる。

そこで数々の卑劣でみっともない手で桂介をおどしたり、嫌がらせをしたりして引き込もうとする。ホモで美形の少年が好き。

小沢伝次郎　悪趣味マッド・サイエンティスト

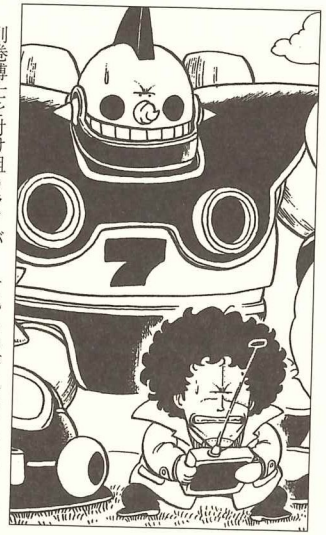
「黒いチューリップ」シリーズ
東城和実

心臓が悪い孫・桂介のために、いろいろ薬を調合してやったのだが、完治には至らない。そこで彼は孫を、かねてより研究中だった改造人間にしてしまう。

その後も変身能力のある巨大肥満ペンギン・ロボ太郎吉宗彦左衛門を開発する。特技は料理、裁縫など。

Dr.マシリト　不屈の闘志を誘る変態科学者

「Dr.スランプ」鳥山明



則巻博士を付け狙うライバル。打倒アラレのためにキャラメルマンシリーズを造る。中でも4号は、仇敵・アラレちゃんを徹底的に偵察し、分析することで、アラレちゃんそのままの構造と能力のロボットを造ろうとしたもの。こうして生まれたのが4号だが、上品さがアラレに酷似しているのが仇になって、4号はマシリトの悪事が許せなくなって裏切る。だが、それにもめげず、マシリトは遠隔操作型巨大ロボ・キャラメルマン7号を投入、今度は史上最強のパワーでアラレも裏切り者4号も破壊してしまう。マシリトの執念、根性はあっぱれと言うしかない。

©東城和美／新書館©鳥山明・集英社

ブルマ　ミクロバンドを作った天才少女科学者

「ドラゴンボール」鳥山明

ブリーフ博士の一人娘。父譲りの発明の才を持ち、子供の時、すでにドラゴンボールを探索するドラゴンレーダーや、人間を小さくするミクロバンドを作っている。

ちなみに、何でも願いが叶うドラゴンボールを集めようとした理由は、素敵な恋人が欲しかったからだという。

ブリーフ博士　動物好きのアイディア社長

「ドラゴンボール」鳥山明

家も車も、とにかくなんでも超小型カプセルに収納して携帯できるようにするシステムを発明。それを商品化するカプセルコーポレーションの社長となって、知らぬ者のない大金持ちになる。

相当な動物好きで、捨て犬などを拾って来て家の中で飼っている。

ドクターゲロ　永遠の生命と頑強な肉体を求めて

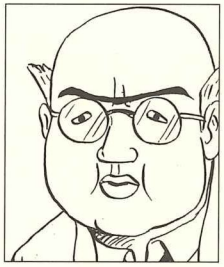
「ドラゴンボール」鳥山明

レッドリボン軍の残党。永遠の生命を求めて、先に造った人造人間19号に自分をサイボーグに改造させ20号となるのである。

だが、皮肉にも、結局ゲロこと20号はさんざん暴れ回った挙句、意見の対立した己の被造物17号に殺されてしまうのである。

たけし博士　お国自慢を発明で実践

「ぷりぷり県」吉田戦車



石川県出身の博士は郷土の伝統工芸である輪島塗りのロボット「うちの奴」を製作。さらに石川県のイメージを盛り込んだロボット「うちの奴2」を開発。金沢伝統の金箔を貼り、局部には蟹という恐ろしいもの。しかも顔はたけし博士そのものという趣味の悪さ。

©鳥山明・集英社©吉田戦車／「ぷりぷり県」・小学館

特許特太郎　地道な特許で大富豪

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」秋本治

1日10個のハイペースで発明し、ヒット商品で億単位の稼ぎをたたき出すという大変な人物である。中でも最大のヒット作は消しゴムで消せる万年筆、なんと年商5億。

他にもくぼみをつけることで飛距離を伸ばし、クギのからみを少なくしたゴルフボール式パチンコ玉、これが年商1億。

そんな彼でも特許登録が取れるのは年間10件くらい。そういった意味では地道な努力家のようだし、発明家にありがちな、いや不可欠な奇抜な発想力とともに社会人としての常識もわきまえた、極めて例外的なまとも人間ということがいえよう。

東京発明研究所所長　時代はずれの発明家

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」秋本治

「こち亀」で最も早く登場した博士。

文字通り、発明家なのだが、どうも時代とセンスがずれていて、巨大な乳母車型バッテリーを接続したリックサック型オープンリール式テープレコーダーだの畜糞車だの、ゴム動力掃除機だの、妙なものばかり発明している。

水道橋博士　月とダイヤモンド

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」秋本治

30年にわたる月調査から、月にはダイヤ鉱山があるとの結論に達し、この理論の正しさを証明するために、自ら月へ行こうとする。

助手としてスカウトした両津勘吉と共に、見事博士お手製のロケットで月に到着、ダイヤ鉱山も発見するのである。

©秋本治・集英社

バイオ研究所所長　子供好きのバイオロジスト

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」秋本治

食糧問題解決のため、野菜を巨大化させる薬を開発している。

が、動物用の薬を両津勘吉が池にこぼしてしまい、パニックになった挙げ句、バイオ水族館を開くことになる。とはいえ、子供に無料で開放しているあたり、意外に好人物で子供好きなのかも。

動物新種改良研究所所長　ダジャレ大好き博士

「こちら葛飾区亀有公園前派出所」秋本治

遺伝子操作で新種の動物を開発。

食糧問題解決のため、繁殖力の強いゴキブリと、おいしいエビをかけあわせたゴキエビなどまともな（？）開発をするその一方で、のろくて早いうさぎカメなど洒落と思いつきで作ったとしか思えないものまで発明している。

キテレツ斉　子孫に夢を托した早すぎた天才

「キテレツ大百科」藤子・F・不二雄

江戸時代の大発明家。1851年にグライダー飛行に成功。リリエンタールに先立つこと32年の快挙だが、時代が早すぎたのか、妖術使いとして捕らえられ、数々の発明品や著作も押収され焼かれてしまう。かろうじて残った遺品は、白紙の書物と役に立たない眼鏡だけ。だが、じつはその白紙は、眼鏡・神通鏡をかけないと見えない特殊なインクで書かれた「奇天烈大百科」だったのだ。そこに自分の研究のすべてを書き残しておいたのである。

「奇天烈大百科」には時間を止める脱時機まで記されていた。まさに早すぎた超天才である。

©秋本治・集英社©藤子プロ

ガイ・ハミルトン　氷山大移動の技術を確立

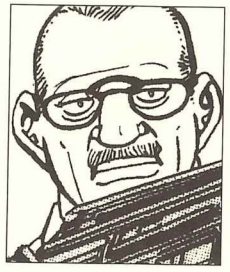
「ゴルゴ13」（アイスバーグ・カット）さいとう・たかを

マサチューセッツ工科大学の研究員だったが、独立してコンピュータ関係の会社を起こすも倒産。以来、ろくに仕事もせずに自宅で研究を続ける。そんな彼に愛想を尽かして離婚しようとした妻と舅をライフルで射殺して自宅に埋めている。

氷山を泡で浮かして解けにくくし、また泡の浮動力と推進力を利用して水不足に悩むアフリカまで運ぶ技術を完成させる。その理論はエジプトで採用されたのだが、これによってエジプトが大国化するのを危惧したアメリカの命を受けたゴルゴ13によって計画は阻止され、ハミルトンも抹殺される。

ベルナルド・シュルツ　社会性なき学者小僧

「ゴルゴ13」（フィールド・テスト）さいとう・たかを



MIT教授でガラス繊維強化プラスチックを開発。それを銃身に応用した超高性能銃を完成。

コロンビアの新大統領とは大学の同窓生だったが、銃の実戦テストのため、反政府ゲリラに銃を提供。

コロンビア大統領に雇われたゴルゴ13に抹殺される。

ウェブナー教授　自信過剰な心理学者

「ゴルゴ13」（破局点）さいとう・たかを

ハーバード大学で犯罪心理学を研究、人間の行動は、その人の傾向と置かれた状況とで割り出せると豪語し、自分の理論の正しさを証明するため、ゴルゴ13を挑発。

見事、ゴルゴ13の行動を先読みするのだが、ゴルゴ13は「不測の事態」で教授の裏をかく。

©さいとう・プロ／ビッグコミック連載中

ベルマイヤー博士　政治的のぞき魔の末路

「ゴルゴ13」（神の眼力）さいとう・たかを

国家写真解析センターのリーダー格。

軍事偵察衛星の画像処理で天才的な分析能力を示すが、アメリカの高官まで偵察して弱みを握って脅し、国家を裏から支配しようという野心を抱くが、アメリカ政府に雇われたゴルゴ13によって抹殺された。

リチャード・パトリッチ　遺伝子操作の達人

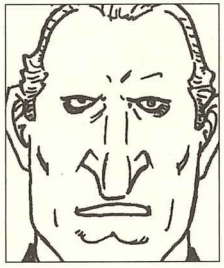
「ゴルゴ13」（バイオニック・ソルジャー）さいとう・たかを

ゲリラ戦の天才精子と、IQ180の頭脳を持つ世界的陸上ランナーの卵子から生まれた人間を薬物と科学トレーニングで鍛え上げ、ゴルゴ13にぶつける。

しかし、超人的な修業と百戦錬磨のキャリアを積んだゴルゴ13の不屈の精神力には及ばなかった。

シンプソン博士　血液型からゴルゴの人種を特定

「ゴルゴ13」（血液サンプルG）さいとう・たかを



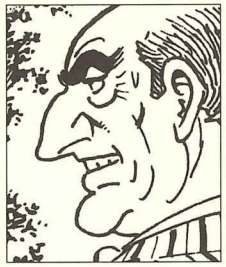
血清中のグロブリンから人種を特定する方法を考案。

ゴルゴ13を腸チフスだとだまして拘束し、採血して分析。その結果、ゴルゴ13の人種を9割近くまで絞り込むが、正体を隠そうとするゴルゴ13によって抹殺される。

はたしてゴルゴ13は日本人なのか？

アルバトフ少将　ふところ寂しい発明将校

「ゴルゴ13」（直線と曲線の荒野）さいとう・たかを



旧ソ連ユジノ兵器開発局を大組織にのし上げた天才兵器発明家。

代表作には、射出ナイフや、横風に影響されず1200メートル以上直進するライフル弾などがある。体制の崩壊で生活が苦しくなり、発明品を外国やテロ組織に売って儲けることを考える。

©さいとう・プロ／ビッグコミック連載中

ケルベロス研究所所長　匿名博士の異常な母性愛

「新・ジャングルの王者ターちゃん」徳弘正也

ケルベロスは悪の組織ＭＡＸのマッド・サイエンティスト集団。ターちゃんの体毛から抽出したＤＮＡでクローン人間を造り、刺客にしたてようとする。研究所所長は、このクローンを我が子のように溺愛するが、このクローンも人並に恋をする。相手はやはり所長が造り上げた怪物・ライオン娘。そんな我が子に所長は、彼女を恋人としてプレゼントしてやる、と言う。だが、クローンが手に入れたのは、ただ「好き、愛してる」とオルゴールのように繰り返すだけの人形に改造された元ライオン娘。ここに至って、クローンは殺人マシンに逆もどりしてしまう。

匿名　不気味なほど生に執着

「狂四郎２０３０」徳弘正也

人類史上最高の頭脳とも言われるこの学者は、第３次世界大戦を避けて地下シェルターに閉じこもって研究に専心する。その研究というのが、クローン人間製造。それも自分のクローンを造り、自分が老化して機能が衰えた内臓と、クローンの新鮮な内臓とを交換するためのパーツのストックとしてである。

だが、脳だけはそのままでは赤児同然。そこでペットの犬にクローンの脳を移植して己の持てる知識のすべてを教え込み、改めて自分にその脳を移植しようとする。しかし、天才犬に逃げられ、それを追いかけているうちに博士は脳疾患で死んでしまう。

©徳弘正也・集英社©徳弘正也／集英社／スーパージャンプ連載中

屋敷ムサシ　天才博士は子煩悩ストーカー

「とんでもナイト」小坂理絵

世界的なロボット工学の権威。亡き妻に生き写しのひとり娘を溺愛し、その子煩悩が変質者の域にまで達した超の字がつく親馬鹿。卓越した頭脳のすべてを振り絞って超高性能アンドロイドを開発したのも、娘に悪い虫がつかないように、さらにはあわよくばその馬の骨を抹殺するため。

だが、この天才科学者は意外な勇み足を犯す。人間そっくりに造ろうとするあまり、無意識に感情がめばえる仕組みを備えさせるのだ。そのアンドロイド小次郎は守る対象に愛情を抱いてしまい、娘も小次郎を憎からず思う。怒った父は、ついには小次郎抹殺ロボット軍団を生み出す。

土門竜二　暗い過去をひきずる根暗博士

「とんでもナイト」小坂理絵

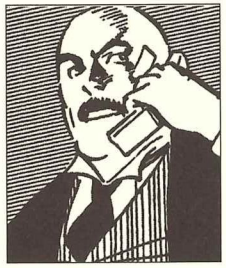
常に屋敷の後塵を拝し、また倉沢幹子を争って奪われるという暗い過去がある。

ロボット研究に進むが、屋敷が完璧なヒューマノイド・小次郎を完成させたことを知って嫉妬。

屋敷の娘カンナを誘拐して小次郎をおびき寄せ、その秘密を探ろうとする。

宗像（むなかた）伝奇　博士のベストドレッサー

「宗像教授伝奇考」星野之宣



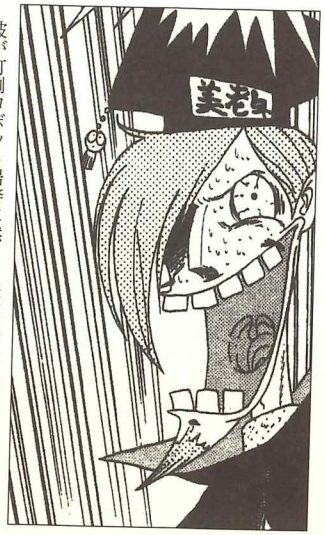
フィールドワークする先々で怪奇な事件に巻き込まれる民俗学者。

日本人の深層に潜む謎を暴いていくハンターである。外見はいかにも頭がよさそう。禿げ上がった額、意志的な顎のライン、鋭い眼光、そして外套のマントがいかにも博士という雰囲気だ。

©星野之宣／潮出版©小坂理絵／講談社

松戸狂授　悪の博士の原動力はスケベ心

「At Lady!」のむら剛



彼が打倒ロボット婦警に燃えるのは、以前エロ本収集を邪魔されたから。つまり、そのスケベ心が原動力になっているのである。そんなわけで、彼が造るロボット戦闘員も造物主に似て女好き。何かとエッチな攻撃でロボット婦警を苦しめる。もうひとつの特徴はゼンマイ動力。実は、彼は兼業農家で環境問題には人一倍敏感なのだろう。

そんな彼がついにその英知を結晶させたロボット婦警破壊兵器が通称・ブラディ・ミサ、悪のオートマティック・レディである。ロボット婦警と互角に闘える能力と非情の心を持つスーパー・アンドロイドである。

春田純一　耳学問のヒッピー苦学生警部

「At Lady!」のむら剛

IQ600という怪物クラスの超天才。ヒッピーにかぶれて諸国を放浪。アメリカではマサチューセッツ工科大学の掃除夫をしながら、ロボット工学を独学でマスター。帰国後、アートマティック・レディことロボット婦警を開発。このロボット婦警の活躍で彼は一躍脚光を浴び、異例の出世を遂げる。だが、6体の優秀なロボット婦警を開発した彼が、その後造った7号はとんでもない大ボケ娘。いい加減あまりにも完璧な被造物にうんざりしてしまったのか、無意識のうちに、1分の隙もない美人より、ドジな妹のような女の子が好みになったのかもしれない。

©のむら剛・集英社

ウルド　薬物調合のマニア

「ああっ女神さまっ」藤島康介

女神3姉妹の長女だけあって無敵のパワーを誇り、特に電撃など攻撃破壊系の呪文を得意にしている。

ただし精度が低くて思うような効果が得られないせいか、薬物調合のマニアになっている。妹ベルダンディーの病気を完治させたりして、腕前は十分。

ただ、ちょっと配合を間違え性転換を招いたり、淫乱にさせたりするなど恐ろしい副作用を引き起こすことも。また、自分で作った惚れ薬を間違って飲んで異常に惚れっぽくなったこともある。毒と薬は紙一重という言葉を地で行っているのだ。

スクルド　幼いながらも天才少女

「ああっ女神さまっ」藤島康介

女神3姉妹の末娘とあって、その力は未熟。そこで科学の力で補おうと、発明に凝る。本来この世に存在しないはずの女神が長期滞在したためにニュートリノが発生して次元が歪んだのを解決する機械を開発。また、コンピュータがなくて多次元計算を算盤と筆算でやってのけるという離れ業も披露。代表作は、さまざまなアタッチメントを備えた多機能用心棒ロボットばんぺいくんRX。常に爆弾を携帯しており、ことあるごとに爆発で解決しようとする傾向も。自分の発明品に「～くん○号」と命名するあたりに幼児性が感じられる。

暮里博士　才能豊かな幽霊博士

「So What?」わかつきめぐみ

タイムマシンの実験の失敗で空間に歪みが生じ、異次元の少女ライムがやって来る。彼女を元の世界に戻してやるべく研究を続けるのだが、完成させないまま死んでしまう。そこで、死ぬ間際に孫娘・阿梨を呼び寄せてライムの世話をさせるとともに、自らは幽霊となって助手と共に研究を続行。本職は科学者で大学教授だったのだが、童話作家でもあり、研究費稼ぎのためポルノ小説も書いている。幅広い才能の持ち主である。スパイ団に監視されるあたり、相当な研究をしていたようだが、スパイ団にしてみればていのいいリストラ対策だったのかもしれない。

©わかつきめぐみ／白泉社

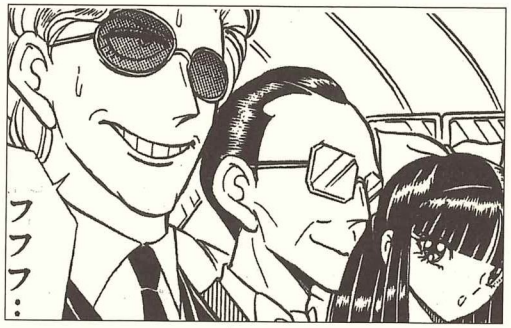
雅狂志郎　アンドロイドと近親相姦

「シークレットレディ」千之ナイフ

最愛のひとり娘・麗子を交通事故で失ったのを深く悲しみ、アンドロイドとして甦らせることを考える。そして7年の研究と試行錯誤の後、見事アンドロイド麗子が完成する。彼の麗子への溺愛ぶりはかなり変態チック。麗子の裸体を覗いて悦に入り、ボディコンや露出度の高い格好をさせ、自分に挨拶のキスを強制。また、エネルギー充電スティックをタンポンの形にするに至っては（いくら目立たないようにするためとはいえ）やりすぎ。そんな彼のロボット工学の出発は、学生時代に造った小さなバレリーナ・ロボット。元からロリコンの気があるのだ。

ストレンジ　ラブ　キューブリックへのオマージュ

「シークレットレディ」千之ナイフ



アメリカ国防相兵器開発局長官で、世界一のロボット大国である日本へ視察に来る。その真の狙いは、ロボット兵を大量生産して外敵を粉砕すること。「ハイル！」と叫んで片手を上げるナチス式敬礼が癖。スカートをめくり、中に手を突っ込む、という困った発作の持ち主でもある。日本のロボット産業を代表する多井留博士を訪問するが、期待したほどの高性能ロボットではなく失望。代わりに完璧なアンドロイドの麗子のロボット軍団を造ろうとする。そこで麗子を誘拐して分析するのだが、解明できず。結局、麗子を人質に設計図をわたすよう雅博士に要求。

©千之ナイフ／久保書店

多井留博士　アニメおたくの工学者

「シークレットレディ」千之ナイフ

日本を代表するロボット工学の博士。学生時代、すでに二足歩行ロボットを製作するなど天才肌であった。だが、そんな彼のプライドは同級の超天才・雅狂志郎によってズタズタにされる。雅が人と見まごうばかりの完璧な美少女アンドロイド・麗子を完成させると、なんとかしてその秘密を解析しようとするが失敗。またアメリカ国防相のストレンジ　ラブ博士と組んで麗子を誘拐監禁して再挑戦するも、またもや失敗。発明品を見ると、雅博士が欧米のSF映画のマニアであるのに対し、多井留博士は日本のマンガやアニメのファンであることがうかがえる。

田所博士　科学に殉じた不条理博士

「コージ苑」相原コージ

助手・本郷君が遊園地の乗り物（博士に言わせると遠心力実験だそうだ）の事故で瀕死の重傷を負う。だが脳は無事だということを確認し、彼の頭部を冷蔵庫に接続してホンゴーレイゾーコー1号として再生させるのである。

その後も、「せめて歩けるようにしてもらえませんか」という本郷君のリクエストに応えて、今度は掃除機と合体させてやる。

そして最後には、自らの肉体を本郷君に与え、自分は冷蔵庫と合体する。博士は言う。「科学者の究極の目的は、自らが科学そのものと化すことじゃ。科学を志す者にとってこれ以上の喜びがあろうか」

©千之ナイフ／久保書店©相原コージ／「コージ苑」・小学館

坂崎俊也　ダジャレ好きの天才

「カームブレイカー」岩瀬昌嗣

兵器開発に携わる鎌田重工企画7課課長、自称平成のアインシュタイン。とにかく目立ちたがり屋、お調子者、そしてダジャレ好き。ロボット兵器を開発したと称して美少女アンドロイドさゆりちゃんを造り上げる。戦闘メカとしては問題外（第一、戦闘データをプログラムせずに、ギャグやダジャレのデータを組み込んである）。それでも、人間に近い洞察力と思考能力のある人工知能が搭載され、学習し成長していく画期的なアンドロイドを造り上げたのだから、天才科学者を名乗るのも伊達ではない。さゆりちゃんも経験値を上げ、戦闘ロボとしても成長していく。

下柳　幅広い趣味のロボット工学者

「カームブレイカー」岩瀬昌嗣

鎌田重工のライバル企業・倉橋工業株式会社きっての腕利き。さゆりちゃんやミスターボールさん1号を倒すためにヒューストン支社から呼び戻される。

ヤンキー娘型アンドロイドのサリー・パープリン、鎧武者型巨大ロボ・クロノサワ1号を開発する。

有田千里　嘆きと嫉妬の生真面目美人

「カームブレイカー」岩瀬昌嗣

鎌田重工企画8課課長。重厚なデザインが好みで、有人搭乗型巨大戦闘ロボ・パワードアーマーのミスターボールさん1号を開発。

軽薄だが天才肌の坂崎とは対照的に、しっかり者のようで実はマヌケ。坂崎と離婚したという暗い過去の持ち主で、嫉妬深い。

©岩瀬昌嗣／講談社

煙草好きの科学者　エリート学者のなれのはて

「AKIRA」大友克洋

国家レベルでの超能力実験ラボに所属。超能力暴走で東京が再び廃墟と化した後でも、昔のように機材を持ち込み、惰性のように何やら研究している。そんな彼の楽しみはただ煙草だけ。かつての同志・大佐が重傷のチヨコを運び込んだ時も迷惑そうに、買って来てもらうように頼んだ煙草のことばかり気にしている。それでも、大佐の依頼でレーザー・ビーマーを造ってやったりするあたり、腕は衰えていないようだ。また、研究所が崩壊したのも超能力者（被験体）の暴走のせいだ、ということで超能力者を殺そうとするあたり、結構血気盛んなところも見せる。

ジュヴィナイルAのメンバーたち　科学の枠を越えられない異端者たち

「AKIRA」大友克洋

超能力の暴走で東京に起こった異変に対応すべくアメリカ太平洋艦隊が東京湾に接近し、その艦中にて米ソ共同で超能力研究が行われる。先鋭すぎて通常の学界では異端視されている卓越した頭脳の持ち主が世界中から集い、その中心人物ドプロフスキーによって、プロジェクト・チームはジュヴィナイルAと命名された。

しかし鉄雄に、常識的な科学の枠にとらわれている限り、既成の科学の常識を超えた巨大な力を理解することなどできないと嘲笑される。優秀な世界的な科学者もかたなしである。ここにも博士の権威の失墜が明確に表現されている。

©大友克洋／講談社

機関屋金吾郎　マヌケなからくり屋

「お江戸忍法帳」たがみよしひさ

日雇忍群おたすけ組のためにさまざまな新兵器を発明。ところが、発明の大半が役に立たないマヌケなものばかりで、しょっちゅう火薬の量を間違えて爆発させてしまう。代表作は樽を重ねたような人力式木製巨大ロボット・巨大人。

幻覚剤の調合もやる。

藤井一　無責任な道楽親父

「3×3EYES」高田裕三

民俗学教授。世界中を放浪して妖怪伝承を研究している。

チベットで三つ目族・三只眼叶加羅の生き残り・パイと出会うが、長年の疲れが出て客死。その間、ひとり息子をほったらかしにしていたが、パイを息子に任せる。結構無責任な道楽親父である。

夏目久作　野望を秘めた男やもめ

「万能文化猫娘」高田裕三

三流大学の講師だが、実は生体実験がばれ、表舞台から抹殺されていた。息子・龍之介がかわいがっていた猫が死んだのをかわいそうに思い、その猫の脳をサイボーグに移植して生まれたのが、人型猫脳アンドロイド・ヌクヌクである。男やもめ状態の彼としては、龍之介の遊び相手としても姉としても、また自分の娘としても妻（愛人）としても兼ねられる存在だ。

だが、久作はただの家族ごっこに憧れる寂しい中年男ではない。ヌクヌクから生体サイボーグのデータを得、発表することで自分を追放した学界を見返し復讐するという野心を抱いているのである。

©たがみよしひさ／潮出版©高田裕三／講談社©高田裕三／双葉社

小田利マスダマス良子　才色兼備の美人博士

「MAICO2010」清水としみつ

カーネギーメロン大学教授、アンドロイド開発計画主任。事故で亡くなった妹の代わりとしてアンドロイド・MAICOを開発。実はMAICOは性的な奉仕をするアンドロイドとして造られるのだが、それは軍事目的でも産業用でもないアンドロイドを造るには、そういうかたちぐらいでしか予算が下りなかったため、と考えられるが、マスダマス自身も、より人間らしく感情表現を豊かにするためであった、と語っている。要するに彼女は亡くなった妹そのものを再びこの世に生み出す、まさしく人と見まごうばかりの精巧なアンドロイドを造りたかったのである。

杉田　白髪に宿る暗い過去

「MAICO2010」清水としみつ

優秀すぎ、強力すぎるMAICOを危険視して破壊のために奮闘し、各種の兵器を開発する。

本当は若くていい男なのだが、白髪の老人に変装している。袂を分かったマスダマスとかつて恋愛関係にあった過去の自分と決別するためであろう。

Dr.イチガキ　最強生物兵器を追求

「幽☆遊☆白書」冨樫義博

彼は最強の生物兵器を造るのが夢である。「なにも恐れず、なににもとらわれず、我が意のままに動く完ぺきな殺戮マシン」、それが彼の理想とする生物兵器だという。

その実験材料にふさわしい、健康な肉体で格闘技を身に付けた若者を求めるのである。

©清水としみつ／少年画報社©冨樫義博・集英社

成原成行　自己顕示欲のカタマリの愉快犯

「究極超人あ～る」ゆうきまさみ

溺愛する（？）ひとり息子が交通事故に遭ったのを悲しんで息子そっくりのアンドロイドを造り上げる。ところが、あまり出来がよくないのに腹を立てて博士はそのアンドロイドR・田中一郎（通称あ～る）をお化け屋敷に売り飛ばしてしまう。その後、あ～るを使って世界征服しようとする科学者がいる、とわざわざ自分で匿名の投書を毎日のように警察に送りつける。肝心のあ～るは高校生となれ合って父親の世界征服事業に協力しないのだが、あ～るそっくりの妹アンドロイド・デコや量産戦闘用ロボット・バーサーカーなどを開発して春風高校を占拠するに至る。

西脇冴子　何よりパパの遺産の怪獣が大事

「機動警察パトレイバー」ゆうきまさみ

西脇順一の娘で、父の後を継いで東都生物工学研究所の所員となる。

父の遺産であるニシワキ・セルから生まれた「廃棄物」シリーズに執着し、こともあろうに人間のガン細胞を養分にして成長し、怪物化した13号が暴れ回った時も、あくまで処分に反対。海に飛び込んで、13号と闘うパトレイバーの邪魔をするという捨て身の活躍をする。

13号が人間をおびやかす存在になったとしても、それは自然が13号を認めたということで、よろこぶべきことだ、とまで言ってのけるマッド・サイエンティストぶりを見せてくれる。

©ゆうきまさみ／小学館（サンデーコミックスワイド版より）

西脇順一　怪獣細胞の培養者

「機動警察パトレイバー」ゆうきまさみ

東都生物工学研究所の第一研究室長。

南極で発見された隕石に付着していた有機物を分析、その細胞はニシワキ・セルと呼ばれる。その死後、ニシワキ・セルは、米軍が生物兵器として利用することを考え、同研究所で「廃棄物」シリーズとして開発される。

津森（父）　冗談好きな天才肌博士

「サディスティック・19」立花晶

スーパーモデルに憧れる娘のために手足が細長くなる薬「スーパーモデルの素」を作る。また、家庭用サウナ兼用の臨死体験マシーン「死んでみるみる」を発明。これは、高速遠心分離器の原理を応用して魂と体とを分離し、さらに生命維持装置にもなるというもの。

パタリロ・ド・マリネール8世　ひねくれ怪童は超天才

「パタリロ！」魔夜峰央

まず、生まれるなり、おとぎ話よりも経済や哲学の専門書を好んだ。3歳で小学校に入学したのを皮切りに、次々と飛び級を重ね、9歳でマリネラ大学を卒業。しかも大学では17歳でノーベル賞を受賞した神童クリスチャンと首席を争っている。その後、密かに旧西ドイツに留学してロボット工学の権威ブラント博士のもとで修業。その成果は彼の最も有名な発明品であるスーパーロボット・プラズマXに結晶されている。

また、変装の名人パタリロは、シバイタロ博士という温厚誠実で金銭欲がないキャラに変身、国際医学者会議に出席する。

©立花晶／白泉社©魔夜峰央／白泉社

ピース貫太郎　電器店を営み発明家電製品を販売

「おまかせ！　ピース電器店」能田達規

電器店を営み、自分の発明した家電製品を売っている。だが元を正せば、マサチューセッツ工科大学を卒業後、NASAに進んだエリート。好きなものを発明するのが楽しくて、今の職を選ぶ。だが、家電製品を主に手掛けるかたわら、密かに巨大ロボットを開発して地下に隠している。といっても、なんの攻撃能力もなく、ただ呼べば飛んで来るだけのもの。それでも「巨大ロボットは男のロマンだー！」と叫ぶ熱いところも見せる。確かにパワーは十分だった。奇抜な製品を作っているが、デザイン的にはシンプルで、実用性、機能性を重視しているようだ。

ピース健太郎　商才豊かな父子鷹

「おまかせ！　ピース電器店」能田達規

父譲りの発明の才能で、父と張り合って新製品を開発。機能的にはまだまだ父には及ばないものの、ファンシーなデザインや動きが受けて、売り上げではむしろ父を上回っている。

学校でもその発明品を売ったり、修理を引き受けたりする商才を示す。

敵烈藤男　心の病んだキテレツ君もどき

「浦安鉄筋家族」浜岡賢次

言わずと知れたキテレツ君のパロ。あかねの幼稚園時代の同窓生で、すでに発明王の異名をとっていたというから、相当な早熟である。とはいえ、走りながら排泄できる自転車トイレだの、手袋に画鋲を貼り付けた友情決裂手袋だの、発明品はわけのわからないものばかり。

©能田達規／秋田書店©浜岡賢次／秋田書店

間宮善一　スーパー大富豪の道楽天才博士

「みんなあげちゃう♡」弓月光

代表作は、B.E.T.こと両性感情移入伝達機。要するに男女両性の感覚を入れ替えることで、相手の感じていることをそのまま理解できる、というとんでもない機械である。まさしくノーベル賞級の大発明。どうしてこんなすごいものを世間に発表しないのですか、と六朗は尋ねるが、商品化するにはコストがかかりすぎる、というのが善一の返事だ。自分の発明が人類史に残る偉大な業績であることも、これを実用化すれば、医学生理学にどんなに貢献するかも彼にとっては何の興味もない。彼はただ、自分の趣味で大人のおもちゃを造っているにすぎないのだ。

月餅　死体から最強のクローン拳士をつくる

「闘将!!　拉麺男」ゆでたまご

死体を盗掘して、その細胞からクローンを作る…。

とこう書くと、フランケンシュタイン博士の亜流のようだが、月餅がユニークなのは、過去の名拳士の細胞から、クローン拳士をつくりだした点にある。

こうして生まれたクローン拳士をコーチにすることで、月餅は道場の規模を大きくしていったのだ。また最強の4拳士の細胞を掛け合わせたクローン29号をつくるなど、優秀なところをみせる。だが、結局はクローン拳士に反逆され、行方不明になってしまう…。その29号こそ、実は拉麺男?

平間源吉　蘭学に生き仇討ちに死す

「黒鉄」冬目景

天才蘭学者の源吉は、瀕死の渡世人・迅鉄をサイボーグとして甦らせる。が、源吉の言語機能まで回復させることはできなかった。そこで源吉が迅鉄のために発明したのが、人工知能を搭載したしゃべる刀・鋼丸だ。何とこれを人間を元に造ったというから、驚くべき技術力である。

©弓月光©冬目景／講談社

イド・ダイスケ　凶暴な本性を昇華させる善良な修理屋

「銃夢」木城ゆきと

サイボーグ専門の医者。少女の体をベースにした胸像のようなサイボーグの残骸を見つけ、彼女（？）に心を奪われたかのように、少しずつパーツを集めてそのサイボーグを甦らそうとする。

だが、一見お人よしの修理屋にすぎないような彼にはもうひとつの顔がある。賞金首のお尋ね者の凶悪犯を捕らえ、あるいは処刑するハンター・ウォリアーである。実は、彼は残酷な性格で、人をいじめ、傷つけ、殺すのが大好きなのである。それを犯罪にならない形で実行する唯一の方法が、このハンター・ウォリアーだったのだ。

天馬賢三　モンスターに憑かれた天才脳外科医

「MONSTER」浦沢直樹

抜群のテクニックを誇る天才的脳外科医。

ドイツで活動していたが、ひょんなことからヨハンという「悪魔」と関りをもち、数奇な、そして残酷な運命をたどることになる。

ヨハンとめぐり会わなければ、間違いなく脳外科の世界的権威になれたはず。

オペに立ちあった同僚はこう評価する。

「頭蓋骨の削り方も手際よく、見事の一言だった!!」「あんなむずかしい部位の脳動脈瘤をあの速さでクリッピングするなんて!!」と賛辞を辞さなかった…。

ああそれなのに、まったくもって、トンデモないモンスターにとり憑かれてしまったものだ。

しかし、天馬はどんな困難に陥ろうとも、決してあきらめない不屈の闘志をもっていた。いかなる状況にあっても、医者であることの誇りを捨てることはなかった。

ドイツ・ミュンヘンの不法滞在者に治療を施す女医に対して、こう忠告する。

「最後まであきらめるな!!息のある患者だったら最後の最後まで望みを捨てるな!!」かっこいいではないか。たとえ深い闇に沈みこもうとも、天馬が人の愛を見失うことはないだろう。

ところで、注目すべきは、その名前。アトムの生みの親である天馬博士へのオマージュかも?

©木城ゆきと／集英社ヤングジャンプコミックス

錦小路はるか　目指せノーベル賞、発明マニアのお医者さん

「どっきりドクター」細野不二彦

「白ばらクリニック」を運営するとともに、校医としても活躍する。だが彼がその力を最大限に発揮するのは怪しい薬品や妙な器具を発明する時である。例えば、助手のみゆきがバストがないのを気に病んでいるのを知って胸の発育を促進する薬を作ってあげたり、自分が女生徒の健康診断に立ち会えないものだから、体感を伝える聴診器を作ったり…。彼が発明に執念を燃やすのはひとえに、みゆきへの愛。みゆきのハートを射止めたい一心で、人から尊敬されるような、ノーベル賞が取れるような立派な人間目指して勉強に励み、発明に取り組むのである。

赤木リツコ博士　謎の汎用人型決戦兵器を設計

「新世紀エヴァンゲリオン」作／GAINAX　画／貞本義行

国連特務機関ネルフの本部技術開発部技術課に所属するエヴァ開発の責任者。

謎のヴェールに包まれたエヴァンゲリオンの開発者だけに、赤木博士も今ひとつ正体不明なところがある。

ご覧のとおりの美人で、対応も如才がない。しかし態度が毅然としているため、どこか近寄りがたい雰囲気がある。博士にセクハラしようという男は間違っても現れまい。年齢は30歳という設定だが、ヴィダル・サスーンにカットしてもらったようなヘアスタイルも若々しく、どう見ても20代。左目の下の泣きボクロがとってもチャーミングである。

©細野不二彦／小学館（サンデーコミックスワイド版より）©GAINAX

蒲腐博士　公金を横領して防衛軍を組織

「エクセル・サーガ」六道神士

古典的な悪の幹部も顔負けのマッドサイエンティストであるが、正義の防衛軍の指導者。市の役人でもある。博士と言っても、研究所で白衣を着て何やら開発しているようなシーンはあまりない。理系かどうかも怪しい。とはいえ、妙な光線が出るすさまじい破壊力の銃を開発したのが蒲腐博士本人だという可能性も否定できない。そんな蒲腐は市街環境安全保障局という名の防衛軍を組織。その資金は、なんと地位を悪用した公金の横領、使い込みだ。だが、彼にはかけらほどの罪の意識もない。街の平和を脅かす具体的な悪が存在しない、というのが目下の悩み。

高宮鋼太郎　正義のために闘う不屈の天才少年

「B'T-X」車田正美

幼くして神童ぶりを発揮し、11歳で留学。それから5年後、16歳にして教授の地位にあり、ロボット工学では世界一と認められている。そんな彼が学会で発表中に誘拐される。彼をさらったのは、機械皇国。高度に発達したロボットの力で世界を支配しようとする組織で、優秀な科学者を集めていたのである。

彼は皇帝の代理人ミーシャに協力するよう言われるが、正義感ゆえに頑として拒む。ミーシャの怒りを買って地下で強制労働をさせられるが、世界的な科学者ニーツィンから、機械皇国の究極兵器ラファエロの秘密を托され、これを倒す方法を研究する。

©六道神士／少年画報社©車田正美

柳沢良則　几帳面とこだわりは海軍仕込み

「天才柳沢教授の生活」山下和美

Y大学経済学部教授。経理学校を首席で卒業した後、海軍に入る。几帳面で規則正しい生活を決して崩さず曲がったことが大嫌い。道を歩いていて、道路に固形排泄物が落ちていようものなら、警官のようにチョークで囲って「犯人をつかまえろ」と書くのである。服を買うにも、ロゴのスペルをいちいち気にする。買い物でも、とことん安くていいものを手に入れようと、気が済むまで店をさがすというこだわりは、主婦顔負け。人が運転している車にまで法定速度を守らせるような厳しさがある反面、公共ルールに反しない限り、個人の自由は尊重。タンゴが異様にうまい。

御茶袁図博士　男のロマンをロボットで実現!!

「戦うメイドさん！」西野つぐみ

レディーメイド社でメイドロイド、つまりメイド・ロボットを開発。彼が言うには「メイドさんは全男性の夢じゃ！　やさしく従順に身の回りの世話をしてくれる理想の女性像なんじゃっ!!」とのこと。で、一人前のメイドロイドにするためには実際の経験が不可欠と、教育係として、花見で出会っただの若者をモニターにするなどアバウトなところがある反面、メイドロイドのことが周囲に漏れぬよう、生活費を稼ぐ苦学生という設定をしておくというソツのなさも示す。なお、現行モデルにエッチ機能はないが、いずれそちらの開発も手掛ける意向!?。

©山下和美／講談社©TUGUMI NISHINO 1998©ぶんか社

平賀源成　南蛮流の元祖科学忍者

「おーえど娘忍者」私屋カヲル

あの平賀源内の孫で、祖父譲りの才能を生かしてマッドサイエンティスト忍者をやっている。

知り合いのくノ一・しのぶのために、遠隔操作機などさまざまな発明をしてやるが、とても江戸時代のものとは思えないようなハイテク・マシンぞろい。

なぜかパンダのロボットまで造って身の回りの世話をさせているが、このパンダ・ロボのマルガリータときたら、製作者に恋心を抱き、恋敵のしのぶを抹殺しようとする。ロボット三原則には反するが、高度な感情を持つ人工知能が搭載されているのは驚異的である。

ドクターM　悪の博士はヤギさんだった!!

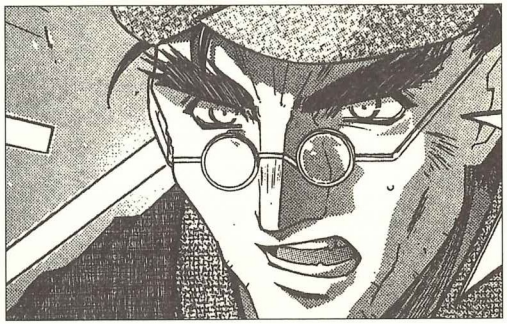
「ナマケモノが見てた」村上たかし

動物村で密かに世界征服をたくらみ、そのための生物兵器を開発する悪の科学者。あらゆる動物の最も優れた部分を合成した地上最強の合体生物アニマルキングを造る。クマの腕力、チーターの脚力、イボイノシシの顔、カメの甲羅、ウマの生殖器など。しかし、人間の脳を移植したところ、自らのあまりにも醜い姿を恥じて自殺してしまう。また、「笑いによる世界征服」をコンセプトに、オランウータン、イボイノシシなど、ゆかいな顔の動物を合成した「お笑い一号」を開発。敵を爆笑させて戦闘不能に陥れようと計画するが失敗に終わる。

©私屋カヲル／小学館　©村上たかし

綾小路博士　科学とオカルトの結婚

「鋼鉄天使くるみ」介錯



永久自動人形「鋼鉄天使」を研究していたのだが、それを軍事用に応用した「鋼鉄兵士」を開発するよう軍部に要請される。しかし殺人兵器開発に携わるのを嫌い、軍を脱走。「人民を蹂躙する道具を造りたくない」と言うあたり、実は左翼シンパなのかも。なお、彼の鋼鉄天使の原理は、現代先進科学と呪術、そして西洋魔法の結晶というもの。主人には絶対の忠誠を誓い、主人次第で天使にも悪魔にもなるという。メイド用なのだが、戦車をも圧倒するパワーを持つ。他にも瞬間物質転送機を発明しているが、送ったまま、どこに行ったかわからなくなる。

大沢木晴郎　浪人生は気楽な稼業ときたもんだ

「浦安鉄筋家族」浜岡賢次

主人公・小鉄の兄で長男坊の彼は浪人中だが、映画やアニメのマニアで、ろくに勉強もせず、オタク道を邁進している。また手先が器用であれこれ発明もする。たとえば、末弟・裕太のためにアメリカン・タイプの三輪車を作ってやったり、小鉄のガールフレンドで自転車に乗れないあかねのために超ハイテクシステム完備超安全設計宇宙2輪ボイジャー4号なる自転車を開発している。他にも、タクシー運転手の父・大鉄のために、超安全エアクッションや動物動力の「地球にやさしい未来の自動車」を発明したりもする。また、「キテレツ大百科」に傾倒している。

©介錯1998／角川書店©浜岡賢次／秋田書店

Spirit of Wonderの博士たち

博士なき時代における博士列伝を描こうという、一見不可能とも思えるチャレンジに果敢に取り組んだ鶴田謙二の「Spirit of Wonder」。その試みは見事に成功した。やっぱり変な博士がいなきゃ科学はつまらないのだ！

ファーブル博士　瞬間物質移動機で月旅行を計画

博士というよりは、まるで農夫のような素朴なたたずまいだが、業績は豊富。

まず「竜巻発生装置」が挙げられる。

これは、本物の竜巻に人工の竜巻をぶつけて相殺させるもの。『ドラえもん』の「台風の卵」をヒントにしたものと思われる。

「瞬間物質移動機」もなかなかに画期的。このマシンと地球の重力エネルギーを利用して月に行くことまで計画している。アポロ計画もマッ青である。もっとも、最終的には失敗に終わったようだが…。

また、精巧なアンドロイドのアリスも造っている。

シャーロック・スケルマーズデイル博士　マイ宇宙を造り造物主気取り

髪を七三に分け、スーツをバッチリ着こなし、いかにも紳士然としているが、表情をみればアブナイことは一目瞭然。実際博士は、ハミルトン型ミクロ宇宙といって、惑星も生命もある生きた宇宙を研究室に造って、造物主の気分を味わい悦に入っているのだ。

博士はさらに暴走する。このミクロ宇宙に比べて人間は巨大だから、人体も巨大化すれば何光年も先の恒星に簡単にたどり着ける…なんて支離滅裂な理論に到達するのである。研究室に閉じこもり、常識や道徳を逸脱した、絵に描いたようなマッドサイエンティストである。

難波博士　日本初のノーベル賞を二度受賞

『Spirit of Wonder』のオープニングを飾る天才博士。日本人として初めてノーベル賞を二度受賞した偉大な科学者である。

お話は、博士の死後、息子が遺言状代わりの宝の地図を発見するところから始まる。この地図は、鏡文字で描かれているという、まるでレオナルド・ダ・ビンチもどきの凝ったもの。内容は、異常気象という深刻な問題を解決する技術を綴った貴重な内容だった。

難波博士は明らかにアインシュタイン博士のオマージュ。ベロ出しのポーズや白髪はアインシュタインそのまんま。

ウェンディ・リンドヴァーバーグ博士　新理論で火星探検を目指す

科学理論書の著作があることをのぞけば、どこにでもいるような平凡な女性。試験管よりおたまが似合いそう。

髪はストレートロングの美しい黒髪。時には気分を変えて三つ編みにすることも。お化粧もなかなかに上手。濃い口紅を塗ることが多いようだ。服装は、博士の定番コスチュームである白衣を着ることはほとんどない。家事全般もちゃんとこなす家庭的な女性でもある。

しかし、頭脳はハンパじゃない。宇宙旅行を可能にするエーテル気流理論を打ち立てたのだ。

「少年科學倶楽部」とともに火星探検を試みる。

植木田博士　自ら発明した冷線砲で自らをフリーズ

異常な温度上昇を食い止める冷線砲の発明者。しかし、そのかいもなく、水位は上昇を続け、海に面した街は次々と水没し、博士自身が冷線砲によって氷漬けになってしまうのだった…。専門バカの典型で、社会的常識ゼロ、責任感ゼロ、という困った博士である。

さらに困ったことに、博士は無類の女好きでもあるのだ。病院に入院すれば、寸暇を惜しまず看護婦さんを追い回したりと、バイアグラいらずの暴走ぶりを発揮する。しかし、無責任にも理由があったりして。なにせ、フルネームが植木田等なんだもの。無責任男と一字違いなのだ。

ブレッケンリッジ博士　空間反射鏡で月面に愛のメッセージ

女性の誕生日プレゼントに、月面に女性の名前とともに「HAPPY BIRTH DAY」の文字を浮かび上がらせようと試みる、無類の女好き博士。

その原理はというと、空間を反射させ対空間をつくる空間反射鏡を月に向けることで、小型化した月の像を地球にもってくるというもの。

と書いたところで、どこまで実現可能なのやら妄想なのやら、凡人には判断もつかないほどの発想である。

無精者で貧乏なくせに、いやに高級そうな服を着こなしているあたり大いに謎。サスペンダーを愛用したりして、なかなかの洒落者である。

空想科学年表

20世紀は科学の時代といわれる。
画期的な発明や発見が相次ぎ、それまでのパラダイムを一変させた。
科学の力が社会を変え、人々の生活をも変えたのである。
この場合の科学とは、「実学」としてのサイエンスだけではなく、人々の想像力を刺激する「ロマン」としてのサイエンスもふくまれている。
ロマンとしての科学は、人々の夢と願望を具現化したものだけに、そのパワーは強力なものがあった。
空想科学マンガ、映画、ノベルス……どれもが現実の数歩先を行き、現実の科学は後から空想を追いかけていったのである。
この年表は、空想科学がどう現実の科学とシンクロしていったのかを年代別にまとめたものである。

西暦	科学年表	空想科学漫画年表	空想科学エンターテインメント年表
1946	J・フォン・ノイマン、コンピュータ研究を開始。		宇宙のスカイラーク（Nスミス）
1947	アメリカで初めて超音速飛行。	「火星博士」（手塚治虫）	始めか終りか
			怪塔王（N海野十三）
1948	G・ガーモフら、ビッグバン理論を展開。		魔童子（N小栗虫太郎）
	W・B・ショックレーら、トランジスタを発明。	「ロストワールド」（手塚治虫）	100万光年の決闘（Nキャンベル）
1949	N・ウィナー、サイバネティクス理論を展開。		地球へ来た電人（N山中峯太郎）
	湯川秀樹、ノーベル物理学賞受賞。	「メトロポリス」（手塚治虫）	人間タンク（N砦小二郎）
			非Aの世界（Nヴァン・ヴォート）
1950		「漫画大学」（手塚治虫）	透明人間現る
			海底牢獄（N香山滋）
1951	初の商業用コンピュータで磁気テープ記憶型のUNIVACI、レミントンランド社から発売される。	「来るべき世界」（手塚治虫）	空飛ぶ円盤（N林かつよ）
		「鉄腕アトム」（手塚治虫）	アトム君の冒険（N鈴木相）
			1984年（Nオーウェル）
1952	アメリカで、ウランからエネルギーを取り出すと同時にプルトニウムを生産する増殖炉を初めて建設。	「宇宙博士」（桑田二郎）	スター・キング（Nハミルトン）
			月世界征服
			ロボット城（N野村胡堂）
			緑の秘密国（N木々高太郎）
			火星年代記（Nブラッドベリ）
			われはロボット（Nアシモフ）
			ファースト・レンズマン（Nスミス）
			失われた世界（Two Lost Worlds）
			遊星よりの物体X
			透明怪人（N江戸川乱歩）
			宇宙への序曲（Nクラーク）
			火星の砂（Nクラーク）
			銀河帝国衰亡史（Nアシモフ）
			トリフィドの日（Nウィンダム）
			原爆下のアメリカ
			太陽の凱旋（N山中峯太郎）

※Nは小説、Tはテレビ、無印は映画

西暦	科学年表	空想科学漫画年表	空想科学エンターテインメント年表
1953	史上初の性転換手術。 ソニーがポケット・サイズのトランジスタ・ラジオを開発。 J・D・ワトソンら、DNA二重らせん構造を提唱。	「38度線上の怪物」（手塚治虫）	宇宙戦争 最後の共和国（N石川達三） 宇宙怪人（N江戸川乱歩） 幼年期の終り（Nクラーク） 銀河帝国の崩壊（Nクラーク） 華氏四五一度（Nブラッドベリ）
1954	史上初の原子力潜水艦ノーチラス号、就航。 ベル研究所、太陽電池を開発。 ビキニ環礁で水爆実験。	「地球の悪魔」（手塚治虫）	ゴジラ 怪獣ゴジラ（N香山滋） 鋼鉄都市（Nアシモフ）
1955	O・チェンバレンら、反陽子を生成。 C・L・コーワンJr.ら初めてニュートリノを観測。	「鉄人28号」（横山光輝）	宇宙怪獣ラモックス（Nハインライン） 獣人雪男（N香山滋） マジェラン雲（Nレム）
1956	B・クックら、反中性子を発見。 水俣病が正式に確認される。		十月はたそがれの国（Nブラッドベリ） 宇宙人東京に現る 禁断の惑星
1957	初の人工衛星スプートニク1号、ソ連により打ち上げられる。	「鉄人ブラック」（桑田二郎） 「まぼろし探偵」（桑田二郎）	R52号の発明（N安部公房） 太陽系帝国の危機（Nハインライン） 鋼鉄の巨人（スーパージャイアンツ）
1958	J・ヴァン・アレン、ヴァン・アレン帯を発見。 江崎玲於奈がトンネル・ダイオードを発明。	「巨人16号」（桑田二郎）	地球防衛軍 宇宙への冒険 ぼくらの宇宙旅行（N原田三夫）
1959	ゼロックス複写機、登場。	「スリル博士」（手塚治虫） 「少年ジェット」（武内つなよし）	アンドロメダ星雲（Nエフレーモフ） 泰平ヨンの航星日記（Nレム） この子の父は宇宙線（N新田次郎） 月光仮面（T） 遊星王子（T） メトセラの子ら（Nハインライン） 渚にて 七色仮面（T）

西暦	科学年表	空想科学漫画年表	空想科学エンターテインメント年表
1960	T・H・メイマン、レーザーを開発。 宇宙の知的生命体からの電波を受信しようとするオズマ計画、成果なし。	「ナショナル・キッド」（一峰大二）	少年ジェット（T） 第四間氷期（N安部公房） 宇宙の戦士（Nハインライン）
1961	史上初の宇宙飛行士Y・ガガーリンを乗せたソ連の有人宇宙船ボストーク1号、打ち上げられる。	「8マン」（桑田二郎） 「超犬リープ」（桑田二郎） 「パイロットA」（桑田二郎） 「電光オズマ」（松本零士）	エデン（Nレム） 失われた世界（The Lost World） 80万年後の世界へ／タイムマシン 海底人8823（T）
1962	アメリカのユニメーション社、初の産業用ロボットを販売。 X線星が発見される。	「ビッグX」（手塚治虫）	ナショナルキッド（T） 怪傑ハリマオ（T） エントロピー（Nピンチョン） 地衣騒動（Nウィンダム）
1963	オランダのフィリップス社、録音・再生カセットテープを開発。 ゲルマンとツワイクが素粒子のクォーク模型を提案	「サイボーグ009」（石ノ森章太郎） 「電人アロー」（一峰大二） 「丸出だめ夫」（森田拳次）	地球は青かった… ふしぎな少年（T） 人造美人（N星新一） ハスキル人（N高木彬光） ソラリス（Nレム） 異星の客（Nハインライン）
1964	東海道新幹線開通。 トランジスタ電卓が生産開始。		妖星ゴラス 砂の女（N安部公房） 美しい星（N三島由紀夫） ウは宇宙船のウ（Nブラッドベリ） 銀河帝国の創造（Nヴァン・ヴォート） 沈んだ世界（Nバラード） 海底軍艦 鉄腕アトム（T） 鉄人28号（T） エイトマン（T） 燃える傾斜（N眉村卓） 地には平和を（N小松左京） 猿の惑星（Nブール） 博士の異常な愛情 ビッグX（T） 日本アパッチ族（N小松左京） 復活の日（N小松左京）

※Nは小説、Tはテレビ、無印は映画

西暦	科学年表	空想科学漫画年表	空想科学エンターテインメント年表
1965	ソ連の宇宙飛行士A・A・レオノフ、史上初の宇宙遊泳に成功。 ペンジアスとウイルソンが宇宙背景放射を発見。ビッグバン理論を裏付ける。	「マグマ大使」（手塚治虫）	妖精配給会社（N星新一） パーマー・エルドリッチの三つの聖痕（Nディック） 最後の惑星船（Nハミルトン） 大怪獣ガメラ エスパイ（N小松左京） 東海道大戦争（N筒井康隆） 48億の妄想（N筒井康隆） スーパージェッター（T） W3（T） 遊星少年パピイ（T） ブラッドマネー博士（Nディック） 大魔神 バットマン ミクロの決死圏 ウルトラQ（T） ウルトラマン（T） マグマ大使（T） 火星で最後の…（N豊田有恒） 百億の昼と千億の夜（N光瀬龍） バベル＝17（Nディレイニー） 火星のタイム・スリップ（Nディック） 結晶世界（Nバラード） サンダーバード 大巨獣ガッパ 黄金バット（T） コメットさん（T） 光速エスパー（T） 虎は目覚める（N平井和正） 神への長い道（N小松左京） 時をかける少女（N筒井康隆） ベトナム観光公社（N筒井康隆）
1966	ソ連の無人月探査機ルナ9号、月面に軟着陸。 ソ連の金星3号、金星に到着。	「火の鳥」（手塚治虫） 「ザ・シャドウマン」（さいとう・たかを） 「ゴルゴ13」（さいとう・たかを）	
1967	ニューヨーク－パリ間の海外直通電話、開始。 ワインズバーグが「力の統一理論」を発表。		
1968	初の超音速旅客機、ソ連のツポレフTu-144就航。 ウィルソンらが「プレートテクトニクス理論」を発表。	「トイレット博士」（とりいかずよし） 「潜水艦スーパー99」（松本零士）	柔らかい時計（N荒巻義雄） アインシュタイン交点（Nディレイニー） 怪獣総進撃 猿の惑星 2001年宇宙の旅 怪奇大作戦（T） メトロポリスの虎（N平井和正） 幻想の未来（N筒井康隆） 2001年宇宙の旅（Nクラーク） アンドロイドは電気羊の夢を見るか？（Nディック） ネモ艦長と海底都市 退魔戦記（N豊田有恒） 霊長類南へ（N筒井康隆） わがセクソイド（N眉村卓） アンドロメダ病原体（Nクライトン） 狼男だよ（N平井和正） 家畜人ヤプー（N沼正三） 地球最後の男／オメガマン 電子的迷宮 時計じかけのオレンジ 赤ちゃんよ永遠に ミラーマン（T） 宇宙猿人ゴリ（T） シルバー仮面（T） 仮面ライダー（T） 石の血脈（N半村良） サイボーグブルース（N平井和正） サイレント・ランニング 惑星ソラリス 科学忍者隊ガッチャマン（T） マジンガーZ（T） 超人バロム1（T） レインボーマン（T）
1969	アポロ11号のアームストロングら、人類として初めて月面に降り立つ。 カニ星雲の中のX線パルサーを発見。	「ドラえもん」（藤子・F・不二雄） 「デビルキング」（さいとう・たかを） 「仮面ライダー」（石ノ森章太郎） 「バビル2世」（横山光輝） 「キテレツ大百科」（藤子・F・不二雄）	
1970	コンピュータの記憶保持のためのフロッピーディスクが考案される。	「デビルマン」（永井豪） 「マジンガーZ」（永井豪） 「人造人間キカイダー」（石ノ森章太郎） 「サンダーマスク」（手塚治虫）	
1971	ソ連のソユーズ3号で3飛行士が死亡。		
1972	アメリカの探査機パイオニア10号、打ち上げ。11年後、太陽系を離脱した初の人工物体となる。 アポロ計画が終了する。		

※Nは小説、Tはテレビ、無印は映画

西暦	科学年表	空想科学漫画年表	空想科学エンターテインメント年表
1973	A・M・コーマックら、CTスキャンを開発。	「ブラック・ジャック」（手塚治虫） 「ミクロイドS」（手塚治虫） 「キューティーハニー」（永井豪） 「ロボット刑事」（石ノ森章太郎） 「ダイモス」（横山光輝） 「科学忍者隊ガッチャマン」（吉田竜夫）	軍靴の響き（N半村良） おかしな先祖（N星新一） 喪われた都市の記録（N光瀬龍） 日本沈没 スリーパー
1974	地域気象観測システム「アメダス」が正式発足。	「真夜中の戦士」（永井豪） 「宇宙戦艦ヤマト」（松本零士） 「ゲッターロボ」（石川賢） 「新造人間キャシャーン」（吉田竜夫）	ドラえもん（T） 日本沈没（N小松左京） 黄金伝説（N半村良） クラッシュ（Nバラード）
1975	電卓やデジタル時計用の液晶画面がイギリスで初登場。 初のパソコン、アルタイル8800、アメリカで登場。	「グレート・マジンガー」（永井豪） 「ビコピコロボベエ」（ジョージ秋山） 「鋼鉄ジーグ」（永井豪） 「G.R.ナンバー5」（石ノ森章太郎） 「魔獣戦記」（石川賢）	重力の虹（Nピンチョン） エスパイ ノストラダムスの大予言 未来惑星ザルドス ゲッターロボ（T） 宇宙戦艦ヤマト（T） 大滅亡（N田中光二）
1976	T・キプル、宇宙ひも理論を提唱。 アメリカの探査機バイキング1、2号、初の火星軟着陸に成功。	「こちら葛飾区亀有公園前派出所」（秋本治） 「マーズ」（横山光輝） 「タイム・ボカン」（吉田竜夫） 「シッコモーロー博士」（吾妻ひでお） 「ギルガメッシュ」（石ノ森章太郎） 「ガルラ」（永井豪）	ローラーボール タイム・ボカン（T） 秘密戦隊ゴレンジャー（T） 妖星伝（N半村良） 時の葦船（N荒巻義雄） スフィンクスを殺せ（N田中光二）
1977	ニューヨークで初のエイズ（?）患者発見（エイズは1981年に確認される）。 天然痘、最後の報告。	「バタリロ！」（魔夜峰央）	キングコング 未来世界 メタモルフォセス群島（N筒井康隆） 異星の人（N田中光二） マン・プラス（Nポール）
1978	イギリスで史上初の試験管ベビー、誕生。 バイオ技術により「ポマト」がつくられる。	「ゴッド・アーム」（桑田二郎）	カプリコン・1 スター・ウォーズ スパイダーマン
1979	アメリカの探査機ボイジャー1、2号、木星に接近。リング、新衛星などを発見。 アメリカ・スリーマイル島にて原発事故起きる。	「ななこSOS」（吾妻ひでお） 「Dr.スランプ」（鳥山明） 「どっきりドクター」（細野不二彦）	ドクターモローの島 未知との遭遇 惑星大戦争 こちらニッポン……（N小松左京） マーシャル・インカ（Nワトスン）
1980	ボイジャー1号が土星の輪を探査。	「AKIRA」（大友克洋）	宇宙空母ギャラクティカ スーパーマン キャプテンフューチャー（T） アッシュー大宇宙の旅（N田中光二） エデンの戦士（N田中光二）
1981	K・イルメンゼーら、マウスで初の哺乳類クローン化に成功。 初のスペースシャトル・コロンビア号、成功。		カエアンの聖表（Nベイリー） エイリアン スター・トレック 007／ムーンレイカー メテオ
1982	CD登場。 アメリカで人工心臓の移植が行われる。		機動戦士ガンダム（T） 豹頭の仮面（N栗本薫） 幻魔大戦（N平井和正） 銀河の聖戦士（N田中光二） 夢幻会社（Nバラード） フラッシュ・ゴードン 猿丸幻視行（N井沢元彦） 太陽の世界（N半村良） Dr.スランプアラレちゃん（T） ひとめあなたに（N新井素子） あいつらの悲歌（N光瀬龍） 地球から来た男（N星新一） E.T. ブレードランナー 遊星からの物体X さよならジュピター（N小松左京） 最後の敵（N山田正紀） 神々の黄昏（N豊田有恒） 銀河英雄伝説（N田中芳樹）

※Nは小説、Tはテレビ、無印は映画

西暦	科学年表	空想科学漫画年表	空想科学エンターテインメント年表
1983	アップル社、コンピュータ用のマウスを導入。 ゴミ焼却によりダイオキシンが発生することが判明。	「県立地球防衛軍」（安永航一郎） 「みんなあげちゃう♡」（弓月光） 「闘将!!拉麺男」（ゆでたまご）	幻獣少年キマイラ（N夢枕獏） 宇宙からの衝撃（N田中光二） 2010年宇宙の旅（Nクラーク） ザ・デイ・アフター だいじょうぶマイ・フレンド グリーン・レクイエム（N新井素子） 絶句（N栗本薫） レダ（N新井素子） 異聞・ミッドウェー海戦（N豊田有恒） サイバーパンク（Nベスキ）
1984	S・A・ウィラドセンら、ヒツジのクローン化に成功。 インドのボパールで化学工場の事故により毒ガスがもれ、死者3000人、被災者30万人。 ヒヒの心臓を新生児に移植するも20日後に死亡。	「ドラゴンボール」（鳥山明）	1984 SFソードキル さよならジュピター スーパーガール 砂の惑星 ターミネーター フィラデルフィア・エクスペリメント 幻詩狩り（川又千秋） あなたにここにいて欲しい（N新井素子） 火星の大統領カーター（N栗本薫） 日曜日には宇宙人とお茶を（N火浦功） 宇宙皇子（N藤川桂介） ニューロマンサー（Nギブスン） 緑の瞳（Nシェパード） フロンテラ（Nシャイナー） コクーン ディーゼル バック・トゥ・ザ・フューチャー 未来警察ブラジル 首都消失（N小松左京） 魔女でもステディ（N岬兄悟） スキズマトリックス（Nスターリング） ブラッド・ミュージック（Nベア） 空を飛んだ少年（Nラッカー） ザ・フライ 天空の城ラピュタ 笑い宇宙の旅芸人（Nかんべむさし） 魔界都市ブルース（N菊池秀行） 首都消失 パパの原発（Nレイトロー） 竹取物語 ロボコップ 帝都物語（N荒俣宏） 創竜伝（N田中芳樹） 2061年宇宙の旅（Nクラーク） 第7の予言 岬一郎の抵抗（N半村良） 今はもういないあたしへ…（N新井素子） 魔界医師メフィスト（N菊池秀行） 妖獣都市（N菊池秀行） 地球樹の女神（N平井和正） バットマン ガンヘッド 上弦の月を喰べる獅子（N夢枕獏） トータル・リコール ミュータント・タートルズ アド・バード（N椎名誠） 緑幻想（N新井素子） ガイバー 超少女REIKO サラマンダー殲滅（N梶尾真治） バーチャル・ウォーズ ユニバーサル・ソルジャー 朝のガスパール（N筒井康隆）
1985	ハレー彗星が飛来。 レーガン大統領がSDI構想を提言。	「コージ苑」（相原コージ） 「究極超人あ～る」（ゆうきまさみ）	
1986	ソ連のチェルノブイリで原発事故。 スペースシャトル・チャレンジャー号が爆発。	「CYBORGじいちゃんG」（土方茂） 「ナマケモノが見てた」（村上たかし） 「Spirit of Wonder」（鶴田謙二） 「So What?」（わかつきめぐみ）	
1987	中国でヒト成長ホルモン遺伝子を魚に導入。その結果、正常の4倍に成長。 大マゼラン星雲に超新星が観測される。	「仮面ライダーBlack」（石ノ森章太郎） 「シークレットレディ」（千之ナイフ）	
1988	ブラジルで史上初の生体肝移植。	「ああっ女神さまっ」（藤島康介） 「機動警察パトレイバー」（ゆうきまさみ） 「AtLady!」（のむら剛） 「天才柳沢教授の生活」（山下和美） 「3×3EYES」（高田裕三）	
1989	ボイジャー2号、海王星に接近。以後、太陽系外へ。	「伝染るんです。」（吉田戦車）	
1990	性決定遺伝子が発見される。	「サディスティック・19」（立花晶） 「万能文化猫娘」（高田裕三） 「幽☆遊☆白書」（冨樫義博） 「新・ジャングルの王者ターちゃん」（徳弘正也）	
1991	日本でハイビジョン試験放送開始。	「南国少年パプワくん」（柴田亜美） 「岸和田博士の科学的愛情（トニーたけざき） 「黒いチューリップ」シリーズ（東城和実） 「銃夢」（木城ゆきと） 「赤ずきんチャチャ」（彩花みん）	
1992	地球サミット「環境と開発に関する国連会議」が開催される。		

※Nは小説、Tはテレビ、無印は映画

西暦	科学年表	空想科学漫画年表	空想科学エンターテインメント年表
1993	SDI構想が中止される。	「浦安鉄筋家族」（浜岡賢次）	黄金の少女（N平井和正） 火星からのメッセージ（Nバラード） コーンヘッズ ジュラシック・パーク スーパーマリオ／魔界帝国の女神 デモリッションマン ヴィーナス・シティ（N柾恒郎） 月の王（N夢枕獏） 死人機甲団（N菊池秀行）
1994	「最後の基本粒子」トップクォークが発見された、とアメリカのフェルミ研究所が発表。	「名探偵コナン」（青山剛昌） 「B'T-X」（車田正美） 「黒鉄」（冬目景） 「ぷりぷり県」（吉田戦車）	
1995	高速増殖炉もんじゅのナトリウム漏れ事故発生。	「爆走兄弟レッツ&ゴー」（こしたてつひろ） 「新世紀エヴァンゲリオン」（貞本義行） 「カームブレイカー」（岩瀬昌嗣） 「お江戸忍法帖」（たがみよしひさ）	アポロ13 T-レックス パワーレンジャー 新世紀エヴァンゲリオン（T） ボヘミアンガラス・ストリート（N平井和正） インデペンデンス・デイ D.N.A 12モンキーズ JM
1996	T・コルボーンら、環境ホルモンによる生殖異常を訴える。 イギリスでクローン羊誕生。	「遊撃宇宙戦艦ナデシコ」（麻宮騎亜） 「とんでもナイト」（小坂理絵） 「おまかせ！ピース電器店」（能田達規）	機動戦艦ナデシコ（T） 日本占領（N豊田有恒） 月光魔術団（N平井和正） メン・イン・ブラック ロスト・ワールド
1997	京都会議で地球温暖化問題が討議される。	「MAICO2010」（清水としみつ） 「狂四郎2030」（徳弘正也） 「エクセル・サーガ」（六道神士） 「砲神エグザクソン」（園田健一） 「おーえど娘忍者」（私屋カヲル） 「鋼鉄天使くるみ」（介錯） 「戦うメイドさん！」（西野つぐみ）	アルマゲドン
1998	韓国でヒト・クローンの作成に成功と発表。		

※Nは小説、Tはテレビ、無印は映画

◆漫画博士たちが活躍した作品ファイル

お茶の水博士　天馬博士

『鉄腕アトム』 作画／手塚治虫　「少年」（光文社）1952〜1968年連載

七つの威力をもつスーパーロボット・アトムの活躍を描く日本SF漫画の金字塔。日本初の連続テレビアニメにもなった国民的アイドル。アメリカにも輸出され、ロボットのグローバルスタンダードに。手塚治虫の代表作だ。

猿田博士

『火の鳥未来編』 作画／手塚治虫「COM」（虫プロ商事）1967〜1968年連載

永遠の生命の象徴、火の鳥の目を通して人間の根源を問う日本漫画史に燦然と輝く傑作。「未来編」は全12編の「エピソードXII」にあたる。

谷博士

『8マン』 作／平井和正　画／桑田二郎「週刊少年マガジン」（講談社）1963〜1966年連載

警視庁8番目の刑事8マンの活躍を描く。エッジの効いた描線とシャープなデザインは、時を経ても少しも古びていない。それどころか、電脳やレーザー光線など、時代を先取りした技術を紹介した先見性には脱帽。

敷島博士

『鉄人28号』 作画／横山光輝　「少年」（光文社）1956〜1966年連載

少年探偵・金田正太郎君が鉄人28号を操り、悪の組織と敢然と戦う姿を描く。アニメ化もされ一世を風靡。鉄人は巨大ロボットの代名詞となった。作者によるとフランケンシュタインの怪物にインスパイアされたという。

兜十蔵博士・兜剣造博士

『マジンガーZ』作画／永井豪　「週刊少年ジャンプ」（集英社）1972〜1973年連載
『グレート・マジンガー』作画／永井豪　「テレビマガジン」（講談社）1974〜1975年連載

兜親子が造った巨大ロボットが次々と襲来する人類の敵と戦う「マジンガー・サーガ」は、空想科学漫画の古典として、ひときわ高くそびえる巨大山脈だ。キャラクター玩具でも超合金ものというジャンルを確立する。

則巻博士

『Dr.スランプ』作画／鳥山明　「週刊少年ジャンプ」（集英社）1980〜1984年連載

人間とロボットと動物たちが共存するユートピア・ペンギン村を舞台に、則巻博士とアラレちゃんが巻き起こす騒動を描く。圧倒的な絵の巧さで、それ以後のマンガのタッチを変えてしまった革命的作品。アニメも大人気。

岸和田博士

『岸和田博士の科学的愛情』作画／トニーたけざき　「アフタヌーン」（講談社）1992〜1998年連載

史上最強のマッドサイエンティスト・岸和田博士が日本防衛軍顧問という地位を悪用、やりたい放題のハチャメチャぶりを描く。驚異の画力による偏執的なまでの描き込みで見る者を圧倒。博士漫画のひとつの到達点だ。

●参考書籍
「やさしいアンドロイドの作り方」福江純著　大和書房／「SFアニメを天文する」福江純著　日本評論社／「宇宙の創造と時間」佐藤隆生著　TBSブリタニカ／「宇宙の果てにせまる」野本陽代著　岩波書店／「新版20世紀理科年表」山口幸夫著　岩波書店／「科学教の迷信」池田清彦著　洋泉社／「科学者とは何か」村上陽一郎著　新潮社／「「相対性理論」を楽しむ本」佐藤勝彦監修　PHP研究所／「宇宙150億年の旅」広瀬立成著　日本評論社／「POPな宇宙論」佐藤勝彦監修　同文書院／「よくわかる哲学のはなし」鷲田小彌太著　東京書籍／「哲学を知ると何が変わるか」鷲田小彌太著　講談社／「手塚治虫の奇妙な世界」石上三登志著　学陽書房

●参考作品
「ああっ女神さまっ」藤島康介　講談社／「赤ずきんチャチャ」彩花みん　集英社／「AKIRA」大友克洋　講談社／「宇宙博士」桑田二郎　アップルBOXクリエート／「浦安鉄筋家族」浜岡賢次　秋田書店／「8マン」作・平井和正　画・桑田二郎　秋田書店／「エクセル・サーガ」六道神士　少年画報社／「お江戸忍法帖」能田達規　秋田書店／「カームブレイカー」岩瀬昌嗣　講談社／「科学忍者隊ガッチャマン」吉田竜夫　集英社／「おまかせ！　ピース電器店」能田達規　秋田書店／「おーえど娘忍者」私屋カヲル　小学館／「At Lady!」のむら剛　サン企画／「ガルラ」永井豪　講談社／「銃夢」木城ゆきと　集英社／「岸和田博士の科学的愛情」トニーたけざき　講談社／「キテレツ大百科」藤子・F・不二雄　中央公論社／「機動警察パトレイバー」ゆうきまさみ　小学館／「機動戦士ガンダム」作・矢立肇、富野由悠季　画・岡崎優　大都社／「究極超人あ〜る」　ゆうきまさみ　小学館／「キューティーハニー」永井豪　秋田書店／「狂四郎2030」徳弘正也　集英社／「シークレットレディ」千之ナイフ　久保書店／「巨人16号」桑田二郎　アップルBOXクリエート／「グレート・マジンガー」永井豪　大都社／「黒いチューリップ」シリーズ東城和実　新書館／「黒鉄」冬目景　講談社／「ゲッターロボ」永井豪　双葉社／「鋼鉄天使くるみ」介錯　角川書店／「鋼鉄ジーグ」永井豪　大都社／「コージ苑」相原コージ　小学館／「こちら葛飾区亀有公園前派出所」秋本治　集英社／「ゴッド・アーム」桑田二郎　双葉社／「ゴルゴ13」さいとう・たかを　小学館／「CYBORGじいちゃんG」土方茂　集英社／「3×3EYES」高田祐三　講談社／「ザ・シャドウマン」さいとう・たかを　秋田書店／「サディスティック・19」立花晶　白泉社／「シークレットレディ」千之ナイフ　久保書店／「少年ジェット」武内つなよし　アース出版局／「シッコモーロー博士」吾妻ひでお　朝日ソノラマ／「新世紀エヴァンゲリオン」作・GAINAX　画・貞本義行　角川書店／「新造人間キャシャーン」吉田竜夫　サン企画／「新・ジャングルの王者ターチャン」徳弘正也　集英社／「Spirit of Wonder」鶴田謙二　講談社／「潜水艦スーパー99」松本零士　秋田書店／「So What?」わかつきめぐみ　白泉社／「タイム・ボカン」吉田竜夫　オハヨー出版／「戦うメイドさん！」西野つぐみ　ぶんか社／「闘将!!　拉麺男」ゆでたまご　集英社／「超犬リープ」桑田二郎　秋田書店／「手塚治虫漫画全集」手塚治虫　講談社／「鉄人28号」横山光輝　光文社／「鉄人ブラック」桑田二郎　アップルBOXクリエート／「デビルキング」さいとう・たかを　さいとう・プロ／「デビルマン」永井豪　講談社／「電光オズマ」松本零士　若木書房／「天才柳沢教授の生活」山下和美　講談社／「電人アロー」一峰大二　秋田書店／「トイレット博士」とりいかずよし　集英社／「Dr.スランプ」鳥山明　集英社／「ドッキリドクター」　細野不二彦　小学館／「ドラゴンボール」鳥山明　集英社／「とんでもナイト」小坂理絵　講談社／「ナショナル・キッド」一峰大二　サン出版／「ナマケモノがみていた」村上たかし　集英社／「パタリロ！」魔夜峰央　白泉社／「万能文化猫娘」高田裕三　双葉社／「B'T-X」車田正美　角川書店／「ピコピコロボベエ」ジョージ秋山　秋田書店／「ぶりぶり県」吉田戦車　小学館／「MAICO2010」清水としみつ　少年画報社／「魔獣戦線」石川賢　双葉社／「マジンガーZ」永井豪　中央公論社／「まぼろし探偵」桑田二郎　少年画報社／「真夜中の戦士」永井豪　講談社／「丸出だめ夫」森田拳次　秋田書店／「みんなあげちゃう♡」弓月光　集英社／「宗像教授伝奇考」星野之宣　潮出版／「MONSTER」浦沢直樹　小学館／「幽☆遊☆白書」冨樫義博　集英社
※本書制作にあたりご協力頂いた作家の方々、出版社の方々に心より御礼申し上げます。

おわりに

１９４０年代から１９６０年ごろの間、ＳＦ漫画のことを空想科学漫画と呼んでいた。そこに登場する博士たちはまさに天才揃いで、ちょちょいのちょいとロボットやタイムマシンを作り、クローン人間も朝飯前、世界滅亡の最終兵器なんかもぞろぞろ発明していた。それもたったひとり、せいぜい２～３コマでだ。

すっかり死語となった「末は博士か大臣か」は、頭のよさそうな子供をほめたたえる言葉だった。それくらい、昔の博士の地位は高かった。

科学は人類を幸福にする。本気でそう考えられていた、科学万能の時代の言葉である。漫画のなかでの博士たちは、研究者らしい視野の狭さは見られるものの、おおむね世間から一目置かれ、好き勝手な研究に没頭することができた。

原子力が開発され、実用化されるようになると、一方で、最終兵器としての原水爆の使用に対して、警鐘を鳴らしながらも、科学に対する信頼はさほど揺らぐことはなかった。要は使う側の人間次第ということで、科学の平和利用に対しての夢はますます大きくなる。テレビ、レンジ、冷蔵庫、洗濯機などの家電製品は生活を便利にし、リニアモーターカーや人工衛星は少年の夢を育んだ。博士たちは次々と新発明に躍起になった。

しかしアポロ11号が月面着陸した時を頂点に、科学信奉は下降線を描く。

化学薬品や廃棄物などによる公害問題、ごみ処理問題、そして環境破壊に加えて環境ホルモンによる人類滅亡説、自然回帰に健康志向までが敵にまわってしまっては、博士たちの旗色は悪い。しかも、博士ひとりで大発明をするという時代から、科学者の研究チームでの改良開発が主流になるなど、世の中の動きと相まって、大臣の凋落ぶりほどひどくはないにしろ、博士たちに対するスーパースターのイメージは遠ざかり、ただただ地味な研究者になりさがり、その他大勢のスタッフにまで落ちぶれてしまったのである。

そう、今や、フロッピーディスクを発明したドクター中松氏のように、漫画に登場する博士達もすっかりお笑い芸人のように扱われ、ギャグの対象でしかないのだ。

かつてのスーパー博士は少年の夢とともに死んだ。

われわれ空想科学漫画研究所では、本書で20世紀の空想科学漫画とそこに登場した１０００１６８人の博士たちの業績を振り返り、皆さんとともに、顕彰できたらいいなーと心から思う次第である。

１９９９年５月　空想科学漫画研究所所長　瀬戸龍哉
主任教授　山本敦司

派出所」210
東郷直樹「ゴット・アーム」147
動物新種改良研究所所長「こちら葛飾区亀有公園前派出所」211
Dr.イチガキ「幽☆遊☆白書」223
ドクターM「ナマケモノが見てた」232
ドクターゲロ「ドラゴンボール」209
ドクター・ヘル「マジンガーZ」160
Dr.マシリト「Dr.スランプ」208
Dr.八巻「黒いチューリップ」シリーズ 208
匿名「狂四郎2030」214
戸沢博士「鉄腕アトム」65
特許特太郎「こちら葛飾区亀有公園前派出所」210
トミー「鉄腕アトム」63
土門竜二「とんでもナイト」215
ドラグネット博士「鉄人28号」159
ドン・ペレス・プラド博士「鉄腕アトム」64

な

夏目久作「万能文化猫娘」222
成原成行「究極超人あ〜る」224
難波博士「Sprit of Wonder」234
南部博士「科学忍者隊ガッチャマン」150
ナンデモカンデモ博士「漫画天文学」「漫画生物学」など出演作品多数 70
錦小路はるか「どっきりドクター」229
西脇順一「機動警察パトレイバー」225
西脇冴子「機動警察パトレイバー」224
荷姪妖造「少年ジェット」147
野津井博士「まぼろし探偵」145
ノッコ「W3」70
則巻博士「Dr.スランプ」163

は

バイオ研究所所長「こちら葛飾区亀有公園前派出所」211
灰戸博士「鉄腕アトム」67
バイブル博士「宇宙博士」146
旗竜作「ナショナル・キッド」154
パタリロ・ド・マリネール8世「パタリロ！」225
花丸博士「来るべき世界」「ビッグX」など出演作品多数72
パブロス博士「鉄腕アトム」63
バリバリー博士「鉄腕アトム」66
春田純一「At Lady!」216
ピース貫太郎「おまかせ！ ピース電器店」226
ピース健太郎「おまかせ！ ピース電器店」226
人爪博士「鉄腕アトム」64
百万人の博士たち「魔法屋敷」74
平賀源成「おーえど娘忍者」232
平間源吉「黒鉄」227
ファーブル博士「Sprit of Wonder」234
フーラー博士「鉄腕アトム」65
藤井一「3×3 EYES」222
不二博士「電人アロー」155
プラス博士「ジャングル大帝」73
ブラック・ジャック「ブラック・ジャック」72
不乱拳博士「鉄人28号」160
ブリーフ博士「ドラゴンボール」209
ブルマ「ドラゴンボール」209
ブレッケンリッジ博士「Sprit of Wonder」235
ペダン博士「鉄腕アトム」63
ベルナルド・シュルツ「ゴルゴ13」212
ベルマイヤー博士「ゴルゴ13」213
暮里博士「So What?」217
ボンコッツ博士「鉄腕アトム」68

ま

マイナス博士「ジャングル大帝」73
牧博士「超犬リーブ」143
牧村博士「鉄人28号」160
松戸狂授「At Lady!」216
間宮善一「みんなあげちゃう♡」226
丸出はげ照「丸出だめ夫」151
ミケネコ博士「赤ずきんチャチャ」207
水沢博士「8マン」159
水野博士「ナショナル・キッド」154
水原博士「ガルラ」156
美土路博士「ミクロイドS」71
ミノス博士「科学忍者隊ガッチャマン」150
雅狂志郎「シークレットレディ」218
宗像伝奇「宗像教授伝奇考」215

や

屋敷ムサシ「とんでもナイト」215
矢似鳩太「鉄腕アトム」66
柳沢良則「天才柳沢教授の生活」231
山田ジロウ「鉄腕アトム」67
山田博士「パイロットA」151
雪杉博士「鉄腕アトム」67
ユダ博士「魔獣戦線」158
弓弦之助「マジンガーZ」160

ら

ラム博士「鉄腕アトム」68
リチャード・パトリッチ「ゴルゴ13」213
ロッス博士「鉄腕アトム」69

わ

Y教授「鉄腕アトム」65

博士さくいん

(左から順に博士・作品・ページ)

あ

赤木リツコ「新世紀エヴァンゲリオン」229
浅岡博士「少年ジェット」147
朝雲博士「ビッグX」71
飛鳥教授「デビルマン」157
東光太郎「新造人間キャシャーン」151
東博士「鉄人ブラック」146
アブーラ博士「鉄腕アトム」69
天川博士「鉄腕アトム」68
綾小路博士「鋼鉄天使くるみ」233
有田千里「カームブレイカー」220
アルバトフ少将「ゴルゴ13」213
アルベルト博士「ジャングル大帝」73
井塩春三「鉄腕アトム」66
イド・ダイスケ「銃夢」228
ウィンディ・リンドヴァーバーグ「Sprit of Wonder」235
植木田博士「Sprit of Wonder」235
ウェブナー教授「ゴルゴ13」212
ウッズ博士「鉄腕アトム」67
ウルド「ああっ女神さまっ」217
Xファイター「電人アロー」155
エンゲル博士「ビッグX」71
大江博士「8マン」159
大沢木晴郎「浦安鉄筋家族」233
沖博士「潜水艦スーパー99」152
沖博士「電人アロー」154
小沢伝次郎「黒いチューリップ」シリーズ 208
小田利マスダマス良子「MAICO2010」223
お茶の水博士「鉄腕アトム」11
御茶蓑図博士「戦うメイドさん！」231
オビ「超犬リーブ」146

か

壊造時次郎「CYBORGじいちゃんG」207
ガイ・ハミルトン「ゴルゴ13」212
火鳥ジュン「真夜中の戦士」156
ガニ平博士「ピコピコロボベエ」153
兜剣造「グレート・マジンガー」140
兜十蔵「マジンガーZ」121
蒲腐博士「エクセル・サーガ」250
木江田博士「タイム・ボカン」150
機械屋金吾郎「お江戸忍法貼」222
如月博士「キューティーハニー」156
岸和田博士「岸和田博士の科学的愛情」183
キテレツ斉「キテレツ大百科」211
久留間博士「魔獣戦線」158
黒沼博士「電人アロー」155
月餅「闘将!!拉麺男」227
ゲルニカ博士（仮名）「鉄腕アトム」64
ゲルハルト・ハインリッヒ「ゴッド・アーム」147
ケルベロス研究所所長「新・ジャングルの王者ターちゃん」214
高野博士「地球の悪魔」72
ゴジ博士「鉄腕アトム」69
小早川令次郎「デビルキング」149

さ

早乙女博士「ゲッターロボ」148
坂崎俊也「カームブレイカー」220
猿田博士「火の鳥」32
敷島博士「鉄人28号」103
シッコモーロー博士「シッコモーロー博士」148
司馬博士「鋼鉄ジーグ」157
下柳「カームブレイカー」220
シャーロック・スケルマーズデイル「Sprit of Wonder」235
社礼頭毒郎「CYBORGじいちゃんG」207
ジュヴィナイルAのメンバーたち「AKIRA」221
ジョージ「ピコピコロボベエ」153
シンプソン博士「ゴルゴ13」213
水道橋博士「こちら葛飾区亀有公園前派出所」210
杉田「MAICO2010」223
スクルド「ああっ女神さまっ」217
ストレンジ ラブ「シークレットレディ」218

た

多井留博士「シークレットレディ」219
高宮鋼太郎「B'T-X」230
滝沢三郎「ザ・シャドウマン」149
たけし博士「ぶりぶり県」209
田手上博士「0マン」73
田所博士「コージ苑」219
谷博士「8マン」77
煙草好きの科学者「AKIRA」221
塚森博士「電光オズマ」152
月見博士「まぼろし探偵」145
津森（父）「サディスティック・19」225
出府野博士「巨人16号」145
デーモン博士「8マン」159
敵烈藤男「浦安鉄筋家族」226
テム・レイ「機動戦士ガンダム」149
天馬賢三「MONSTER」228
天馬博士「鉄腕アトム」41
トイレット博士「トイレット博士」148
東京発明研究所所長「こちら葛飾区亀有公園前

漫画博士読本

著者
瀬戸龍哉
山本敦司

発行／1999年6月14日　初刷
発行人／蓮見清一
発行所／株式会社宝島社
郵便番号102-8388　東京都千代田区一番町25番地
郵便振替＝00170-1-170829　（株）宝島社
電話番号＝営業部＝03-3234-4621　編集部03-3239-5746
印刷・製本／廣済堂印刷株式会社

●乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社営業部宛にご送付ください。
送料小社負担にてお取り替えいたします。

ISBN4-7966-1517-2
©Tatsuya SETO／Atsushi YAMAMOTO 1999 Printed in Japan